取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

SIENTA

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 12
検索のしかた 13
イラスト目次 14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 26
安全なドライブのために 27
シートベルト 29
SRS エアバッグ 34
排気ガスに対する注意 40

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート 42

1-3. コネクティッドサービス
T-Connect エントリー（22） 64

1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 81
ハイブリッドシステムの注意 84

1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 88
オートアラーム 89

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 92
計器類（4.2 インチディスプレイ）97
計器類（7 インチディスプレイ）102
マルチインフォメーションディスプレイ（4.2 インチディスプレイ）109
マルチインフォメーションディスプレイ（7 インチディスプレイ）.... 116
エネルギーモニター／燃費画面. 122

3 運転する前に

3-1. キー
キー 128
デジタルキー 131

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 134
スライドドア 138
バックドア 150
スマートエントリー&スタートシステム 153

3-3. シートの調整
フロントシート 159
助手席ターンチルトシート 160
セカンドシート 165
サードシート（7 人乗り車）..... 169
ヘッドレスト 170
シートアレンジ 173

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 180
インナーミラー 181
ドアミラー 182
補助確認装置 183

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 185

3-6. お好み設定
マイセッティング 188

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 191
荷物を積むときの注意 198

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 200
EV ドライブモード 205
トランスミッション（ストレートタイプ） 207
トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプ） 210
方向指示レバー 214
パーキングブレーキ 214
ブレーキホールド 218

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 221
AHS（アダプティブハイビームシステム） 226
AHB（オートマチックハイビーム） 229
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 231
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 234

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 236

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車） 238
Toyota Safety Sense 240
PCS（プリクラッシュセーフティ） 247
LTA（レーントレーシングアシスト） 256
LDA（レーンディパーチャーアラート） 261
PDA（プロアクティブドライビングアシスト） 266
発進遅れ告知機能 271
RSA（ロードサインアシスト） .. 273
レーダークルーズコントロール . 276
クルーズコントロール 284
ドライバー異常時対応システム . 287
BSM（ブラインドスポットモニター） 289
クリアランスソナー 294
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 303
RCD（リヤカメラディテクション） 308
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 312
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]） 316
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 320
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者） 321
トヨタチームメイト アドバンストパーク 323
ドライブモードセレクトスイッチ 347
運転を補助する装置 348
プラスサポート（販売店装着オプション） 354

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 359
寒冷時の運転 361

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン 366
天井サーキュレーター 372
ステアリングヒーター／シートヒーター 373

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 375

5-3. 収納装備
収納装備一覧 377
ラゲージルーム内装備 381

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 384
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 389
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 397

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 402
内装の手入れ 405

6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 408
ガレージジャッキ 410
ウォッシャー液の補充 411
タイヤについて 411
タイヤ交換 413
タイヤ空気圧について 418
エアコンフィルターの交換 419
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 421
キーの電池交換 425
ヒューズの点検・交換 427
電球（バルブ）の交換 429

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 434
非常点滅灯（ハザードランプ） 435
発炎筒 435
車両を緊急停止するには 436
水没・冠水したときは 437
車中泊が必要なときは 438

7-2. 緊急時の対処法
けん引について 439
警告灯がついたときは 445
警告メッセージが表示されたときは 452
パンクしたときは 459
ハイブリッドシステムが始動できないときは 469
キーをなくしたときは 471
電子キーが正常に働かないときは 471
補機バッテリーがあがったときは 473
オーバーヒートしたときは 479
スタックしたときは 482
助手席ターンチルトシートが車外に出た状態で回転できないときは 483

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 486

8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能 492

8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 508

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア
フリー／オープンソースソフトウェア情報について 509

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）512
車から音が鳴ったときは（音さくいん）514
アルファベット順さくいん516
五十音順さくいん518

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

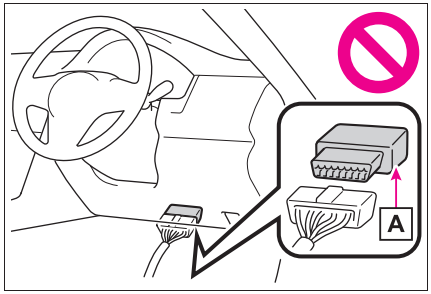
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ※1

※1グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数、アクセルペダルの操作状況、ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）※2

※2車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Senseによるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます。）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術、商品開発、品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム
● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.354）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO_2 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

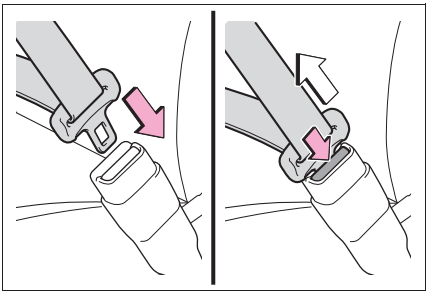
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

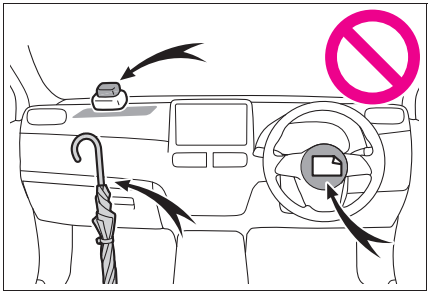
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



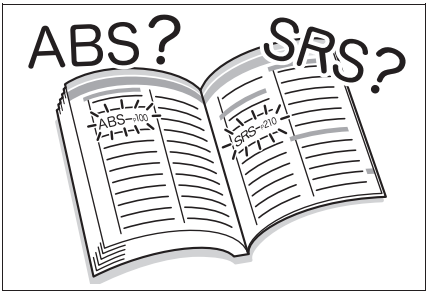
記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

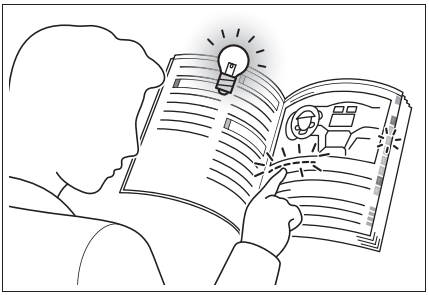
●五十音順さくいん：→P.518

●アルファベット順さくいん：→P.516



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14



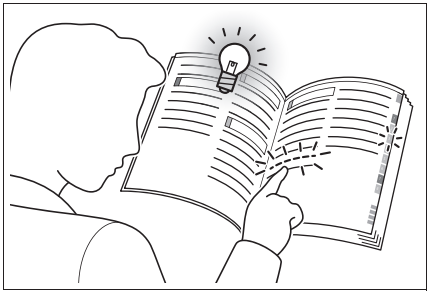
■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.512

●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.514

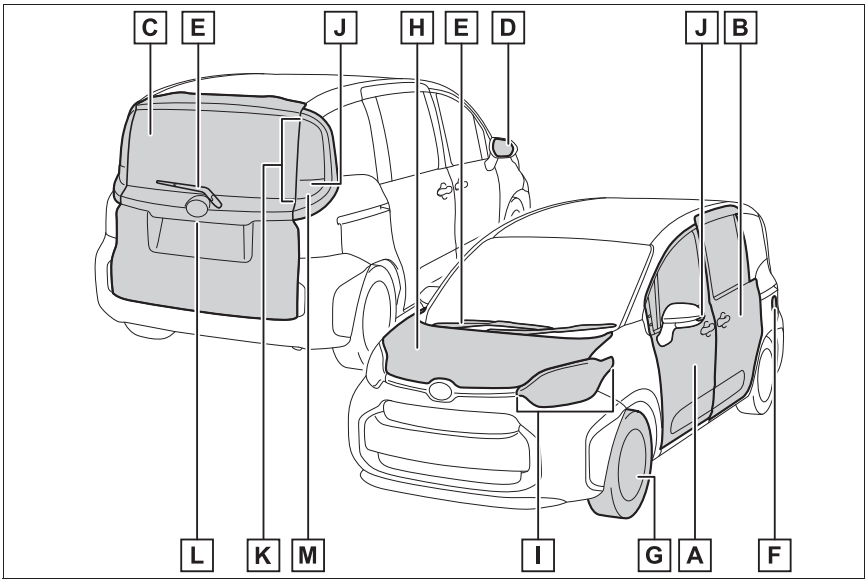
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A フロントドア P.134

施錠／解錠 P.134, 137

ドアガラスの開閉 P.185

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.471

警告ブザー P.137

B スライドドア P.138

施錠／解錠 P.139

スライドドアの開閉 P.149

パワースライドドア P.140

ドアガラスの開閉 P.185

警告ブザー P.137

C バックドア P.150

施錠／解錠 P.151

バックドアの開閉 P.152

警告ブザー P.137

D ドアミラー **P.182**

鏡面の角度調整 P.182

ミラーの格納 P.183

曇りを取る（ミラーヒーター）★ P.367

E ワイパー **P.231, 234**

冬季の注意 P.361

凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ P.370

F 給油口 **P.236**

給油方法 P.236

燃料の種類・燃料タンク容量 P.486

G タイヤ **P.411**

サイズ・空気圧 P.490

冬用タイヤ・タイヤチェーン P.361

点検・ローテーション P.411

パンク時の対処 P.459

H ボンネット **P.408**

開け方 P.408

エンジンオイル P.486

オーバーヒート時の対処 P.479

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.429, ワット数：P.490）

I ヘッドランプ・車幅灯・方向指示灯 **P.214, 221**

J 方向指示灯 **P.214**

K 尾灯 **P.221**

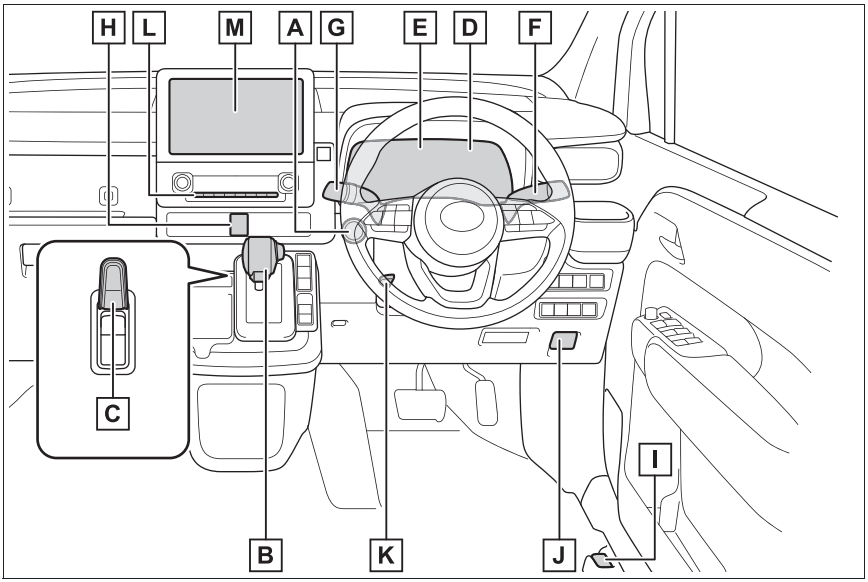
L 番号灯 **P.221**

M 後退灯

シフトポジションをRにする P.207, 210

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A パワースイッチ P.200

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.200
ハイブリッドシステムの緊急停止 P.436
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.469
警告メッセージ P.452

B シフトレバー（ストレートタイプ） P.207

シフトポジションの切りかえ P.208
けん引時の注意 P.439
シフトレバーが動かないときの対処 P.208

C シフトレバー（エレクトロシフトマチックタイプ） P.210

シフトポジションの切りかえ P.210
けん引時の注意 P.439

D メーター **P.97, 102**
見方・明るさの調整 P.97, 102
警告灯／表示灯 P.92
警告灯点灯時の対処 P.445

E マルチインフォメーションディスプレイ **P.116**
表示内容 P.116
警告メッセージ表示時の対処 P.452

F 方向指示レバー **P.214**
ランプスイッチ **P.221**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯 P.221

G ワイパー&ウォッシャースイッチ **P.231, 234**
使い方 P.231, 234
ウォッシャー液の補充 P.411

H 非常点滅灯スイッチ **P.435**

I 給油扉オープナー **P.237**

J ボンネット解除レバー **P.408**

K ハンドル位置調整レバー **P.180**
調整方法 P.180

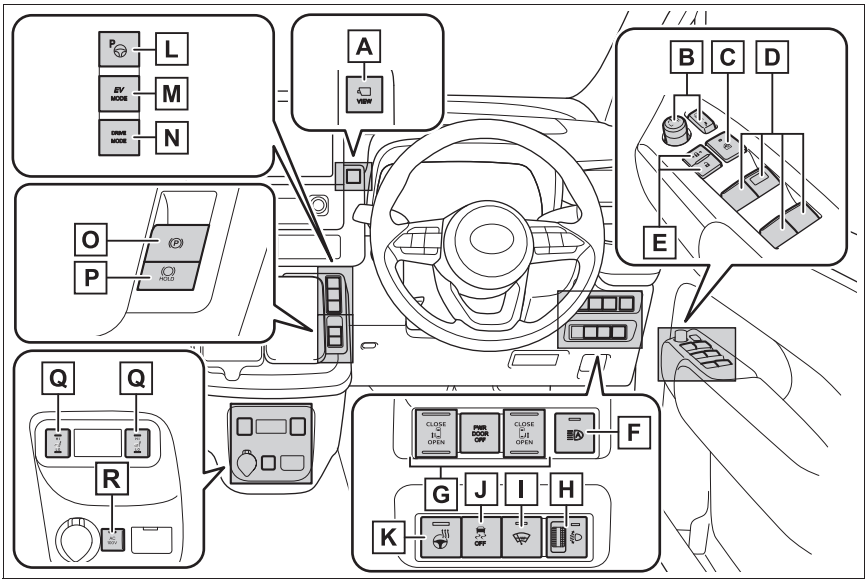
L エアコン **P.366**
操作方法 P.366
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） .. P.367

M オーディオ★ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類



A カメラスイッチ※★

B ドアミラースイッチ P.182

C ウインドウロックスイッチ P.187

D パワーウインドウスイッチ P.185

E ドアロックスイッチ P.137

F アダプティブハイビームシステムスイッチ★ P.226

オートマチックハイビームスイッチ P.229

G パワースライドドアメインスイッチ（PWR DOOR OFF） P.149

パワースライドドアスイッチ P.140

H 手動光軸調整ダイヤル★ P.224

I フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.370

J VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.349

K ステアリングヒータースイッチ★ P.373

L アドバンストパーク（運転支援システム）メインスイッチ★ P.328

M EV ドライブモードスイッチ P.205

N ドライブモードセレクトスイッチ P.347

O パーキングブレーキスイッチ P.214

かける・解除する P.214

冬季の注意 P.362

警告ブザー・警告メッセージ P.217, 445

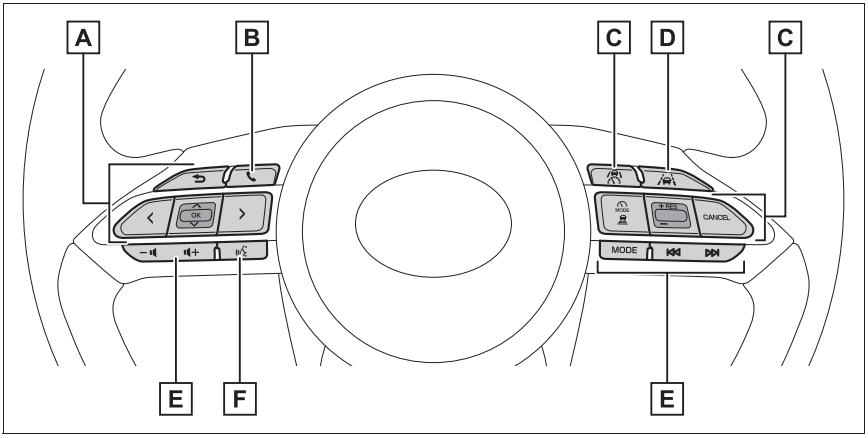
P ブレーキホールドスイッチ P.218

Q シートヒータースイッチ★ P.373

R AC100V スイッチ★ P.389

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A メーター操作スイッチ P.110, 117

B 電話スイッチ※ P.388

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.276

クルーズコントロール P.284

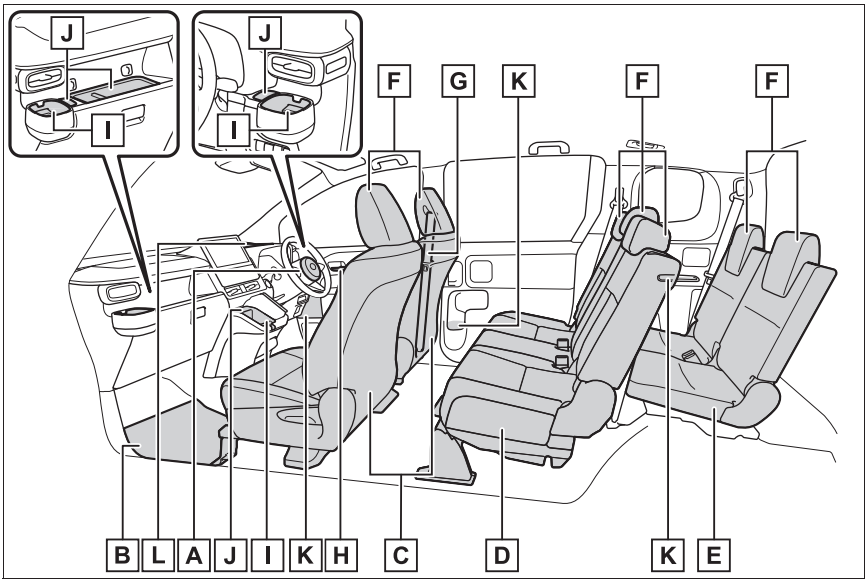
D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.256

E オーディオスイッチ※ P.388

F トークスイッチ※ P.388

※ マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.34

B フロアマット P.26

C フロントシート P.159

助手席ターンチルトシート★ P.160

D セカンドシート P.165

E サードシート★ P.169

F ヘッドレスト P.170

G シートベルト P.29

H ロックレバー P.137

I カップホルダー P.378

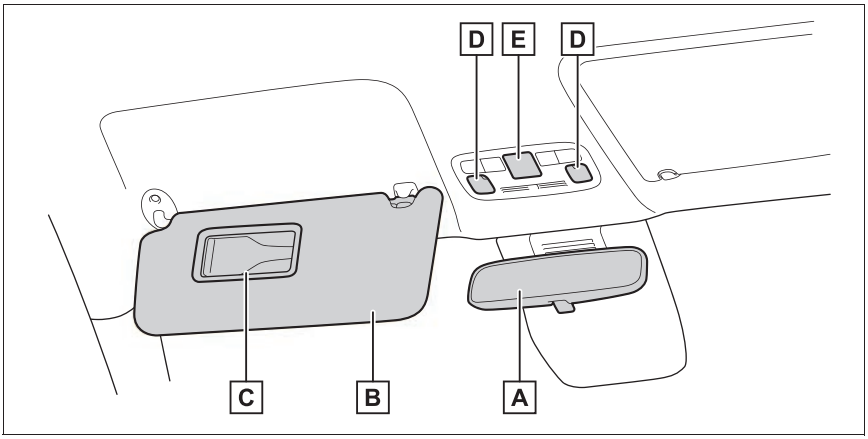
J オープントレイ P.380

K ボトルホルダー P.379

L 小物入れ P.380

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井



A インナーミラー P.181

B サンバイザー※1 ..... P.384

C バニティミラー P.384

D フロントインテリアランプ・パーソナルランプ P.375

E ヘルプネットボタン※2 ..... P.64

※1助手席ターンチルトシート非装着車：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.44)
助手席ターンチルトシート装着車：助手席にチャイルドシートを取り付けることはできません。

※2マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 26
安全なドライブのために 27
シートベルト 29
SRS エアバッグ 34
排気ガスに対する注意 40

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート 42

1-3. コネクティッドサービス
T-Connect エントリー（22）... 64

1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 81
ハイブリッドシステムの注意 84

1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 88
オートアラーム 89

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

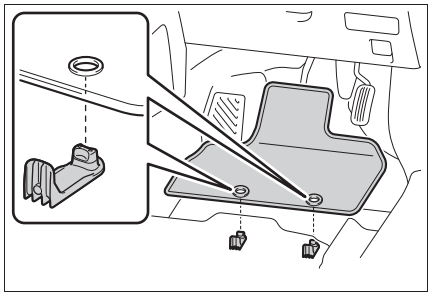
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

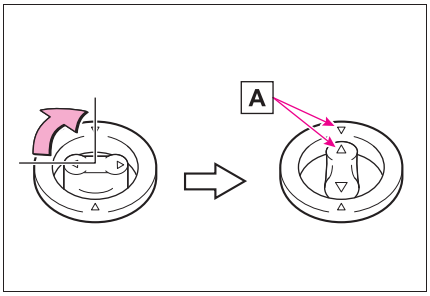
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

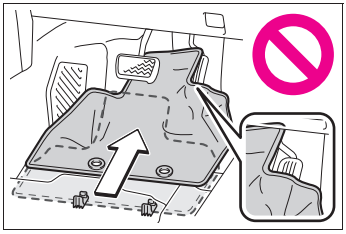
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

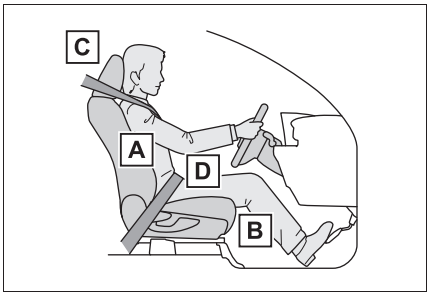


●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.159）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.159, 180）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.170）

D シートベルトを正しく着用する（→P.30）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.42)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.181, 182)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

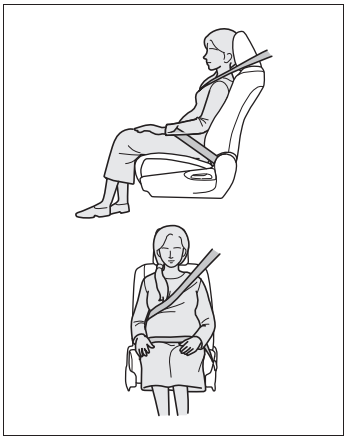
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.60

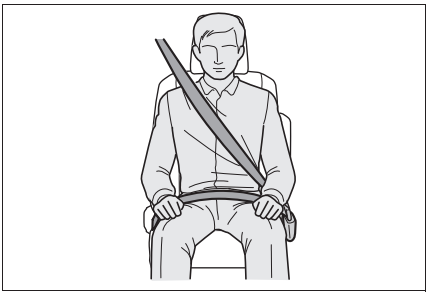
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

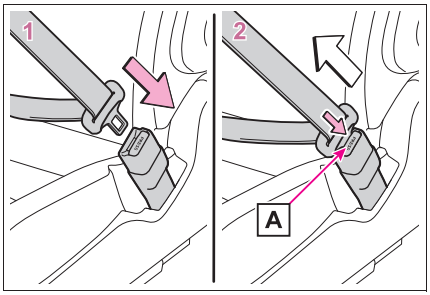
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

着け方・はずし方（セカンドシート中央席を除く）



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

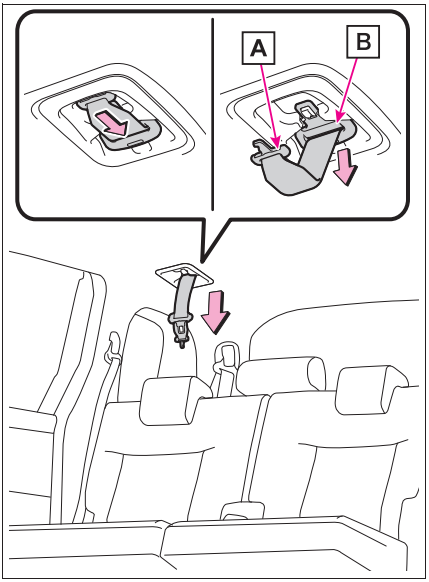
知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

着け方（セカンドシート中央席）

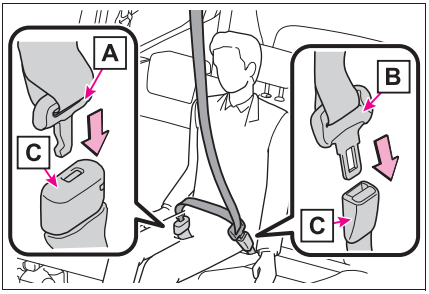
1 プレートを取り出す



A プレート A

B プレート B

2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に “カチッ” と音がするまでプレートをバックルに挿し込む



A プレート A

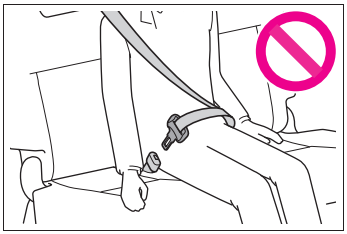
B プレート B

C バックル

警告

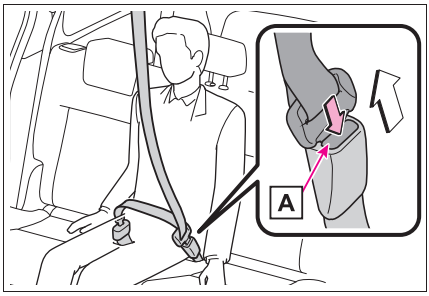
■セカンドシート中央席シートベルトについて

セカンドシート中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とプレート B をそれぞれのバックルに結合してください。（→P.31）結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



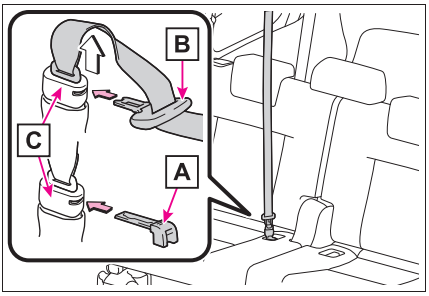
はずし方・格納のしかた（セカンドシート中央席）

1 バックルの解除ボタン A を押して、ベルトを解除する



2 メカニカルキー（→P.128）、またはプレート B をバックルの切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



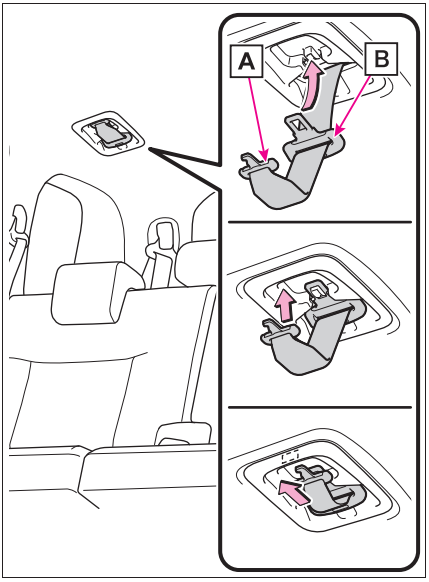
A メカニカルキー（→P.128）

B プレートB

C バックル

3 プレートB、プレートAの順にホルダーに格納する

確実に固定されるよう、しっかり奥まで挿し込んでください。

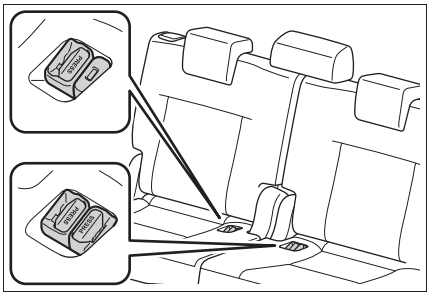


A プレートA

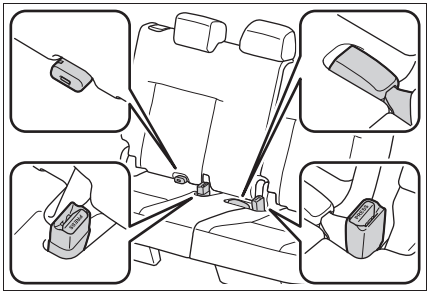
B プレートB

4 シートベルトのバックルをポケットに格納する

▶ 7人乗り車



▶ 5人乗り車



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトプリテンショナー

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・セカンド外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠警告

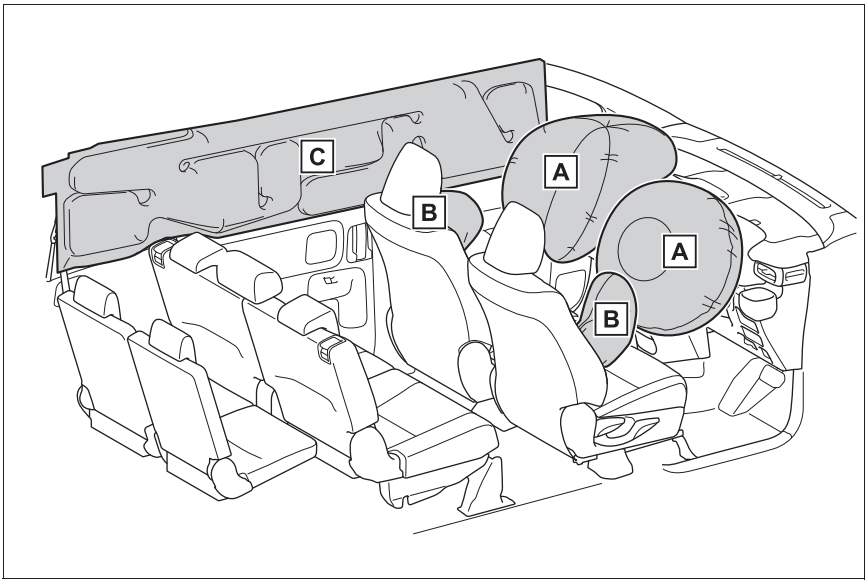
■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

C SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.87）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.348）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.375）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.435）

■緊急通報について

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
・ SRS エアバッグが作動した
・ シートベルトプリテンショナーが作動した
・ 車両に一定以上の衝撃を受けた

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。

マルチメディア非装着車：→P.64

マルチメディア装着車：詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・ フロント SRS エアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・ シートベルトプリテンショナー

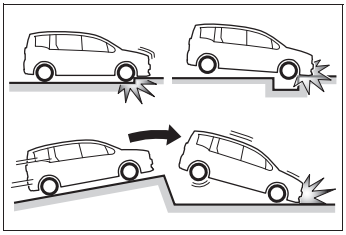
●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

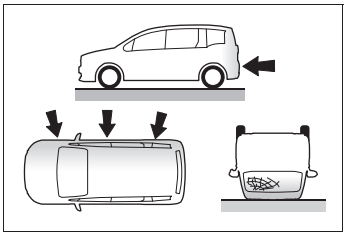
●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■SRS エアバッグが作動しないとき

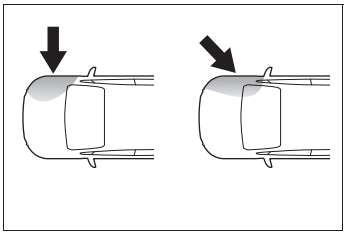
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

・ フロント SRS エアバッグ



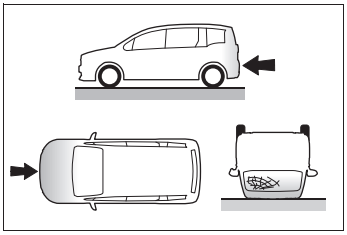
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



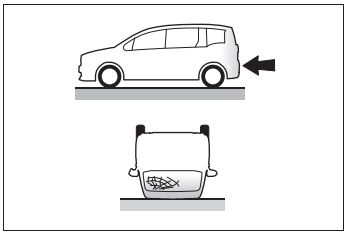
●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・ SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃、横転、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・ SRS カーテンシールドエアバッグ



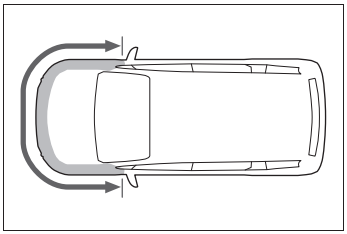
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

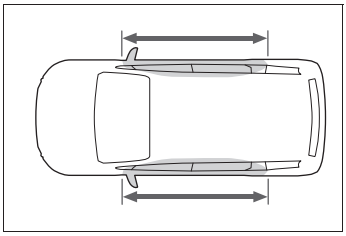
・ フロント SRS エアバッグ



●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

・ SRS サイドエアバッグ

・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

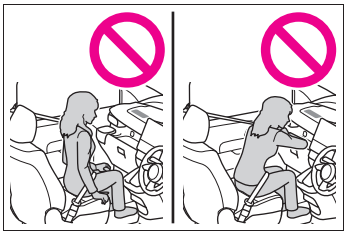
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

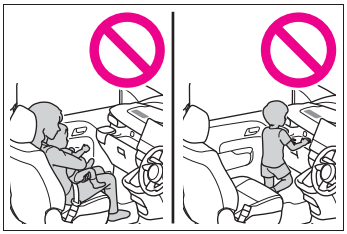
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.42)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



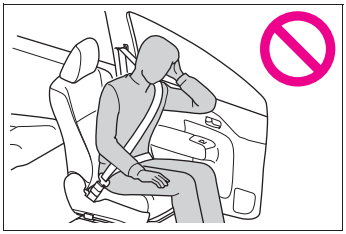
●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



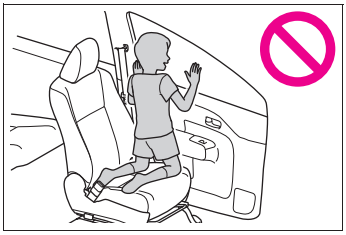
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠警告

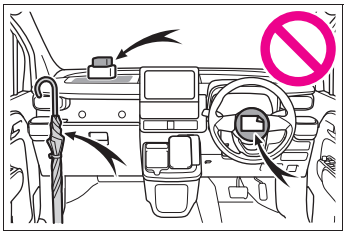
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



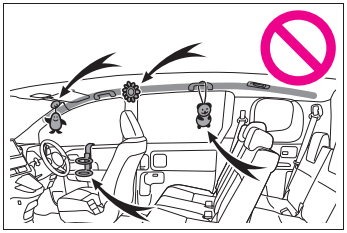
●ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.462）



●エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

⚠ 警告

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

・ ハンドル
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード
・ シート
・ シート表皮
・ フロントピラー
・ センターピラー
・ リヤピラー
・ ルーフサイドレール
・ フロントドアパネル
・ フロントドアトリム
・ フロントドアスピーカー

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●次の部品やその周辺の修理・改造

・ フロントフェンダー
・ フロントバンパー
・ 車内側面部

●次の部品、または装置の取り付け

・ グリルガード
・ 除雪装置
・ ウインチ

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.149）・ウインドウロックスイッチ（→P.187）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠警告

■お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.42）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
  トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.42
チャイルドシートを使用するときは：P.43
シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.45
チャイルドシートの取り付け方法：P.58
・ シートベルトで固定する：P.59
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.60
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.62

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  (→P.45)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.45）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

▶ 助手席ターンチルトシート装着車

助手席にチャイルドシートを取り付けることはできません。
お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートに取り付けてください。

▶ 助手席ターンチルトシート非装着車

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

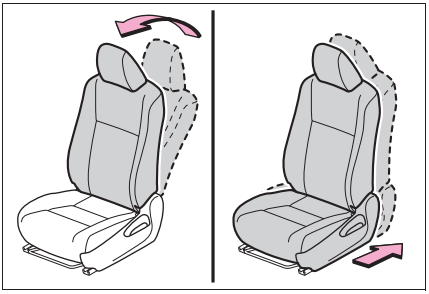
● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレ

ストをいちばん上まで上げてください。



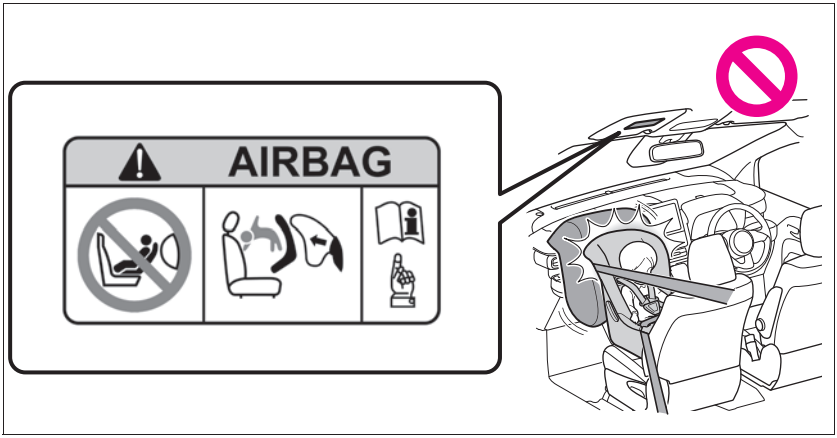
⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

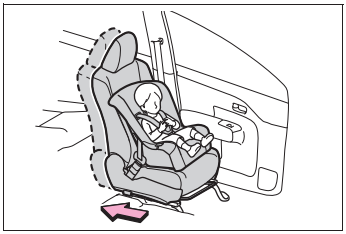
- 助手席ターンチルトシート装着車：助手席にチャイルドシートを装着しないでください。装置の破損や、お子さまが重大な傷害につながるおそれがあります。
- 助手席ターンチルトシート非装着車：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠警告

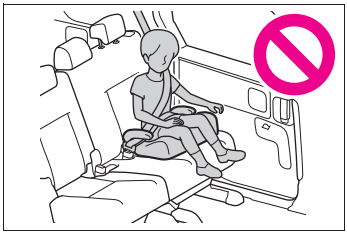


⚠ 警告

●助手席ターンチルトシート非装着車：やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



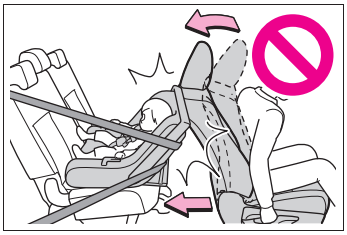
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.54）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

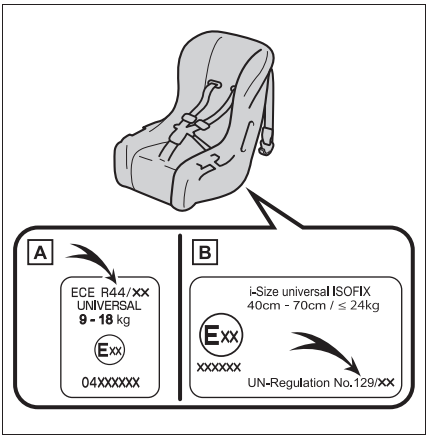
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク ※2

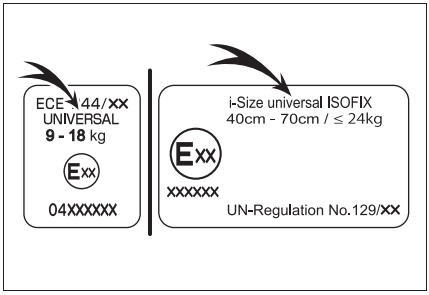
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

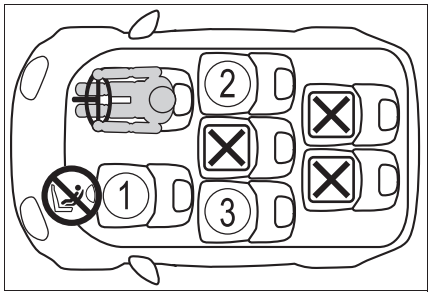


※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 7 人乗り車（助手席ターンチルトシート非装着車）



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L
③ ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.54）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

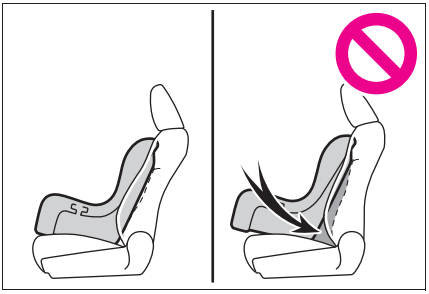
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

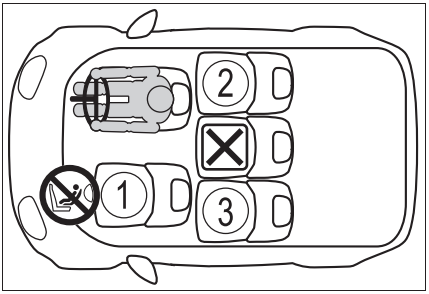


※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

▶ 5人乗り車（助手席ターンチルトシート非装着車）／車いす仕様車（スロープタイプ）［タイプⅠ※・タイプⅢ※］

※ 助手席ターンチルトシート非装着車



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L
③ ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.54）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

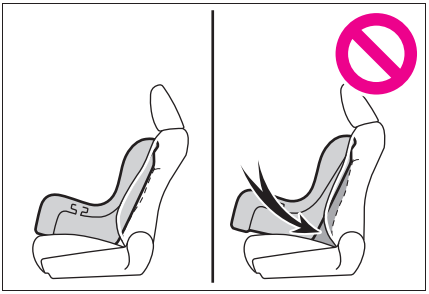
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

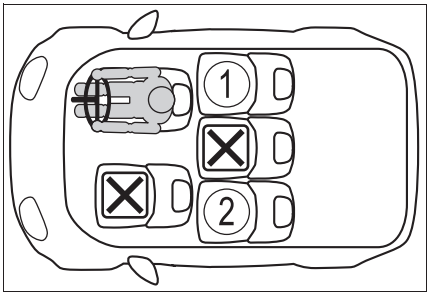


※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

▶ 5人乗り車（助手席ターンチルトシート装着車）／車いす仕様車（スロープタイプ）［タイプⅠ※］

※ 助手席ターンチルトシート装着車



① ※1, 2	UL
② ※1, 2	UL

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.54）に記載されたチャイルドシートに適しています。

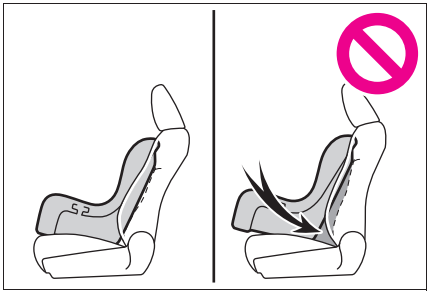
i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

※1背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※2ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

▶ 7 人乗り車（助手席ターンチルトシート非装着車）

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	×	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができ

ます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

▶ 5人乗り車（助手席ターンチルトシート非装着車）／車いす仕様車（スロープタイプ）[タイプⅠ※・タイプⅢ※]

※ 助手席ターンチルトシート非装着車

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	×	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

▶ 5 人乗り車（助手席ターンチルトシート装着車）／車いす仕様車（スロープタイプ）［タイプ I ※］

※ 助手席ターンチルトシート装着車

着座位置		
シート位置の番号	①	②
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

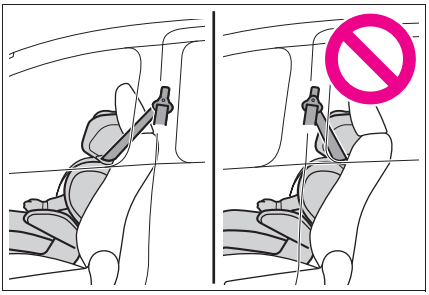
治具	使用の向き・形状・大きさ
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

▶ 7 人乗り車（助手席ターンチルトシート非装着車）

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm（体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	×	○	○

- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- セカンドシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

▶ 5 人乗り車（助手席ターンチルトシート非装着車）／車いす仕様車（スロープタイプ）[タイプⅠ※・タイプⅢ※]

※ 助手席ターンチルトシート非装着車

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm（体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	×	○	○

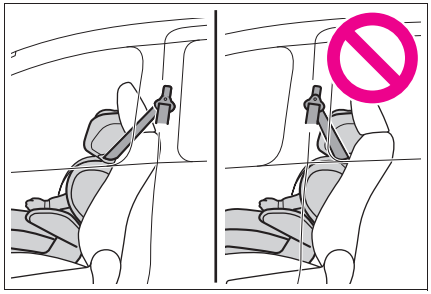
● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● セカンドシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する

場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

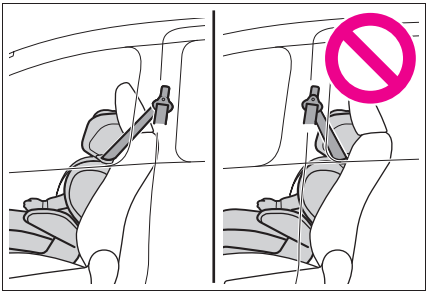
▶ 5 人乗り車（助手席ターンチルトシート装着車）／車いす仕様車（スロープタイプ）[タイプ I ※]

※ 助手席ターンチルトシート装着車

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置	
			①	②
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm （体重：～ 13kg）	後向き	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76 ～ 100cm （体重：～ 18kg）	前向き	○	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm （体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	○	○

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

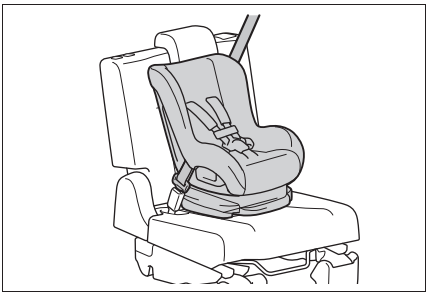
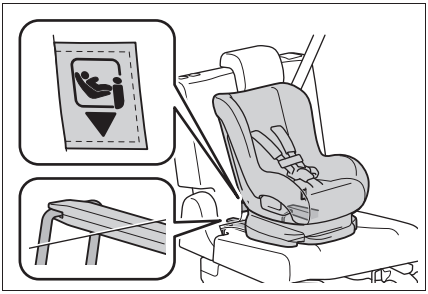
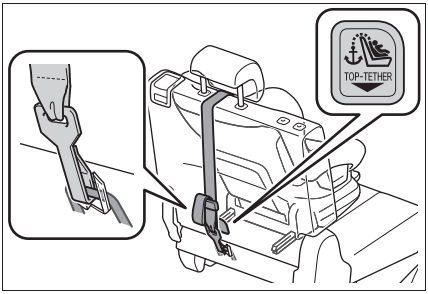
- セカンドシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.59
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.60
テザーベルトを固定する		P.62

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46, 47）

1 助手席ターンチルトシート非装着車：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.43）

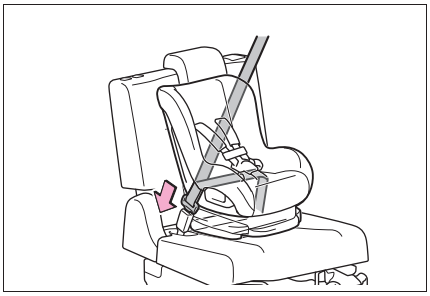
2 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.170）

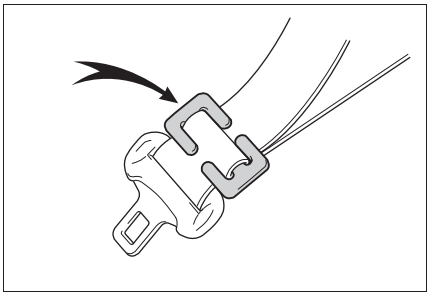
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.60）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックル

の解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

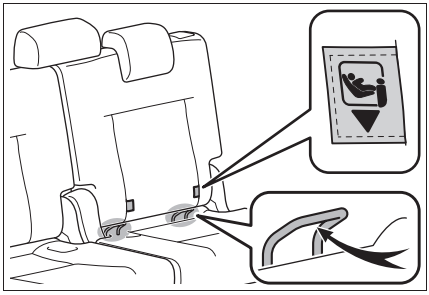
チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

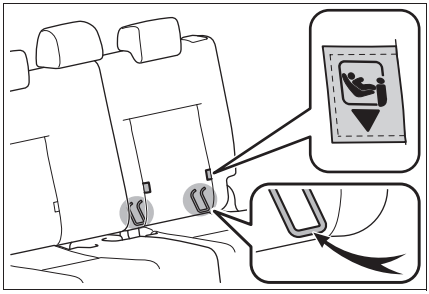
車いす仕様車（スロープタイプ）にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱説明書」も併せてお読みください。

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

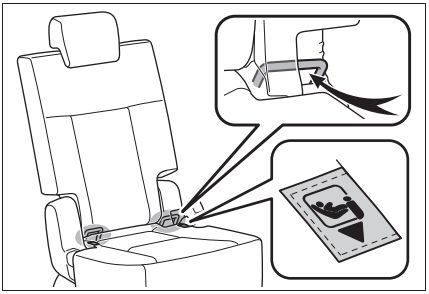
▶ ７人乗り車



▶ ５人乗り車



▶ 車いす仕様車（スロープタイプ）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46, 47）

1 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.170）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.60）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

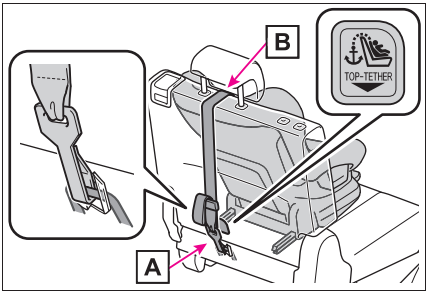
■ トップテザーアンカレッジについて

車いす仕様車（スロープタイプ）にお乗りの方は、別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱説明書」も併せてお読みください。

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

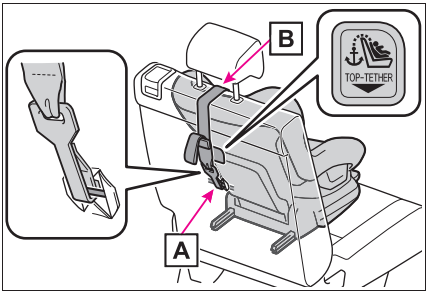
▶ 7人乗り車



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

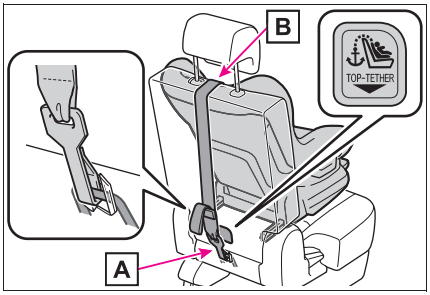
▶ 5人乗り車



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

▶ 車いす仕様車（スロープタイプ）



A トップテザーアンカレッジ

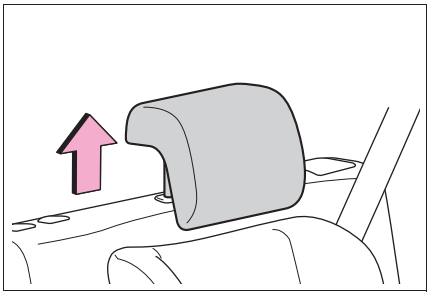
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

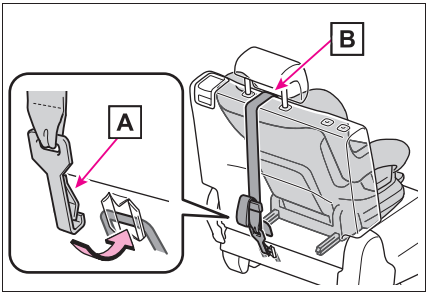
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.171）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.60)
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジにかけてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

T-Connect エントリー（22）

ここでは、T-Connect エントリー（22）について記載しています。マルチメディア装着車は、「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

T-Connect を利用するには、別途契約手続きをしていただく必要があります。

T-Connect について

T-Connect は DCM（Data Communication Module）を介してお車がお客様と常につながることにより、安心、安全、快適なカーライフをサポートするトヨタ専用のコネクティッドサービスです。

■ T-Connect サービス

ご利用可能な T-Connect サービスは、T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご覧ください。

安全にご利用するため注意すること

T-Connect をご利用になるときは、次の注意事項を必ずお守りの上、正しくお使いください。

■ 消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。寿命による交換時期は、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯（赤点滅）でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ T-Connect をご利用になるときは

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

通信機器について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

■ 通信モジュール（DCM）について

車両に装着した通信モジュール（DCM）で通信を行います。ご利用には T-Connect 利用申込みが必要です。通信費は T-Connect 利用料金に含まれます。利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

リコール情報などのお車に関する大切なお知らせをトヨタ自動車（株）またはトヨタ販売店からリモートメンテナンスメールにより

お送りするため、T-Connect の契約の有無にかかわらず、通信を行う場合があります。

通信モジュール（DCM）について

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、インストルメントパネルに設置されています。

⚠ 警告

■ ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。
次の点をご理解の上、正しくお使いください。

- 通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
  サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
  なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。
- 次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。
  - トンネルの中にいるとき
  - 地下駐車場にいるとき
  - 山奥などの通信圏外にいるとき
  - 回線が混雑しているなど、発信規制中のとき
- 通信モジュール（DCM）の回線維持期間経過後に T-Connect を新たにご契約いただく場合、通信モジュール（DCM）の回線を接続するための費用が必要になることがありますので、あらかじめご了承ください。
- この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
  （その場合には事前にご連絡します。）

知識

■ データ取得について

T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

T-Connect を契約するには

T-Connect をご利用いただくには T-Connect 契約が必要となります。

■ 新規契約を行うには

- 新車購入時：購入時にトヨタ販売店でお申し込みできます。初度登録から 5 年間無料でご利用いただけます。※

● 中古車購入時：トヨタ販売店、または T-Connect の WEB 申し込みサイト（https://tconnect.jp/webregist_tsc/）でお申し込みできます。

※ 初度登録日より 60ヵ月点検（車検）月の末日までが無料期間です。

■ 継続契約を行うには

契約の更新月が近づくとトヨタコネクティッド株式会社よりお知らせが届きます。そちらに記載の手続き方法にしたがって契約の更新を行うことができます。

T-Connect を利用するには

T-Connect は、T-Connect を申込みのうえ、各サービスの使用方法、留意事項を確認いただきご利用ください。

■ ご利用の前に

ヘルプネットの手動保守点検を行ってください。手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 各サービスを使うには

● ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）（→P.67）

● リモートメンテナンスサービス（→P.80）

上記以外のサービスの使用方法は T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご確認ください。

T-Connect スタンダード（22）を装着されているお客様は、上記のサービスの他に T-Connect のさまざまなサービスがご利用いただけます。詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ WEB サイト

● トヨタ公式サイト

T-Connect サービスの概要などを確認することができます。

・ URL：https://toyota.jp/tconnectservice/

・ QR コード：

● My TOYOTA サイト

T-Connect の契約情報の確認、オプションの契約などを行うことができます。

・ URL：https://toyota.jp/member/mytoyota/

・ QR コード：

■ スマートフォンアプリ

● My TOYOTA+ アプリ

お車の燃料残量や走行距離の確認、マイカーサーチの各サービスなどを利用することができます。

・URL：https://toyota.jp/spapp/mytoyota/qrlink/

・QR コード：

T-Connect を解約する

お車を手放す場合など、T-Connect を解約する際は WEB サイトまたは T-Connect サポートセンターから行うことができます。

■ WEB サイトから解約するには

My TOYOTA サイトにログインして解約手続きをしてください。

URL：https://toyota.jp/member/mytoyota/

■ T-Connect サポートセンターから解約するには

T-Connect サポートセンターに連絡して解約してください。

全国共通・フリーコール：

0800-500-6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

必ずご契約者ご本人から、以下の情報をご準備のうえ、ご連絡ください。

● 自動車検査証（車検証）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話接続し、車内からの通報救援要請を補助支援するシステムです。

さらに、あおり運転などのトラブルのときでも、警察へ状況に応じて通報します。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

知識

●いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。

●事故発生時以外でも、エアバッグが作動したときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、T-Connect の契約をしていない状態でも

緊急通報可能状態として表示することがあります。

⚠ 注意

- ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

サービス開始と解約について

ヘルプネットは、T-Connect を申込みのうえ、ヘルプネットの手動保守点検を正常に完了してからご利用いただけます。手動保守点検は必ず契約者本人で行うようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect 契約を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

緊急通報について

緊急通報は、手動保守点検の完了後に利用できる機能です。

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

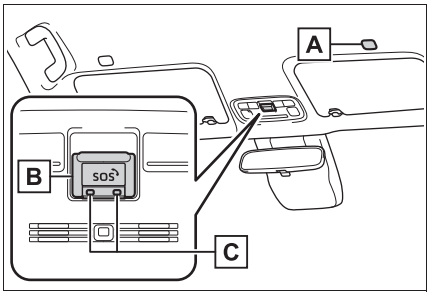
■ ドライバー異常時対応システム作動による自動通報

ドライバー異常時対応システム作動によってお車が自動停車すると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

■ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

各部の名称とはたらき



A マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

B ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするときに押します。

C 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。
（→P.75）

⚠ 警告

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。

●本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

●次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・ 携帯電話サービスエリア外で使用している

・ 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している

・ T-Connect が未契約、または契約期限が切れている

・ 手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

●緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

⚠ 警告

- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 次の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：-20 ℃～+ 60 ℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

ヘルプネットをお使いになる前に

ヘルプネットは、手動保守点検を実施してからご利用ください。

1 手動保守点検を行い、次の点を確かめる

- 通信が正常に始まる。
- 通話ができる。
- 通報位置が正しい。（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

2 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確かめる

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないときは、再度、手動保守点検をしてください。

⚠ 警告

- 次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。
  - 通信が始まらない。
  - 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う。
  - 通話できない。

⚠ 警告

●手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

緊急通報をする

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。

4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

5 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

6 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

7 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

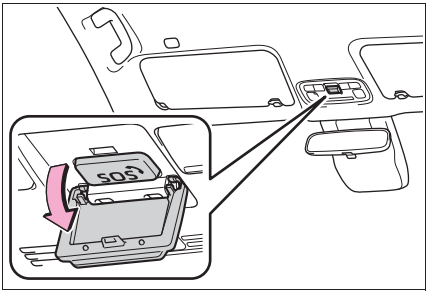
■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

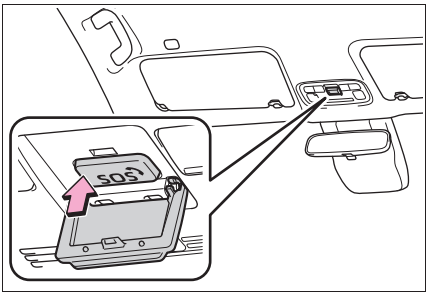
パワースイッチが ACC または ON のとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確認する

2 ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く



3 ヘルプネットボタンを押す



4 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

5 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

6 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、ヘルプネットセンターのオペレーターは、通報者の要請に基づき警察、消防などに接続します。通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

7 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

8 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

9 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

10 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

⚠ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

⚠ 警告

●緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。

・緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

知識

●緊急通報中に音声案内が流れているあいだは、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。

●誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。ただし、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

ヘルプネットの保守点検をする

■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

（株）日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

● 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）

● ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

1 できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

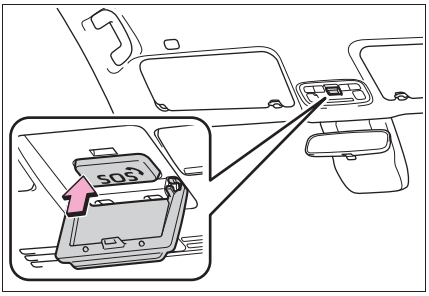
ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く

3 パワースイッチを OFF にする

4 パワースイッチを ACC または ON にする

5 ヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯がともに点灯したら、すぐにヘルプネットボタンを約 10 秒間押し続ける



6 ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

7 ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、次の確認が実施される

- 車両の現在地
- 手動保守点検をしていること
- ヘルプネットセンターに会員登録されていること

8 データ通信完了後、通話モードになる

9 マイクを通して、ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。
「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。

10 通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯は点滅を終了します。

⚠ 警告

- 手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度手動保守点検をやりなおしてください。
- 手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

・ 手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

⚠注意

・手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやりなおしてください。携帯電話サービスエリア内でやりなおしても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネットスイッチパネルの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯でお知らせします。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき（携帯電話サービスエリア内）	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき（携帯電話サービスエリア外）	緊急通報できません。携帯電話サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき（携帯電話サービスエリア内）	携帯電話サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	点滅	緊急通報に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。(→P.71)
		自動保守点検を何回も連続して失敗したとき（携帯電話サービスエリア外）	携帯電話サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。(→P.73) それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。携帯電話サービスエリア内に移動してから、再試行してください。(→P.73)
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	パワースイッチを ON にしたとき（約 5 秒間）	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	T-Connect サービスを契約してください。(→P.66)
		関連機器が動作していないとき	パワースイッチを ACC または ON にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検をしていないとき	手動保守点検を行います。(→P.73)

⚠ 警告

●表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

・ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。

・ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。

・携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。

・ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、T-Connect の契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

緊急通報できない場合について

次のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出ることがあります。

■ T-Connect 契約の不成立または消滅

- 未契約のとき
- 契約が締結できないとき
- 契約の解除が実施されたとき
- 契約が終了したとき

■ ヘルプネット利用登録の不成立

- 未登録の場合
- 手動保守点検※ を完了していない場合
- 登録情報が更新されていない場合

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 関連機器の異常による通信不能

- 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障
- バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など
- 車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

■ 緊急通報センターシステムの位置評定エラー

GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われないまたは誤差が大きいとき

ヘルプネットは、GPS から位置情報を取得しています。

■ ヘルプネットセンター／T-Connect センターシステムの異常による通信不能

- センターシステムの故障など
- センターの火災などによる、センターシステムの損傷

■ **ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能**

- 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア外に、“登録車両”が位置するとき
- 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき
- 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき
- 本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき
- 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

■ **緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止**

- センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき
- 大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

■ **その他の要因**

手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症状	考えられること	処置
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しない	手動保守点検※が正常に完了していない。	手動保守点検※をする。(→P.73)
緊急通報できない	パワースイッチをACCまたはONにした直後の点検中ではありませんか。	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。(→P.71)
	電波状態は良好ですか。	電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→P.73)
	携帯電話のサービスエリア外で使用していませんか。	
	携帯電話回線が混雑している。	しばらくしてから、または電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→P.73)
パワースイッチをOFFにしても、ヘルプネットスイッチパネルの赤または緑の表示灯が点滅し続けた	緊急通報中ではありませんか。	「緊急通報を終了しました」という音声案内が流れてから約60分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
ハイブリッドシステム始動後、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect契約がされていますか。	T-Connectの契約をする。(→P.65)

※手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

⚠警告

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

リモートメンテナンスサービスについて

お車の状態に関する情報を T-Connect センターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

車両に OBD (On-Board Diagnostic) Ⅱ通信を行う機器を接続している場合、正しくサービスが行えない場合があります。

■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、My TOYOTA サイトまたは My TOYOTA+ アプリにメールでご連絡します。また、電話から、その場でトヨタ販売店への入庫予約をおこなうことができます。

■ e ケア

● 走行アドバイス ※

お車の警告灯が点灯した場合、My-TOYOTA+ アプリから e ケアコールセンターまたは販売店に問い合わせることができます。

内容について、お車から発信される情報をもとに最適なアドバイスが受けられます。

● ヘルスチェックレポート ※

エンジンオイル量、電子キーのバッテリー等について My TOYOTA+ アプリで確認できます。また、トヨタ販売店からはおクルマから発信される情報をもとに最適なメンテナンスのアドバイスが受けられます。

※ サービスのご利用には、リモートメンテナンス店の登録が必要です。登録したリモートメンテナンス店を変更する場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

認証・商標についての情報

■ 通信モジュール（DCM）についての情報

● 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。

● 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

QR コードについて

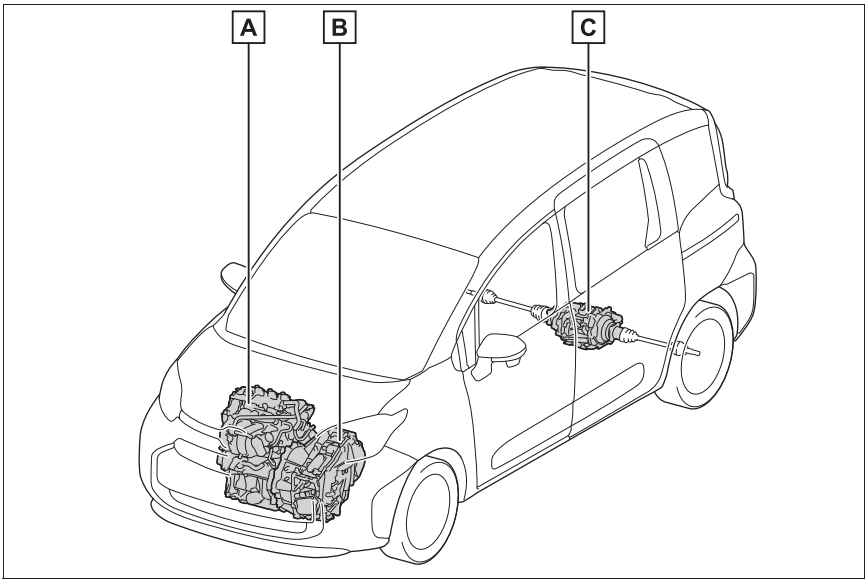
QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。
シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P.82）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

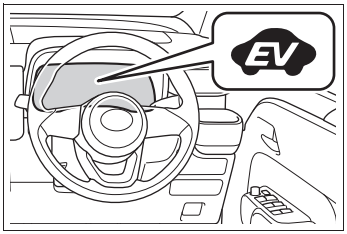
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDまたはBで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないことがあり、燃費が低下する場合があります。※

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 急加速・急減速をくり返したとき
- 長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき

※状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.475

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるフロントシート下および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時にフロントシート下から聞こえる “ コトン ”、“ カチッ ” などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- 助手席下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.492)

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

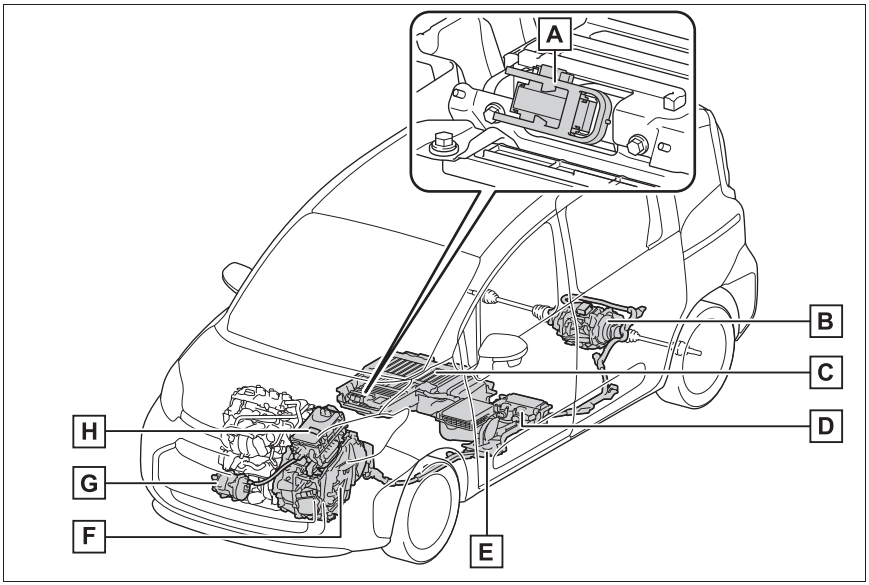
■マルチインフォメーションディスプレイに “ 車両接近通報装置故障 販売店で点検してください ” が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 580V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため⚠表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A サービスプラグ

B リヤ電気モーター（4WD 車）

C 駆動用電池

D リヤインバーター（4WD 車）

E 高電圧ケーブル（オレンジ色）

F フロント電気モーター

G エアコンコンプレッサー

H パワーコントロールユニット

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.447）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 6.2L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

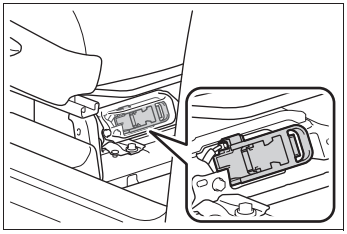
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠ 警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



⚠ 警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する。

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない。

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.439）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

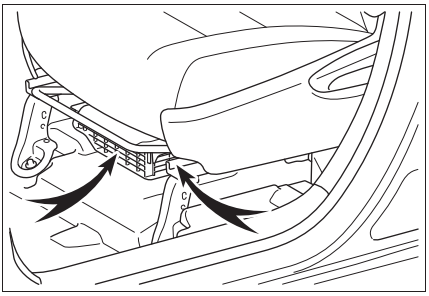
■駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

助手席下部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



⚠注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。
  駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→P.421)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。

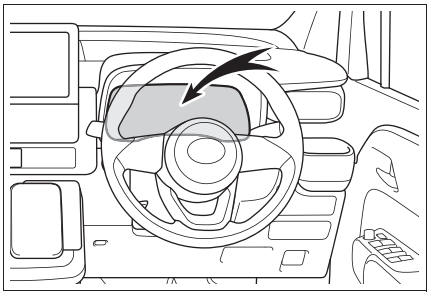
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

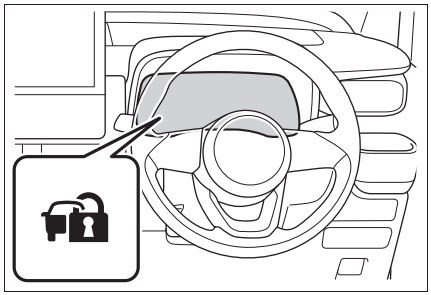
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

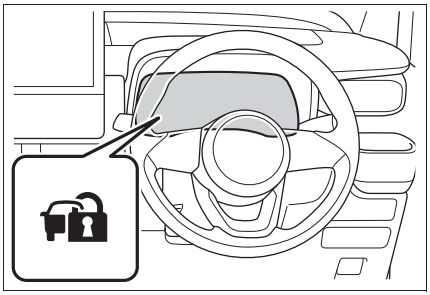
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

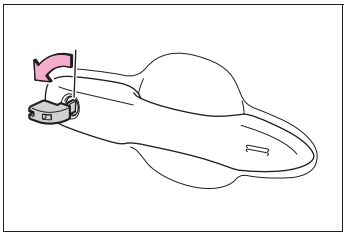
■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

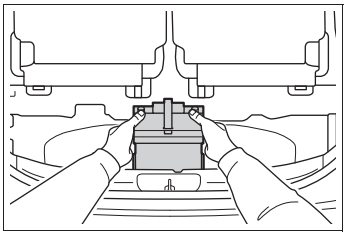
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



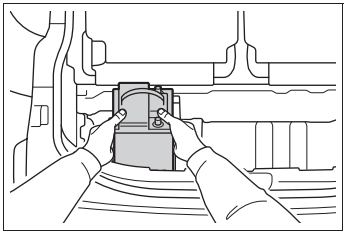
●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.475）

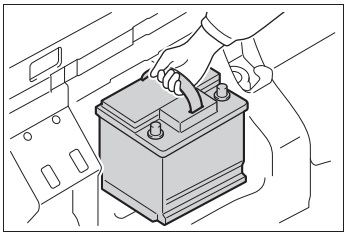
▶FF 車



▶4WD 車



▶車いす仕様車（スロープタイプ）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.493）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示 2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 92
計器類（4.2 インチディスプレイ） 97
計器類（7 インチディスプレイ） 102
マルチインフォメーションディスプレイ（4.2 インチディスプレイ） 109
マルチインフォメーションディスプレイ（7 インチディスプレイ） 116
エネルギーモニター／燃費画面122

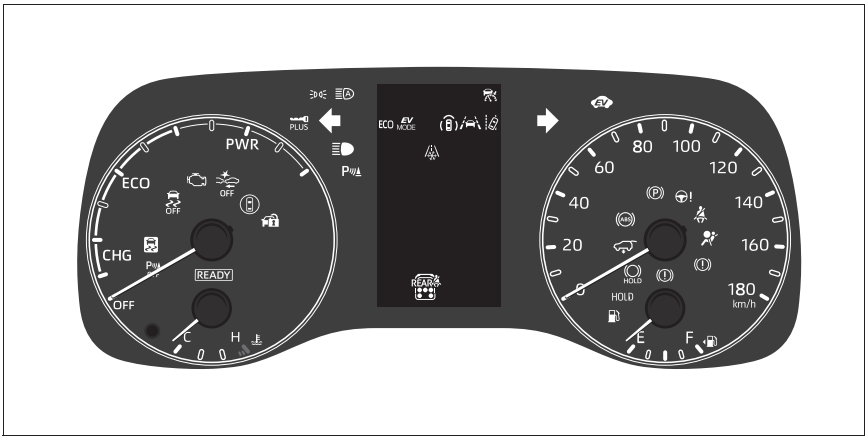
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

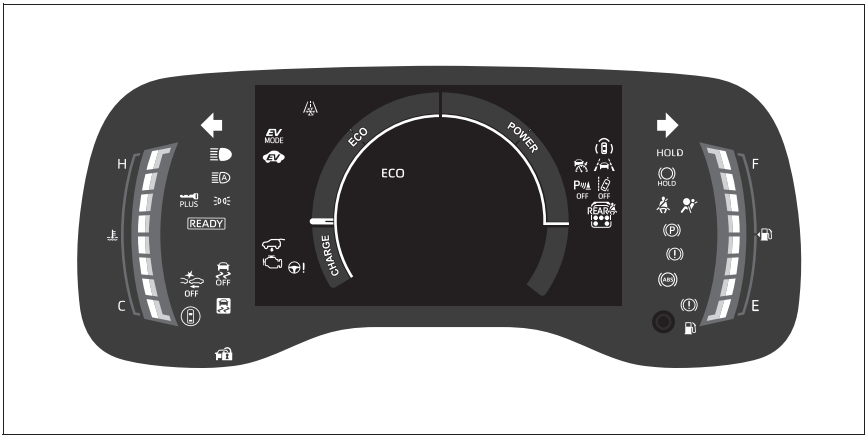
メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ 4.2 インチディスプレイ



▶ 7 インチディスプレイ



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.445）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.445）

高水温警告灯 ※2（→P.445）

ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.445）

充電警告灯 ※2（→P.446）

油圧警告灯 ※2（→P.446）

エンジン警告灯 ※1（→P.446）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.446）

ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.446）

ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.447）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.447）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.447）

燃料残量警告灯（→P.447）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.447）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.448）

（黄色）
LDA 表示灯（→P.448）

（黄色）
LTA 表示灯（→P.448）

（黄色）
PDA 表示灯（→P.448）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.449）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.449）

（黄色）
クルーズコントロール表示灯（→P.449）

（黄色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.449）

PCS 警告灯 ※1（→P.450）

スリップ表示灯 ※1（→P.450）

（黄色）
車高調整表示灯★ ※3（→P.450）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.450）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.450）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチをONにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.214）

尾灯表示灯（→P.221）

ハイビーム表示灯（→P.223）

AHB 表示灯（→P.229）

AHS 表示灯★（→P.226）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.255）

（緑色）
クルーズコントロール表示灯（→P.284）

（白色）
クルーズコントロール表示灯（→P.284）

（緑色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.278）

（白色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.278）

（緑色）
LDA 表示灯（→P.265）

（白色）
LDA 表示灯（→P.265）

（黄色［点滅］）
LDA OFF 表示灯 ※2（→P.265）

（緑色）
LTA 表示灯（→P.260）

（白色）
LTA 表示灯（→P.260）

ドアミラーインジケーター★ ※1, 3（→P.290, 304）

（緑色）
PDA 表示灯（→P.270）

（白色）
PDA 表示灯（→P.270）

運転支援情報表示灯 ※1, 2（→P.290, 304, 309, 313）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.294）

クリアランスソナー検知表示灯★（→P.294）

（点滅）
スリップ表示灯 ※1（→P.349）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.349）

スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※4（→P.200）

READY インジケーター（→P.200）

EV ドライブモード表示灯（→P.205）

パーキングブレーキ表示灯（→P.214）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.218）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.218）

EV インジケーター（→P.82）

セキュリティ表示灯（→P.88, 89）

エコモード表示灯（→P.347）

パワーモード表示灯（4.2 インチディスプレイ装着車）（→P.347）

パワーモード表示灯（7 インチディスプレイ装着車）（→P.347）

低温表示灯 ※5（→P.99, 106）

プラスサポート表示灯★（→P.354）

車高調整表示灯★ ※6

制動灯表示灯（4.2 インチディスプレイ装着車）

制動灯表示灯（7 インチディスプレイ装着車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2システムが OFF のときに点灯します。

※3ドアミラーに表示されます。

※4メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※6別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱説明書」を参照してください。

知識

■ドアミラーインジケーター★について

作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

●マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、BSM/RCTA の機能を ON に設定している状態で、パワースイッチを ON にしたとき

●パワースイッチが ON の状態で、BSM/RCTA の機能をマルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

マルチメディアシステムまたはリヤカメラ非装着車は、ON/OFF の状態にかかわらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■制動灯表示灯について

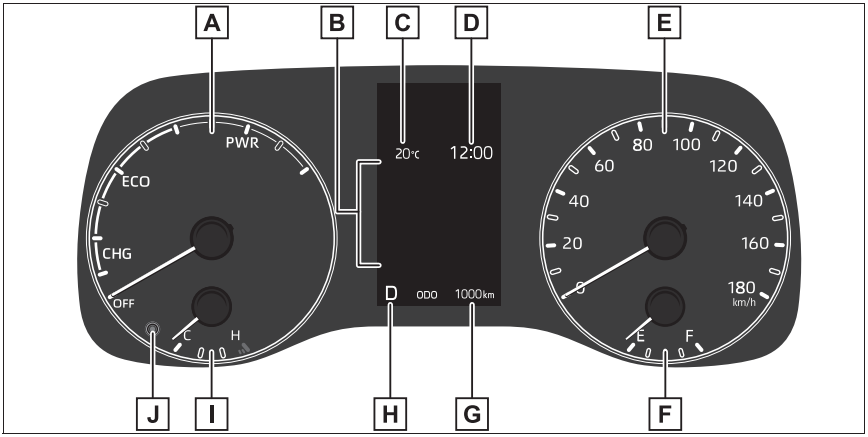
ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

計器類（4.2 インチディスプレイ）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A ハイブリッドシステムインジケーター（→P.98）

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.109）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.452）

C 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

D 時計（→P.100）

E スピードメーター

車両の走行速度を示します。

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.99）

H シフトポジション表示（→P.207, 210）

選択されているシフトポジションを表示します。

I 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

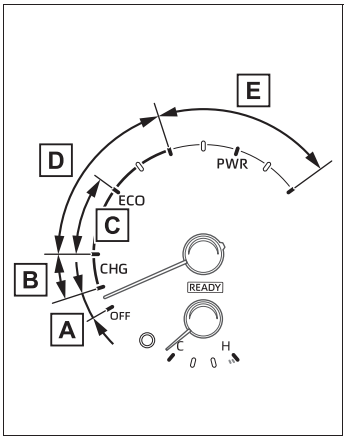
J 表示切りかえボタン（→P.99）

知識

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



A READY OFF エリア

ハイブリッドシステムが作動していない状態を示します。

B チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

C ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

D エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのゲージをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

E パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- READYインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはB以外のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3 パワースイッチを OFF にする
4 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” or “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.110

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.114）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

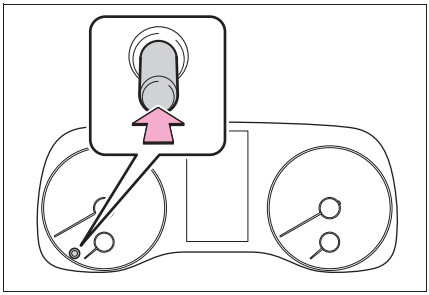
水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。
（→P.479）

オドメーター／トリップメーター

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

時計の調整をするには（マルチメディアシステム非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “🕒⚙” を選択する

メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

● 0 ～ 29 分は切り下げられます。（例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります。）

● 30～59分は切り上げられます。（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります。）

■ 詳細設定

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “🕒⚙” を選択する

3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して変更したい項目を選択する

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

● 12 時間表示／ 24 時間表示

● 時

● 分

時計の調整をするには（マルチメディアシステム装着車）

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。

設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■時計の設定画面（マルチメディアシステム装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に “🕐⚙” が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

メーターの明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、メーターの明るさを変更できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

1 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して 🔆 を選択し、OK スイッチを長押しする

3 メーター操作スイッチの ❮ または ❯ を押して明るさを変更する

知識

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

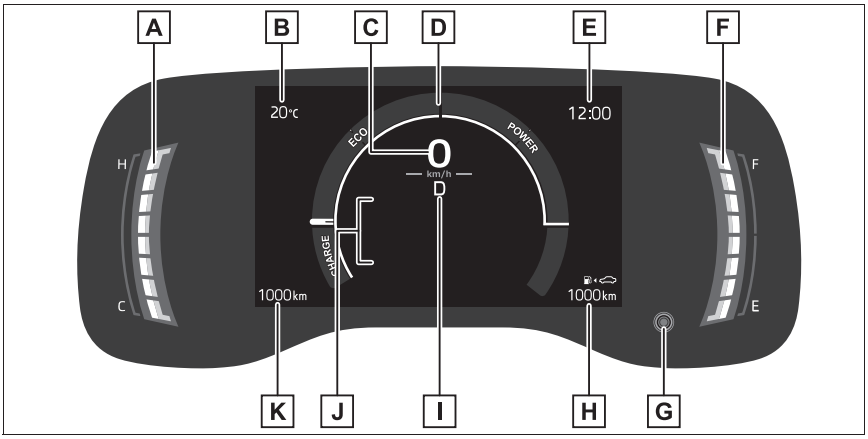
計器類（7 インチディスプレイ）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

スピードメーターの表示は、3 種類から選択することができます。
（→P.120）

■ **ハイブリッドシステムインジケーター選択時**



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

D ハイブリッドシステムインジケーター（→P.105）

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

E 時計（→P.107, 108）

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき

・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

G 表示切りかえボタン（→P.107）

H 走行可能距離

燃料残量による走行可能な距離を示します。

I シフトポジション表示

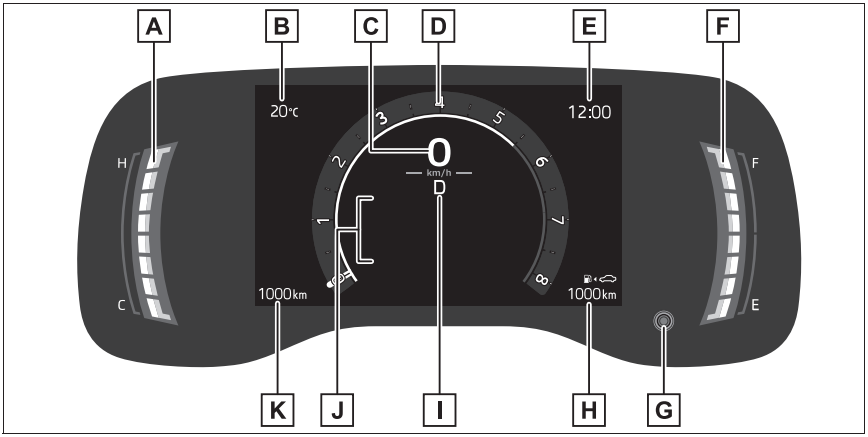
選択されているシフトポジションを表示します。（→P.210）

J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.116）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.452）

K オドメーター／トリップメーター（→P.107）

■ タコメーター選択時



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

E 時計（→P.107, 108）

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

G 表示切りかえボタン（→P.107）

H 走行可能距離

燃料残量による走行可能な距離を示します。

I シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→P.210）

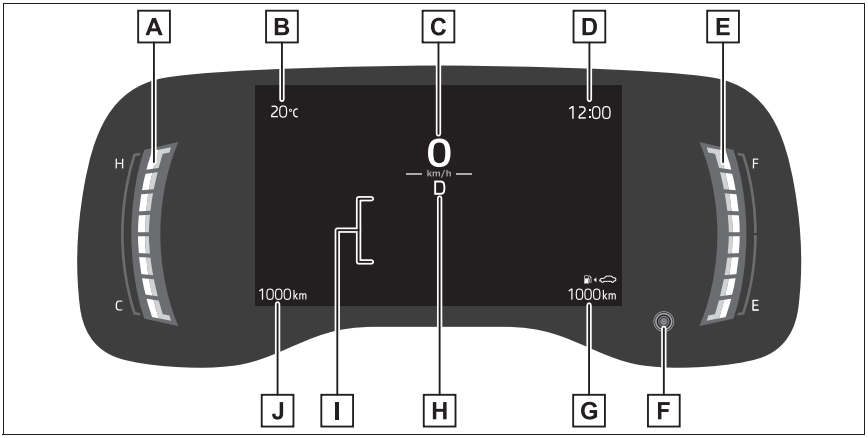
J マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.116）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.452）

K オドメーター／トリップメーター（→P.107）

■ シンプルメーター（リング表示なし）選択時



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

D 時計（→P.107, 108）

E 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

F 表示切りかえボタン（→P.107）

G 走行可能距離

燃料残量による走行可能な距離を示します。

H シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→P.210）

I マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.116）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.452）

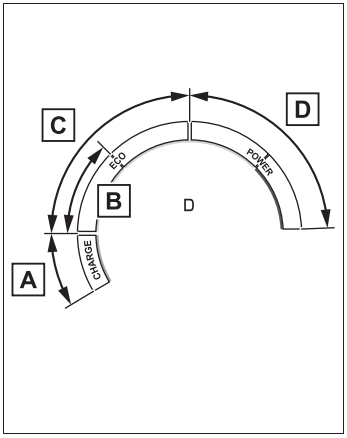
J オドメーター／トリップメーター（→P.107）

知識

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのゲージをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

●READYインジケーターが点灯していないとき

●シフトポジションがDまたはB以外のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる

3 パワースイッチを OFF にする

4 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチを ON にする

5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき

・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” or “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■航続可能距離について

●使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの設定など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●システムの電力消費により、走行していなくても航続可能距離が減少する場合があります。

●次の場合に、航続可能距離が “---km” と表示されます。

・ 燃料残量を計算しているとき（短時間）

・ 燃料残量計が “E” まで到達したとき

・ 航続可能距離が計算できない異常が発生したとき

■液晶ディスプレイについて

→P.116

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.120）

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

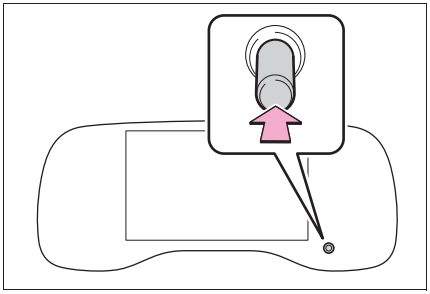
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の表示がＨのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.479）

オドメーター／トリップメーター

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

時計の調整をするには（マルチメディアシステム非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して “🕐⚙” を選択する

メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

- 0 ～ 29 分は切り下げられます。（例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります。）
- 30～59分は切り上げられます。（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります。）

■ 詳細設定

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの〈または〉を押して “🕒⚙” を選択する

3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチの〈または〉を押して変更したい項目を選択する

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

- 12 時間表示／ 24 時間表示
- 時
- 分

時計の調整をするには（マルチメディアシステム装着車）

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。

設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■時計の設定画面（マルチメディアシステム装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に “🕒⚙” が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

メーターの明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、メーターの明るさを変更できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの〈または〉を押して☼を選択し、OK スイッチを長押しする

3 メーター操作スイッチの〈または〉を押して明るさを変更する

知識

■メーター照度調整について

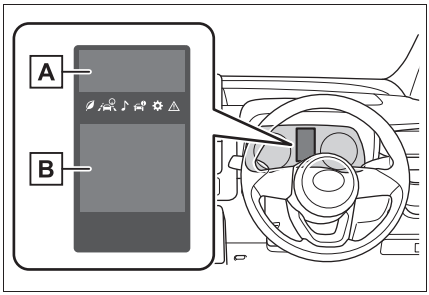
車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

マルチインフォメーションディスプレイ（4.2 インチディスプレイ）

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.256）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.261）
- レーダークルーズコントロール（→P.276）
- RSA（ロードサインアシスト）（→P.273）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.266）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの〈または〉を押すとメニューアイコンが表示されます。

	走行情報表示（→P.111）
	運転支援機能情報表示（→P.113）
	オーディオシステム連携表示★（→P.113）
	車両情報表示（→P.113）
	設定（→P.114）
	警告メッセージ（→P.452）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■運転中の使用について

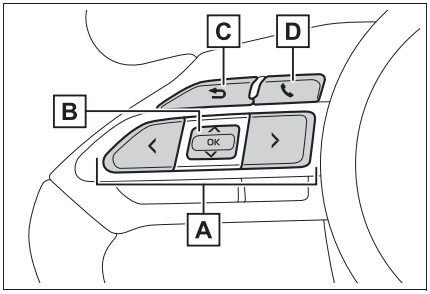
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.99

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 〈／〉：メニューの切りかえ・ページ送り・カーソル移動

∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定

長押し：リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

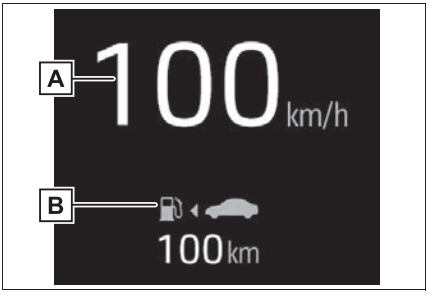
ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについては詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行情報表示について

■ 表示項目

- デジタル車速表示／航続可能距離
- 燃費グラフ
- エコアクセルガイド／エコジャッジ
- EV 走行時間表示

■ デジタル車速表示／航続可能距離



A 車速表示

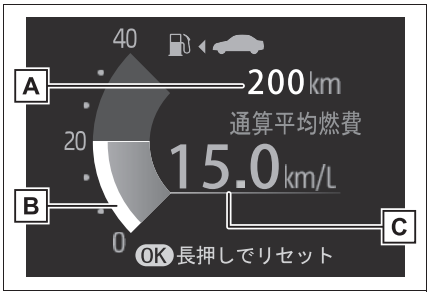
現在の車速を表示します。

B 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C 通算平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

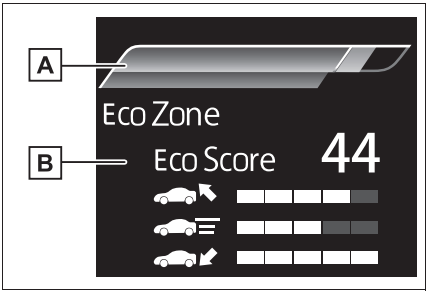
- 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。

- 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

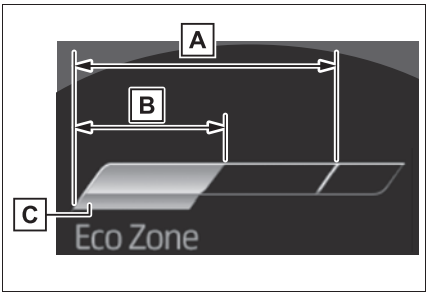
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B 現状のアクセル開度

C アクセル操作の目安

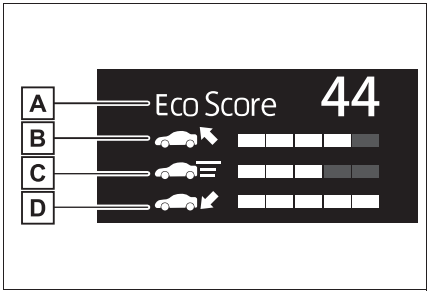
発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に白色のバーで表示されます。

エコアクセルガイド表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→P.192）

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



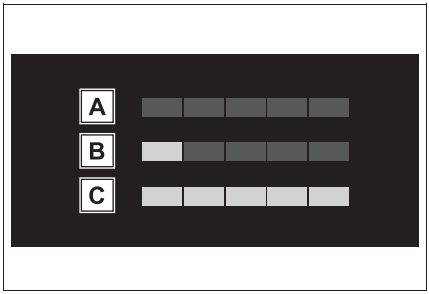
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ停車の状況

● 表示の見方



A 未評価

B 低い

C 高い

・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

・エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。
・ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。

■ EV 走行時間表示

総走行時間のうち、EV 走行時間の割合を表示します。

知識

■航続可能距離について

●使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの設定など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●システムの電力消費により、走行していなくても航続可能距離が減少する場合があります。

●次の場合に、航続可能距離が “---km” と表示されます。
・燃料残量を計算しているとき（短時間）
・燃料残量計が “E” まで到達したとき
・航続可能距離が計算できない異常が発生したとき

■エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

●ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロールを使用しているとき

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

● クルーズコントロール（→P.284）
● レーダークルーズコントロール（→P.276）
● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.256）
● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.261）
● RSA（ロードサインアシスト）（→P.273）
● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.266）
● PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.247）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● ルート案内表示
● コンパス（ヘッディングアップ表示）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示★

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両情報表示について

■ 表示項目

● ドライブインフォメーション

● エネルギーモニター（→P.122）

● 4WD 作動状態表示（4WD 車のみ）

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ”の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.114）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後 ※

・ 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ ハイブリッドシステムを停止するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間 ※

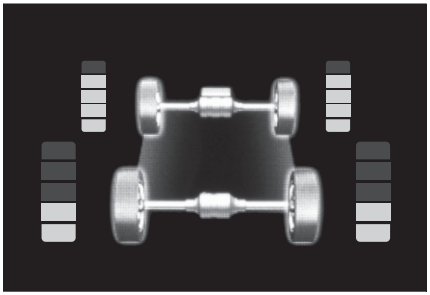
・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示

・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示

・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ 4WD 作動状態表示（4WD 車のみ）



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示：
0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 時刻表示（マルチメディアシステム非装着車）

→P.100

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

●

・ ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。（→P.112）

・燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。（→P.111）

● ♪★

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

●

・表示コンテンツ

エネルギーモニター／トルク配分画面★の表示・非表示を選択することができます。

・ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

・ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには∧／∨／〈／〉／OK／⮌のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.492

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

⚠警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

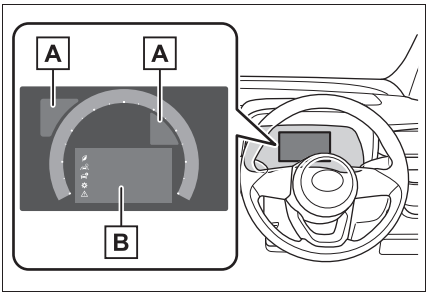
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

マルチインフォメーションディスプレイ（7 インチディスプレイ）

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.256）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.261）
- レーダークルーズコントロール（→P.276）
- RSA（ロードサインアシスト）（→P.273）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.266）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの∧または∨を押すとメニューアイコンが表示されます。

	走行情報表示（→P.117）
	運転支援機能情報表示（→P.119）
	オーディオシステム連携表示★（→P.119）
	車両情報表示（→P.119）
	設定（→P.120）
	警告メッセージ（→P.452）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■運転中の使用について

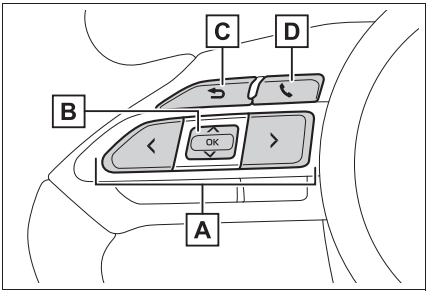
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.107

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ∧／∨：メニューの切りかえ

〈／〉：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定

長押し：リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。

ハンズフリーシステムについては詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

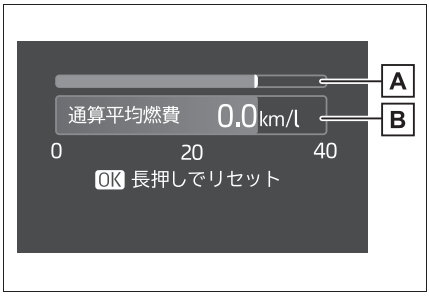
走行情報表示について

■ 表示項目

- 燃費グラフ
- エコアクセルガイド／エコジャッジ
- EV 走行時間表示

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 通算平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

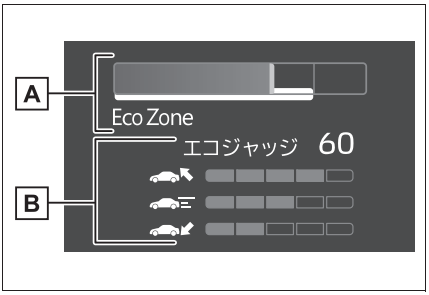
- 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

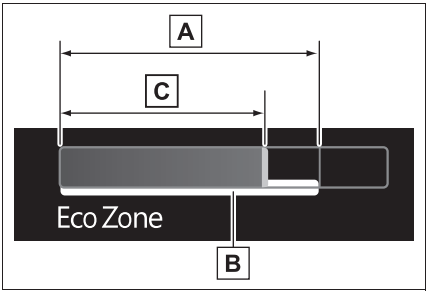
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B アクセル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

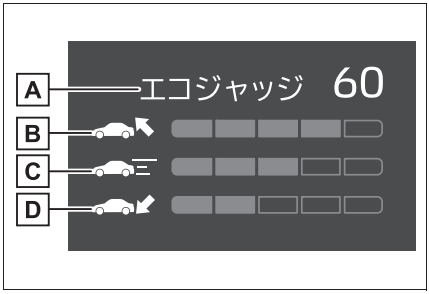
エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→P.192）

C 現状のアクセル開度

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



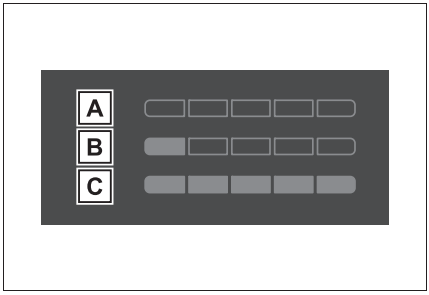
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ停車の状況

● 表示の見方



A 未評価

B 低い

C 高い

・発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

・エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

・ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。

■ EV 走行時間表示

総走行時間のうち、EV 走行時間の割合を表示します。

知識

■エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

●ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロールを使用しているとき

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

● クルーズコントロール（→P.284）

● レーダークルーズコントロール（→P.276）

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.256）

● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.261）

● RSA（ロードサインアシスト）（→P.273）

● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.266）

● PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.247）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● ルート案内表示

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示★

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両情報表示について

■ 表示項目

● ドライブインフォメーション

● エネルギーモニター（→P.122）

● 4WD 作動状態表示（4WD 車のみ）

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ”の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.120）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後※

・ 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ ハイブリッドシステムを停止するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間※

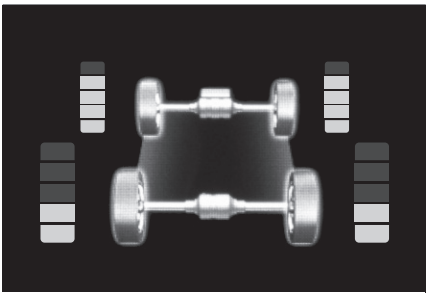
・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示

・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示

・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ 4WD 作動状態表示（4WD 車のみ）



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示：
0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 時刻表示（マルチメディアシステム非装着車）

→P.107

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メーターデザイン

メーター表示のデザインを変更することができます。

● メータータイプ

メーターの表示方法を変更することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターランプの作動・非作動を切りかえることができます。

●

・ ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。（→P.118）

・ 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。（→P.117）

● ♪★

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

●

・ 表示コンテンツ

次の設定を変更することができます。

エネルギーモニター：
エネルギーモニターの表示・非表示を選択することができます。

・ 表示コンテンツ

トルク配分画面の表示・非表示を選択することができます。★

・ ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

・ ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには〈／〉／〈／〉／OK／↩のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.492

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

⚠警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

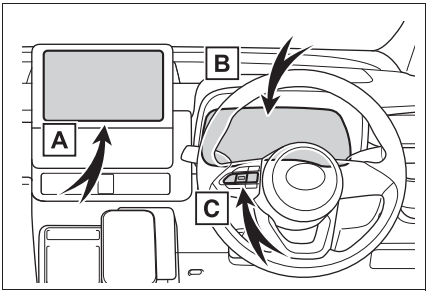
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面★に表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品



A マルチメディア画面★

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの〈／〉（4.2 インチディスプレイ）または∧／∨（7 インチディスプレイ）を押して を選択し、∧／∨（4.2 インチディスプレイ）または〈／〉（7 インチディスプレイ）を押してエネルギーモニターを選択する

▶ マルチメディア画面

メインメニューの をタッチし、“エネルギーモニター”を選択する

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑※1／青※2：電気エネルギーを回収・充電しているとき

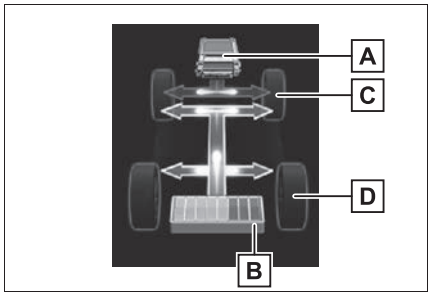
黄※1／橙※2：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

※1マルチインフォメーションディスプレイ

※2マルチメディアディスプレイ

▶ マルチインフォメーションディスプレイ（4.2 インチディスプレイ）



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

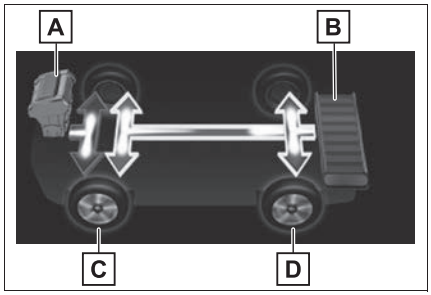
B 駆動用電池

C フロントタイヤ

D リヤタイヤ※

※ FF 車は D への矢印は表示されません。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ（7 インチディスプレイ）



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

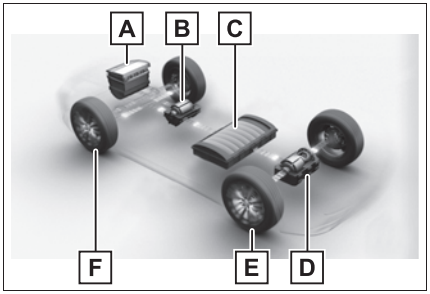
B 駆動用電池

C フロントタイヤ

D リヤタイヤ※

※ FF 車は D への矢印は表示されません。

▶ マルチメディア画面



A エンジン

B フロント電気モーター

C 駆動用電池

D リヤ電気モーター（4WD 車のみ）

E リヤタイヤ※

F フロントタイヤ

※ FF 車は D、E への矢印は表示されません。

知識

■マルチメディア画面上の駆動用電池の表示について

駆動用電池に充電しているときは緑色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色がかわります。

■駆動用電池の残量警告について

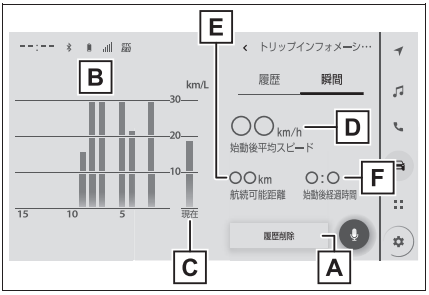
●シフトレバーがＮで、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

燃費画面の表示のしかた（マルチメディアシステム装着車）

メインメニューの をタッチし、“トリップインフォメーション” を選択する

■ 瞬間燃費画面



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

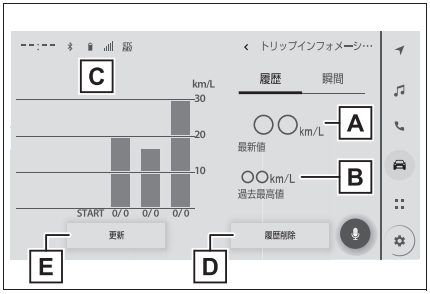
D ハイブリッドシステム始動後平均車速

E 航続可能距離

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴画面



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴削除” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

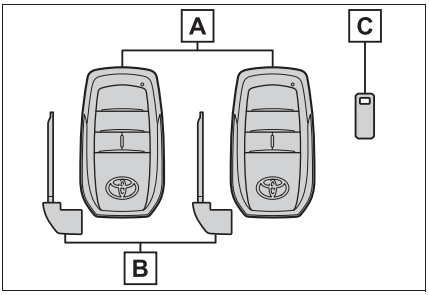
現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー
キー 128
デジタルキー 131
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 134
スライドドア 138
バックドア 150
スマートエントリー&スタートシステム 153
3-3. シートの調整
フロントシート 159
助手席ターンチルトシート 160
セカンドシート 165
サードシート（7 人乗り車） 169
ヘッドレスト 170
シートアレンジ 173
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 180
インナーミラー 181
ドアミラー 182
補助確認装置 183
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 185
3-6. お好み設定
マイセッティング 188

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P.153）
・ ワイヤレス機能の作動（→P.130）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.155）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.425）
・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・ 作動範囲が狭くなった
・ 電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→P.425）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・ TV
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

●スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.134）

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパ

ワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。(→P.425)

■電池の交換方法

→P.425

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

注意

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

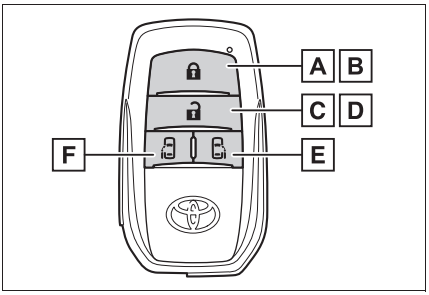
→P.471

■電子キーを紛失したとき

→P.471

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



A 全ドアを施錠する（→P.134）

B ドアガラスを閉める※（→P.134）

C 全ドアを解錠する（→P.134）

D ドアガラスを開く※（→P.134）

E 運転席側パワースライドドアを開閉する★（→P.140）

F 助手席側パワースライドドアを開閉する（→P.140）

※トヨタ販売店での設定が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

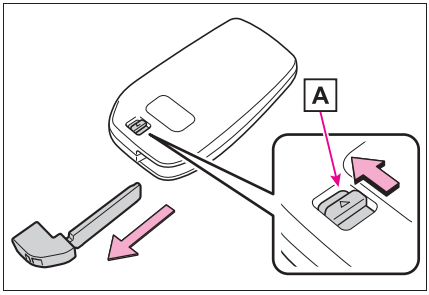
→P.155

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーAをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.471）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.471

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：

知識

■デジタルキーの取り扱い

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります (詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください)。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

・ スマートフォンが故障した場合
・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
・ スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

- お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。
- 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やエンジンの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

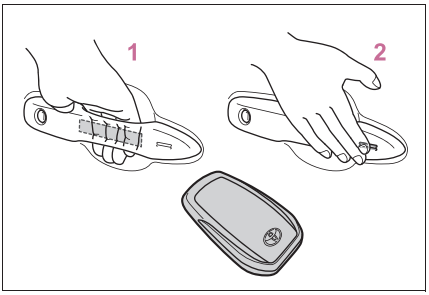
フロントドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席ドアハンドルを握って解錠する

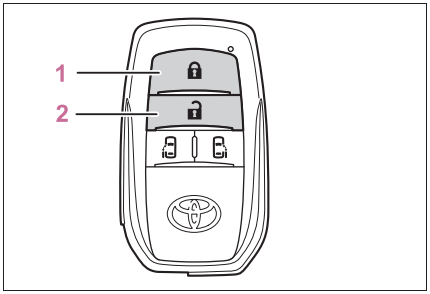
ドアハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P.472）

知識

■降車オートロック機能 ※

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

2 ブザーが “ピピッ” と鳴り、降車オートロック待機状態になったことを確認する。

3 降車オートロック待機状態で電子キー作動範囲（→P.154）から離れる。

すべてのドアが施錠され、作動の合図（→P.135）でお知らせします。

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

すべてのドアが閉じられ、電子キーが作動範囲内にあると、降車オートロック待

機状態になります。

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

●ドアを施錠・解錠する

●ハイブリッドシステムを始動する

■接近時オートアンロック機能 ※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

●すべてのドアが閉まっている

●すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

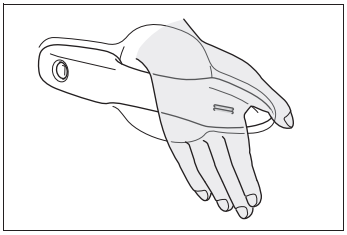
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でスマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.89）

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.155

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.472)

●キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.425)

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.472)

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

・スライドドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
・ハイブリッドシステムが始動している状態でスライドドアを開閉した

ただし、スライドドアを開けてから約 2 秒以内にスライドドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、スライドドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能作動時に施錠すると、施錠の合図(→P.135)に加えて、非常点滅灯が 3 回点滅し、ブザーが 9 回吹鳴します。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.504)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→P.495)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

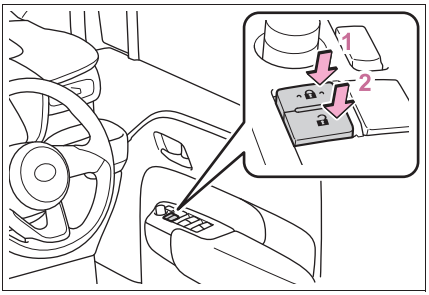
⚠ 警告

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンまたはキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から施錠／解錠するには

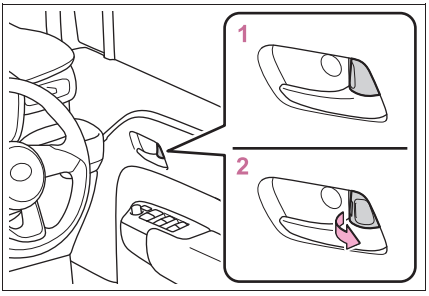
■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席は、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

知識

■キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

⚠警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P.149）を使用して車内からドアが開かないようにする

■スライドドアの操作にあたって

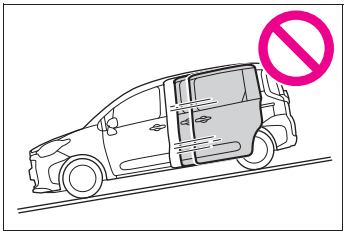
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

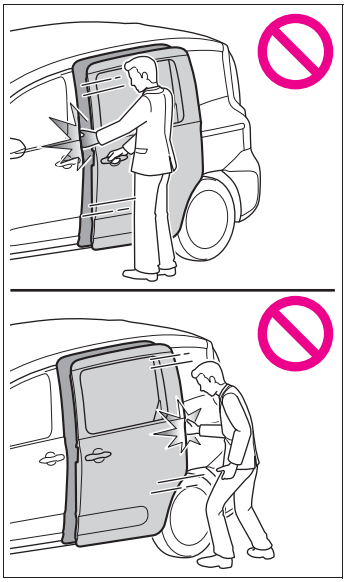
⚠警告

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。

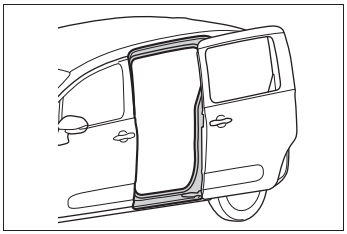


●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



車外から解錠／施錠するには

■ **スマートエントリー&スタートシステムを使用する**

→P.134

■ **ワイヤレス機能を使用する**

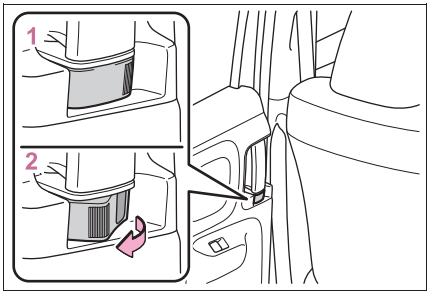
→P.134

車内から解錠／施錠するには

■ **ドアロックスイッチを使用する**

→P.137

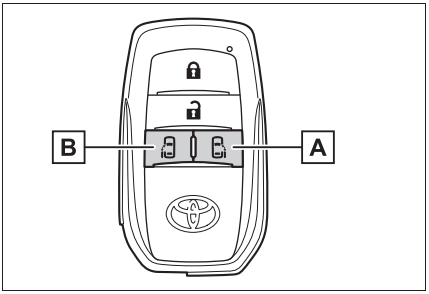
■ **ロックレバーを使用する**



1 施錠
2 解錠

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

■ ワイヤレス機能を使用する



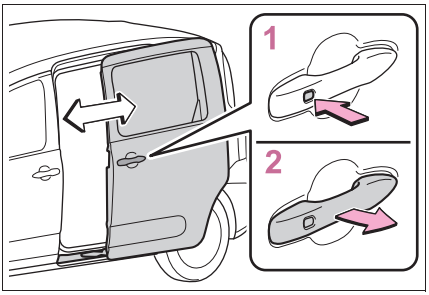
A 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）★

B 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

スライドドアを解錠してから操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アウトサイドドアハンドルを使用する



1 スイッチを押して開閉する

ドアが施錠されているとき：電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。

電子キーが検知エリア内（→P.154）にある状態で、スイッチを押してください。

ドアが解錠されているとき：電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが自動で開閉します。

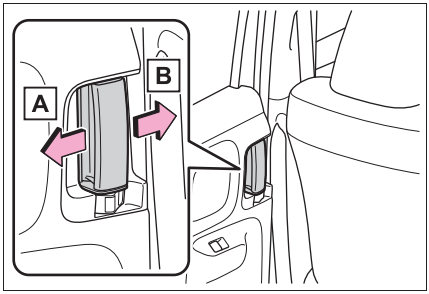
2 ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、作動を停止します。再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、反転作動します。

■ インサイドドアハンドルを使用する

インサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。



自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

A 開ける

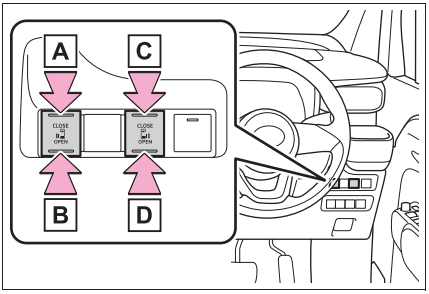
スライドドアを解錠してから操作してください。

B 閉める

■ パワースライドドア開閉スイッチを使用する

スイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。



A 助手席側パワースライドドアを閉じる

B 助手席側パワースライドドアを開ける

C 運転席側パワースライドドアを閉じる★

D 運転席側パワースライドドアを開ける★

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

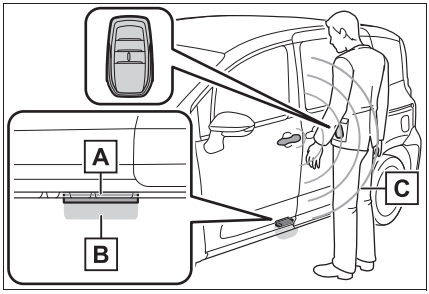
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワースライドドア）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントドア後端の車体下側センサー部に足を近付けて離す動作をすることで、スライドドアを自動で開閉することができます。キックセンサーを使用して開閉するときは、フロントドア（開けるスライドドアと同じ側）が閉じている、ハンズフリーパワースライドドアの作動が ON、かつ電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯しスマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でフロントドアハンドルから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワースライドドア作動検知エリア

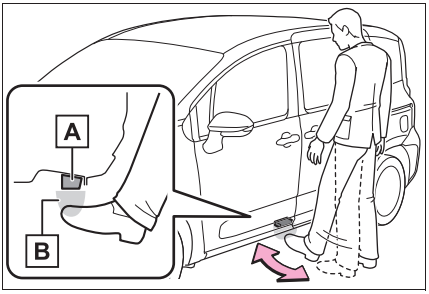
C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア

2 足をキックセンサーから約 10cm の距離になるまで近づけてすぐ引く

足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。

足先をフロントドア後端の車体下側に入れたままでは作動しません。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワースライドドア作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後スライドドアが自動で全開・全閉します。

スライドドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

作動が停止した状態から再度操作をすると、スライドドアは反転作動します。

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイージークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

●パワースイッチのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。

●アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。

●スライドドアイージークローザーが作動中でもアウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作してドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

パワースイッチが ON のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

●シフトポジションが P のとき

●パーキングブレーキがかかっているとき

●ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します

逆方向に動く：
・アウトサイドドアハンドルを操作する開方向に動く：
・インサイドドアハンドルを開方向に操作するまたはパワースライドドアス

イッチ（OPEN 側）を押す
閉方向に動く：
・インサイドドアハンドルを閉方向に操作するまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■ハンズフリーパワースライドドア★の作動条件

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●ハンズフリーパワースライドドアの作動が ON のとき（→P.505）

●フロントドア（開けるスライドと同じ側）が閉まっているとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.154）

●足をキックセンサーに近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■ハンズフリーパワースライドドア★が正常に作動しない状況

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワースライドドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をフロントドア後端の車体下側に入れたままのとき

●キックセンサーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき

キックセンサーにふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がキックセンサーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.155）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでキックセンサーに大量の水がかかっているとき

●キックセンサーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●キックセンサーに草木など動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●キックセンサーの近くにアクセサリー用品を付けたとき

アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワースライドドアの作動を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワースライドドア★の誤動作を防ぐために

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワースライドドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、パワースライドドアメインスイッチを OFF、またはハンズフリーパワースライドドアの作動を OFF にしてください。（→P.505）

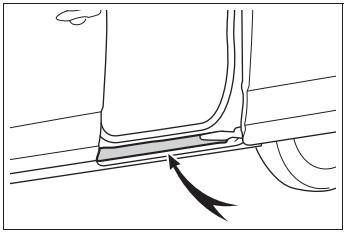
●洗車や大雨などでキックセンサーに大量の水がかかっているとき

●フロントドア後端下側の汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがキックセンサーの下を横切ったとき

●キックセンサーの下のものを取る動作をしたとき

●スライドドアのステップ部に腰かけて、足を動かしたとき



●フロントドア後端下側に足や体をふれながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●キックセンサーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●キックセンサーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●キックセンサーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業をしたとき

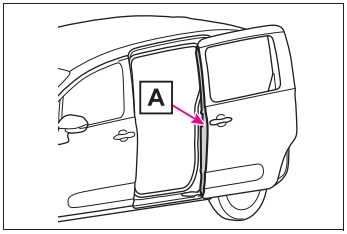
●けん引されるとき

■補機バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサー[A]が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.134, 151）
またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.134）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。

予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

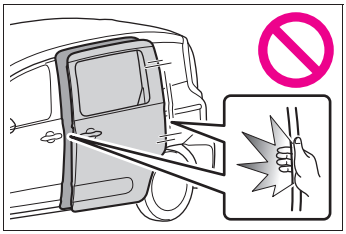
●予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

⚠警告

■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→P.142)



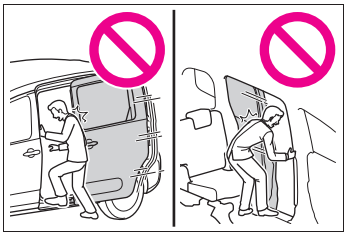
●スライドドアイージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

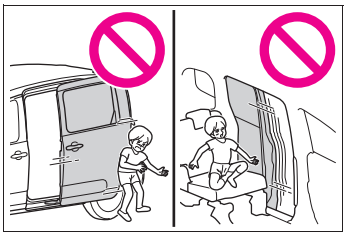


●アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

⚠警告

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアの機能を停止してください。

●タイヤ交換時や洗車時は、パワースライドドアの機能を停止してください。パワースライドドアメインスイッチを OFF にしないと意図せずパワースライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 警告

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ハンズフリーパワースライドドア★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワースライドドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながる場合があります。

●周囲の安全を確かめ障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●電子キーを作動範囲内に放置しないでください。

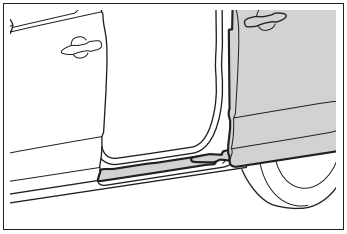
⚠ 注意

■スライドドアについて

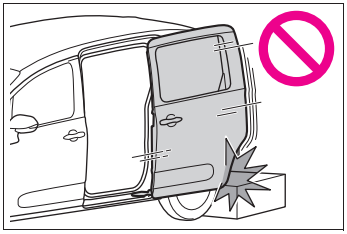
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→P.379）に収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

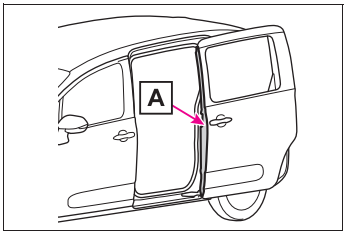
●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー A を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。

⚠注意

センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



■ハンズフリーパワースライドドア★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キックセンサーはフロントドア後端の車体下側に設置されています。ハンズフリーパワースライドドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●キックセンサーは常にきれいにしておく

キックセンサーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認してください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●キックセンサーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●キックセンサーに草木など動くものを近づけない

キックセンサーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●キックセンサーへの強い衝撃を避ける

キックセンサーの近くに強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・キックセンサーに傷や破損がある

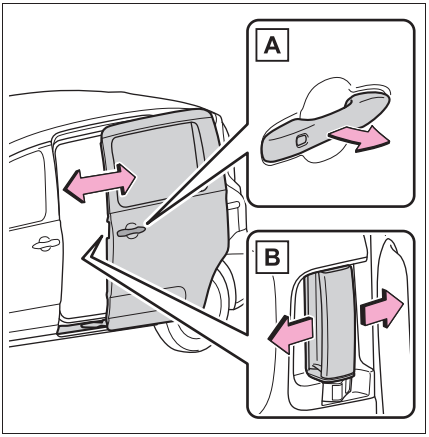
●キックセンサーを分解しない

●キックセンサーにステッカー貼らない

●キックセンサーを塗装しない

スライドドアの手動開閉

パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作します。

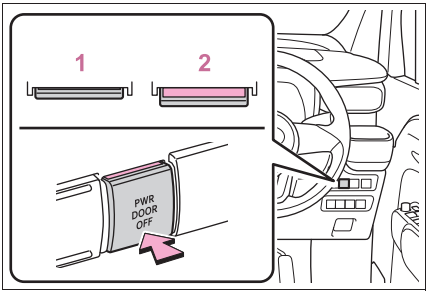


A アウトサイドドアハンドル

B インサイドドアハンドル

パワースライドドアの機能を停止するには

パワースライドドアメインスイッチ（PWR DOOR OFF）を OFF にしてパワースライドドアの機能を停止します。



1 OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

2 ON※

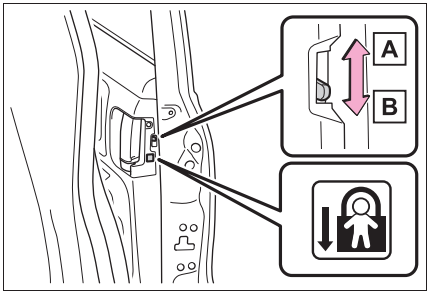
パワースライドドアをワイヤレスリモコン／アウトサイドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドア開閉スイッチの操作／ハンズフリー操作★により、自動で開閉できます。

※ ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。



A 解錠

B 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠してアウトサイドドアハンドルを操作すると開きます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージスペースでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージスペースには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

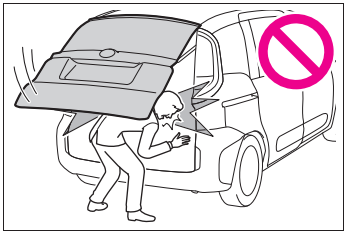
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

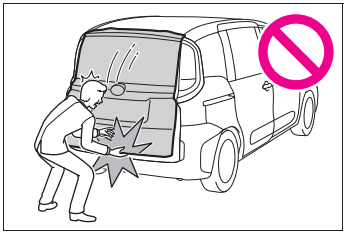
●強風時の開閉、中間保持には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。



⚠ 警告

- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

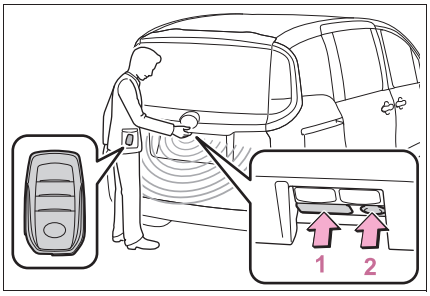


- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステー（→P.153）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.134

知識

■作動の合図

→P.135

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.135

車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

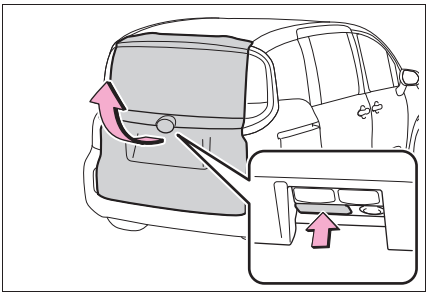
→P.137

バックドアを開閉するには

■ 開ける

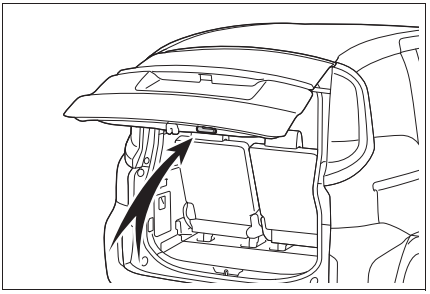
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



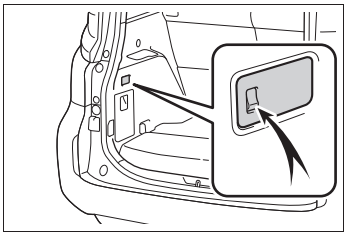
知識

■ラゲージルームランプ

▶車いす仕様車（スロープタイプ）以外

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

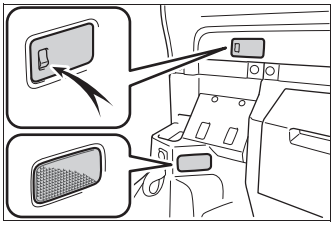


▶車いす仕様車（スロープタイプ）

スイッチ付きランプ：スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

スイッチなしランプ：バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。



■半ドア走行時警告ブザー

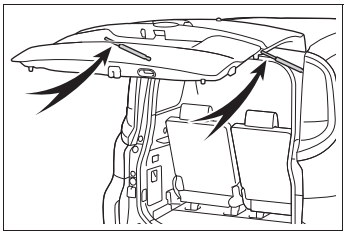
→P.137

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

● ドアを施錠・解錠する（→P.134）

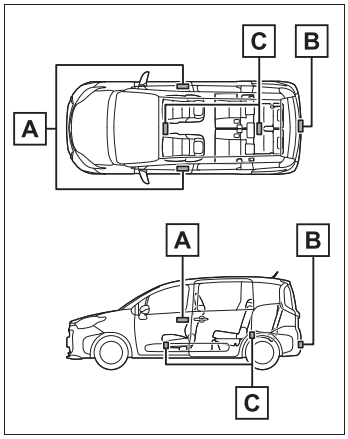
● バックドアを施錠・解錠する（→P.151）

● ハイブリッドシステムを始動する（→P.200）

知識

■アンテナの位置

▶標準仕様車

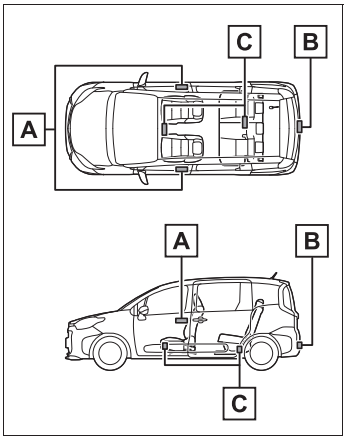


A 車外アンテナ

B 車外アンテナ（バックドア）

C 車室内アンテナ（車内）

▶車いす仕様車（スロープタイプ）



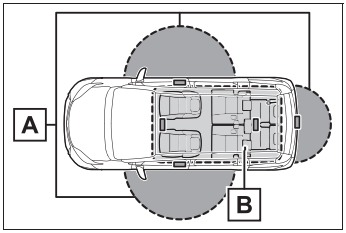
A 車外アンテナ

B 車外アンテナ（バックドア）

C 車室内アンテナ（車内）

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

▶標準仕様車



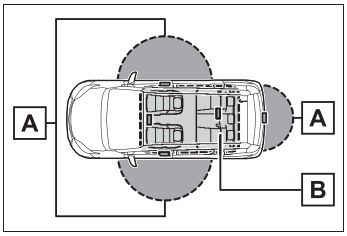
A ドアの施錠・解錠時

フロント席のドアハンドル・バックドアロック／アンロックスイッチから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

▶車いす仕様車（スロープタイプ）



A ドアの施錠・解錠時

フロント席のドアハンドル・車両側面のバックドアスイッチ・バックドアロック／アンロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と５秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

●車内から警告音が “ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。また、イルミネーテッドエントリーシステムや接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

・車の周辺に電子キーを一定時間放置した
・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

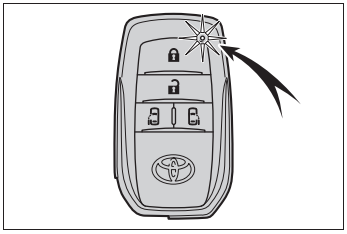
●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.471）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.472）

また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.469 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
・ドアの開錠時に電子キーと車両との間を体で遮っている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあ

ります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.155）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.135）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.135）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。

・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉した

あと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.135）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.135）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーの電池消耗を抑えることができます。（→P.155）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠（→P.472）

●ハイブリッドシステムの始動（→P.472）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.495）

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.134, 471）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.472

●ハイブリッドシステムの停止：→P.202

⚠警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.153）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

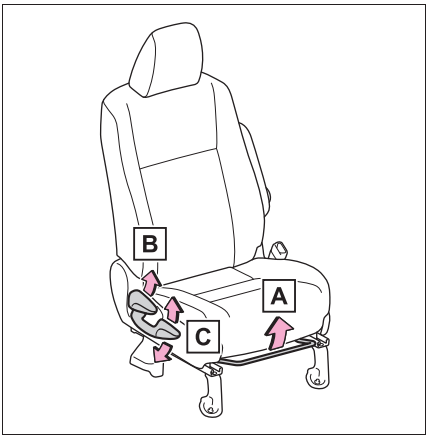
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。（→P.27）

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C シート全体の上下調整（運転席のみ）

知識

■シートを調整するときは

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。

⚠警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

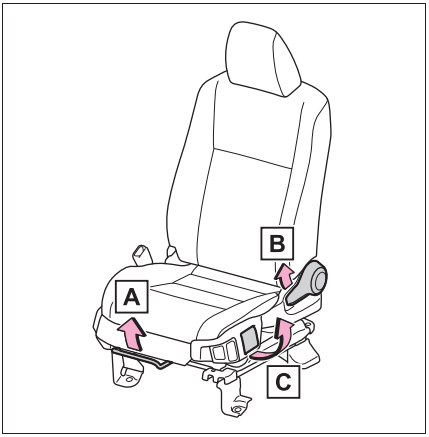
●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

助手席ターンチルトシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ターンチルトシートは、シートを車内外に回転させることで、乗降をサポートします。必要に応じて、介助の方が操作を行ってください。

調整・回転するには



A 前後位置調整（スライドレバー）

B リクライニング調整

C 回転レバー

知識

■シートの前後位置調整について

前後位置調整中に、シートが中間位置で止まりますが故障ではありません。スライドレバーを一度下げて、再度前後位置を調整してください。

■回転レバーについて

回転レバーがポップアップする位置付近で回転レバーが少しポップアップすることがありますが、故障ではありません。回転レバーが完全にポップアップする位置で、回転レバーを操作してください。

⚠警告

■シートを調整・回転するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手や足を近付けないでください。

手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■シートの調整・回転について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整・回転後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠注意

■シートを調整・回転するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

ターンチルトシートの操作をする前に

次のことを確認してください。

- グローブボックスのフタが閉まっている
- サンバイザーが格納されている
- 背もたれは前方・後方に必要以上に倒れていない
- ヘッドレストの高さがいちばん低い位置になっている
- シートベルトをはずす

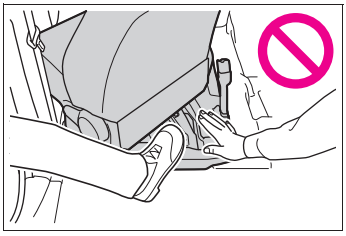
⚠ 警告

■ターンチルトシートを操作する前に

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドア開口部に頭部をあてたりしないように、乗り降りする方の頭上の安全を確認してください。
- ボデーと腕があたらないように、ターンチルトシートを勢いよく操作しないでください。
- ターンチルトシートを操作するときシート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



- ターンチルトシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボデーにあたり、座った状態でのシートの回転が困難になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

■ターンチルトシートを操作する前に

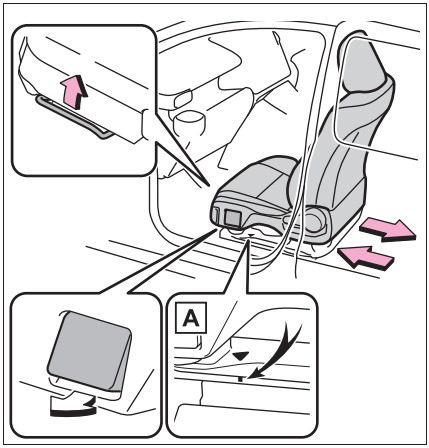
ターンチルトシート可動部に手や衣服（スカート・マフラーなど）を巻き込まないようにご注意ください。

乗降するには

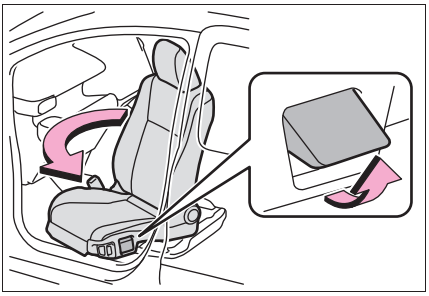
■ 乗車するには

1 シートがロック（マーク位置 A）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。



2 ポップアップした回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる

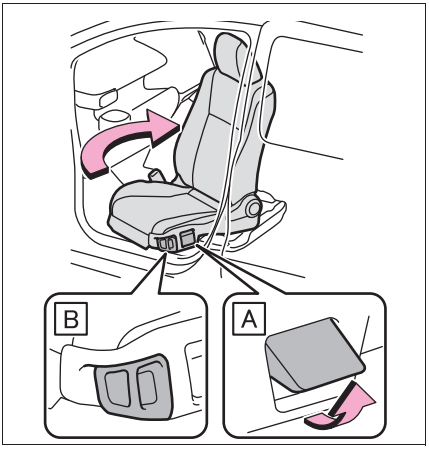


3 シートに座り、回転レバーを引きながらシートを内側へ回転させる

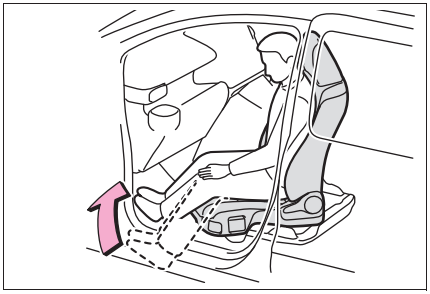
4 シートが回転し始めたら回転レバー[A]から手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

中間ロック位置でロックされます。

介助の方は、必要に応じてグリップ[B]を使用すると回転しやすくなります。



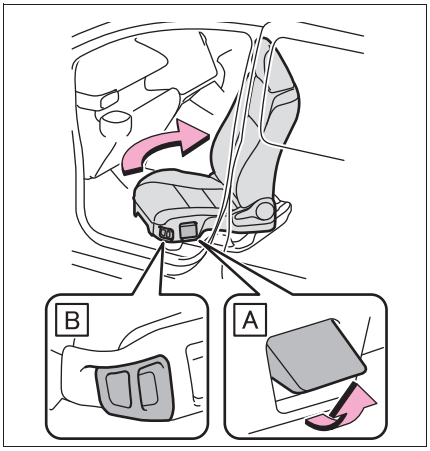
5 中間ロック位置で足を車内に入れる



6 回転レバーを引きながらシートを内側へ回転させる

7 シートが回転し始めたら回転レバー[A]から手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

介助の方は、必要に応じてグリップ[B]を使用すると回転しやすくなります。



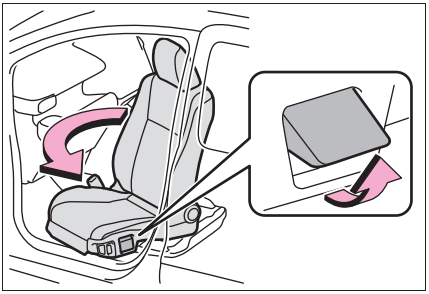
8 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

■ 降車するには

1 シートがロック（マーク位置A）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。

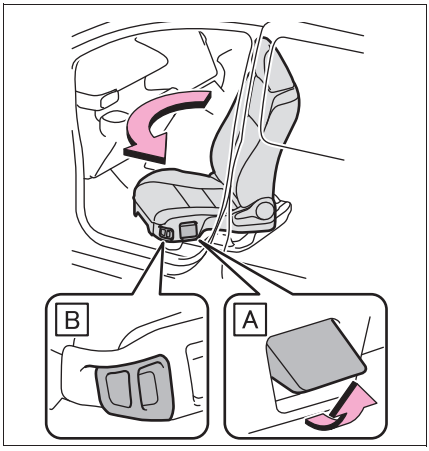
2 ポップアップした回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる



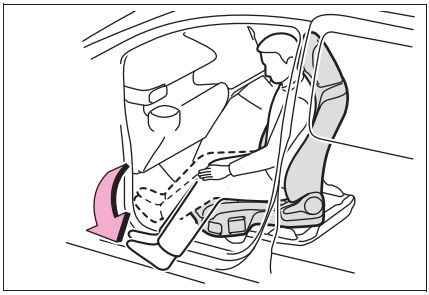
3 シートが回転し始めたら回転レバーAから手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

中間ロック位置でロックされます。

介助の方は、必要に応じてグリップBを使用すると回転しやすくなります。



4 中間ロック位置で足を車外に出す



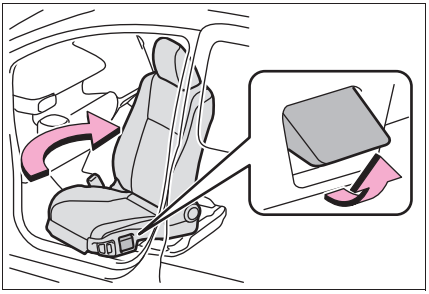
5 回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる

6 シートが回転し始めたら回転レバーAから手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させ、降りる

介助の方は、必要に応じてグリップBを使用すると回転しやすくなります。

7 回転レバーを引きながらシートを格納位置まで回転させる

シートが格納されると“カチッ”と音がします。



8 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

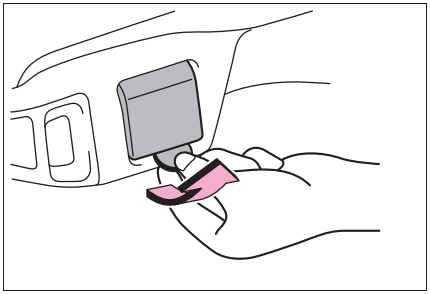
知識

■ターンチルトシートの回転操作について

●ターンチルトシートとレールのマーク位置が合わないと、シートを回転させることはできません。

●回転レバーを引いた状態では、ターンチルトシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転レバーから手を放してください。

●回転レバーがポップアップする位置以外では、回転レバーを操作しないでください。万一、シートが回転できる位置で回転レバーが閉じてしまった場合は、コインなどを使用して回転レバーを引き出してください。



■ターンチルトシートが回転しないとき

●車内から回転できない場合

すみやかにトヨタ販売店または専門業者で点検を受けてください。

●車外に出た状態で回転しない場合
（→P.483）

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■操作するときは

●走行中やドアが閉じているときは、ターンチルトシートを操作しない

●不整地や傾斜地で操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする

⚠ 警告

■ターンチルトシートをもとの位置にもどしたあとは

ターンチルトシートを前後左右にゆすり、シートが確実に格納位置で固定されているか確認してください。

⚠ 注意

■損傷を防ぐために

●回転レバーとスライドレバーを同時に操作しないでください。

正しい位置にシートが移動しなくなるおそれがあります。

●回転レバーがポップアップする位置以外では、回転レバーを操作しないでください。

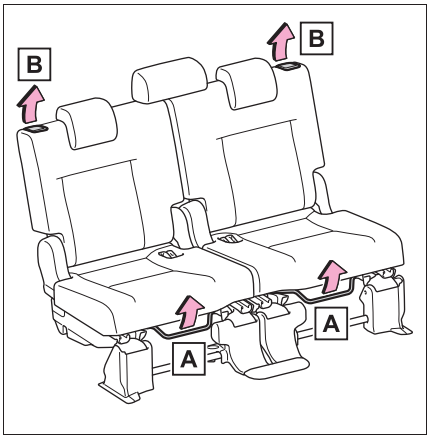
●ターンチルトシートを確実に格納してからドアを閉じてください。

シートが格納していない状態では、ドアを閉じた際にドアとシートがぶつかるおそれがあります。

セカンドシート

調整するには

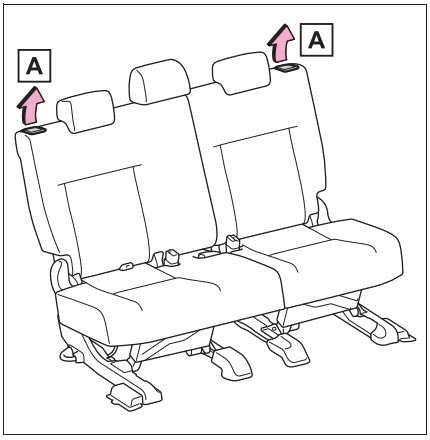
▶ 7人乗り車



A 前後位置調整

B リクライニング調整

▶ 5人乗り車



A リクライニング調整

サードシートへの乗り降り（7人乗り車）

■ セカンドシートをタンブルする

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシート中央席シートベルトを分離し、格納する（→P.31）

3 セカンドシートのシートベルトのバックルを格納する（→P.31）

4 セカンドシート左右席のヘッドレストを一番下まで下げ、中央席のヘッドレストを取りはずす（→P.171）

5 セカンドシートを前方いっぱいまでスライドする（→P.165）

6 A のレバーを引きセカンドシートをタンブルする

背もたれが前方に倒れ、シートが起きあがります。

助手席側セカンドシートをタンブルしてから運転席側セカンドシートをタンブルしてください。

運転席側セカンドシートのみタンブルする場合は、セカンドシート中央席ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.171）

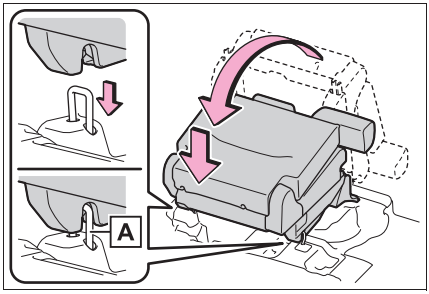
セカンドシートをタンブルしたときにフロントシートとあたる場合は、フロントシートを前方にスライドしてください。（→P.159）

■ セカンドシートをもとにもどすときは

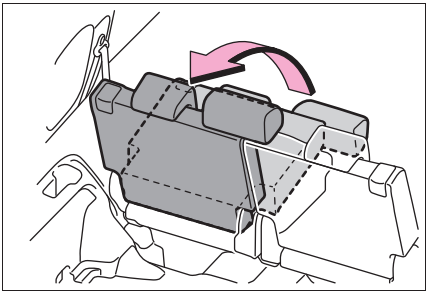
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートを固定する

シート脚部を床面ロック部にゆっくり降ろし、セカンドシートうしろ側を床に押しつけて確実にロック部 A を固定させます。



3 背もたれを起こし、固定する



4 ヘッドレストを取りはずした場合は、ヘッドレストを取り付ける（→P.172）

5 中央席を使用するときは、セカンドシート中央席シートベルトを取りつける（→P.31）

セカンドシートを格納するには

→P.174

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はシート操作をしないでください。

■リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■セカンドシート中央席に座るときは

中央席に座るときは、前後位置（7 人乗り車）およびリクライニング角度を左右のシートで同じにしてください。
お守りいただかないと、セカンドシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■サードシートへの乗り降りについて（7 人乗り車）

- サードシートへ乗り降りする際はフロアからの突起につまずかないように注意してください。
- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

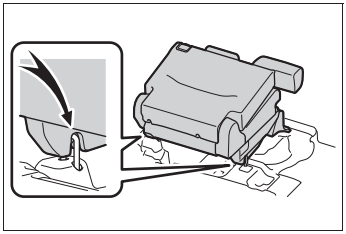
■タンブルについて（7 人乗り車）

- シートベルトが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。
- シート前方に物がないことを確認してください。
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートをタンブルしないでください。

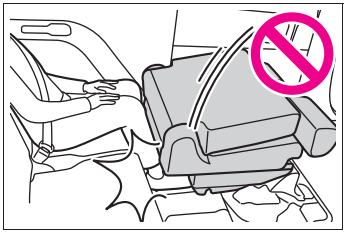
⚠ 警告

●左右のシートを同時にタンブルしないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートをタンブルするときは、片側ずつ操作してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

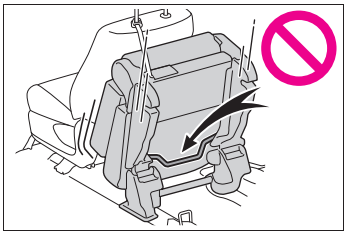


●シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。



●セカンドシートをタンブルして走行するときは、必ずシート固定ベルトでセカンドシートを固定してください。(→P.174)

●セカンドシートをタンブルしたときは、前後位置調整レバーを操作しないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。



■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

●シートベルトを挟み込まないようにする

⚠ 注意

■タンブルについて（7人乗り車）

●タンブルする前に、必ずシートベルトとバックルを格納してください。(→P.31)

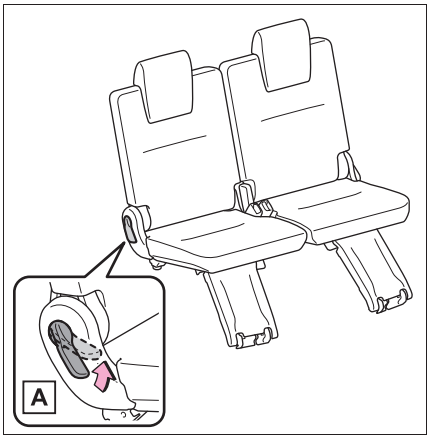
●セカンドシートをタンブルするときは、助手席側をタンブルしてから運転席側をタンブルしてください。
また、タンブルした状態からもとにもどすときは、運転席側をもとにもどしてから、助手席側をもとにもどしてください。
順番を間違えるとセカンドシート中央席ヘッドレストと運転席側セカンドシートが干渉し、シートが損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

- シートをおろすときは、シート脚部および床面ロック部に物がないことを確認してから行ってください。
- リクライニングレバーを引くとシート全体が自動的にはねあがりますので注意してください。

サードシート（7 人乗り車）

調整するには



A リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

→P.166

サードシートを格納する

→P.176

知識

■バックドア側からリクライニング角度を調整する

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かします。

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

⚠ 警告

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はシート操作をしないでください。

■リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

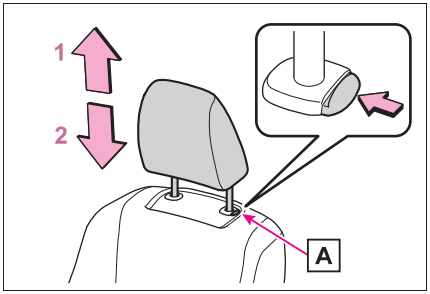
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロントシート

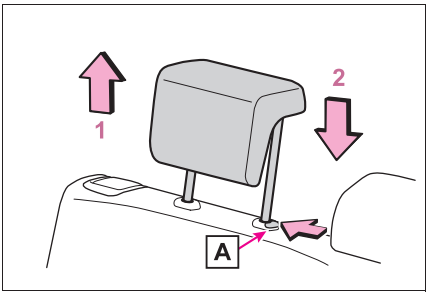


1 上げる
2 下げる

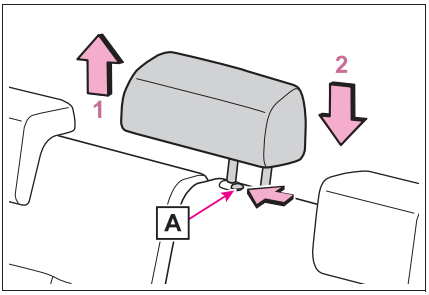
下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ セカンドシート／サードシート★

▶ 7人乗り車セカンドシート（中央席）を除く



▶ 7人乗り車セカンドシート（中央席）



1 上げる
2 下げる

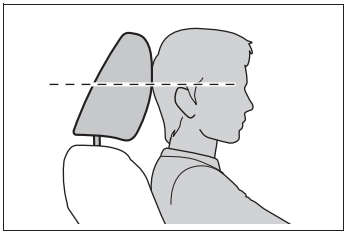
下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■セカンドシート・サードシート★のヘッドレストを使うときは

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

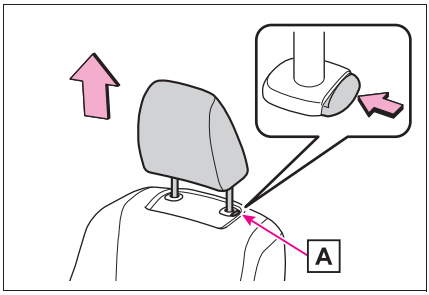
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストを取りはずすには

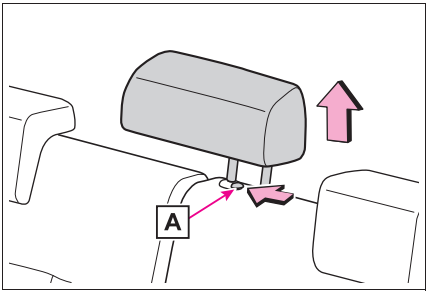
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さ（運転席のみ）や角度をかえてください。（→P.159）

▶ 7人乗り車セカンドシート（中央席）を除く



▶ 7人乗り車セカンドシート（中央席）



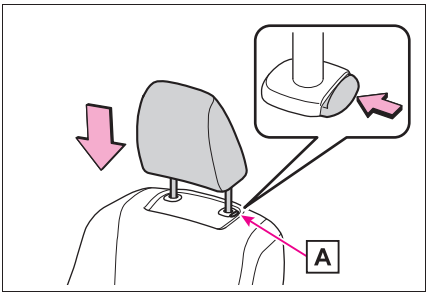
ヘッドレストを取り付けるには

▶ 7人乗り車セカンドシート（中央席）を除く

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

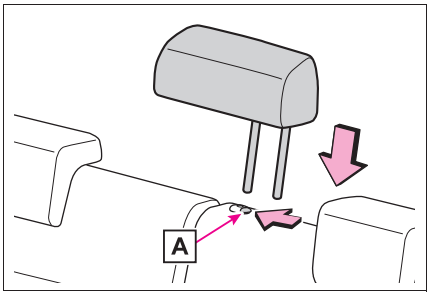
※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶ 7人乗り車セカンドシート（中央席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンAを押しながら押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



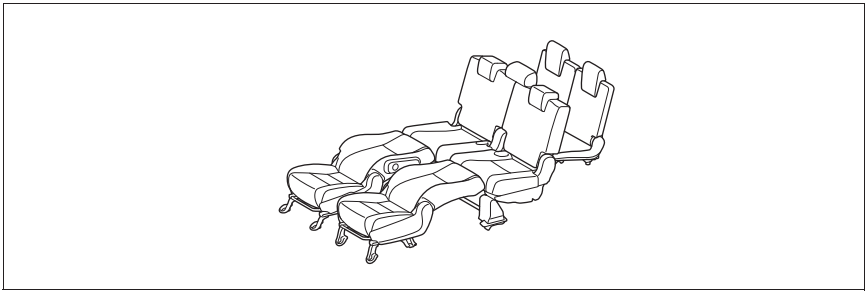
シートアレンジ

シートアレンジ

■ フロントフラットモード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

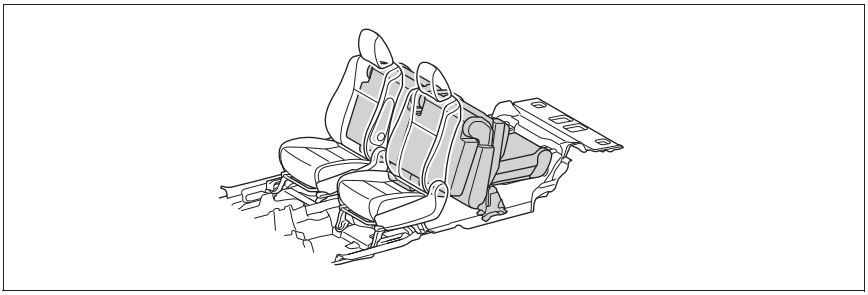
フロントシートをフルフラットにする：→P.174



■ フラットラゲージモード

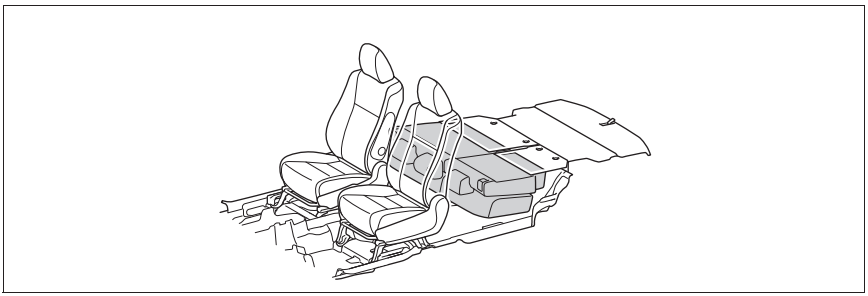
▶ 7 人乗り車

セカンドシート、サードシートを格納する：→P.174, 176



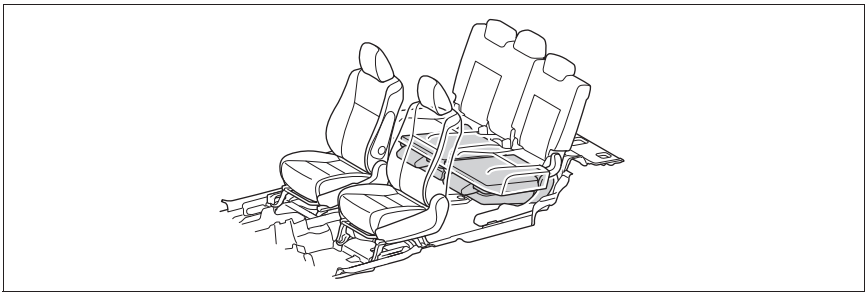
▶ 5 人乗り車

セカンドシートを格納する：→P.174



■ 荷室モード（7人乗り車）

サードシートを格納する：→176



フロントフラットモード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

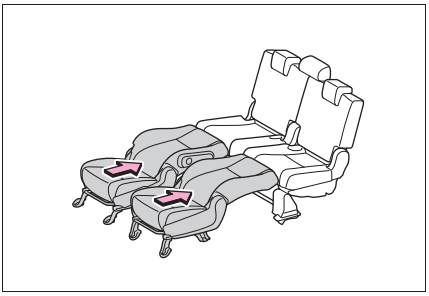
2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→P.165）

3 フロントシートのヘッドレストをはずす（→P.171）

4 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→P.159）

5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P.159）

6 セカンドシートとのすき間がなくなるようにフロントシートを移動させる（→P.159）



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

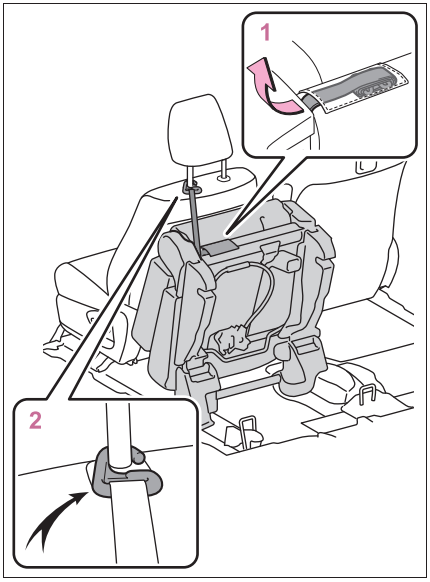
セカンドシートを格納するには

▶ 7人乗り車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをタンブルする（→P.166）

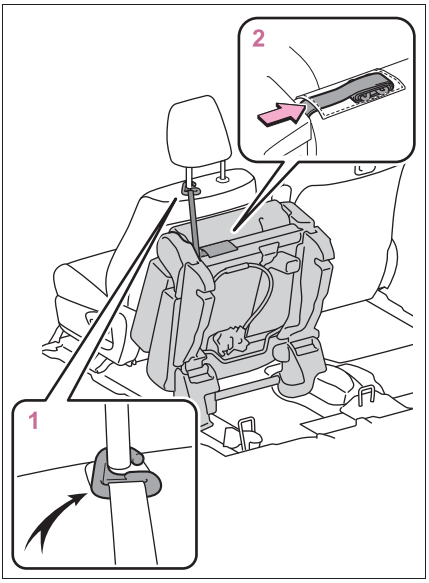
3 シートを固定する



1 シートクッション後面にあるポケットからシート固定ベルトを取り出す
2 フックをフロントシートのヘッドレストに引っかける

■ もとにもどすには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 シート固定ベルトをはずす



1 フックをはずす
2 シートクッション後面にあるポケットにシート固定ベルトを収納する
3 セカンドシートをもとにもどす（→P.166）

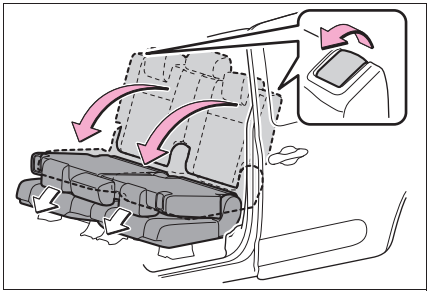
▶ 5人乗り車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 セカンドシート中央席シートベルトを分離し、格納する（→P.31）

助手席側のみを格納する場合は、セカンドシート中央席シートベルトを格納する必要はありません。

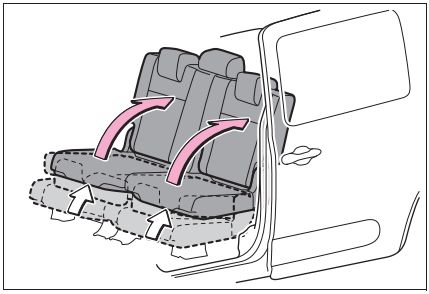
3 セカンドシートのシートベルトのバックルを格納する（→P.31）
4 セカンドシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.171）
5 背もたれを手で支えながらリクライニングレバーを引いてロックを解除し、背もたれを前方に倒す

シートが格納されます。



■ もとにもどすには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 背もたれを起こし、固定する

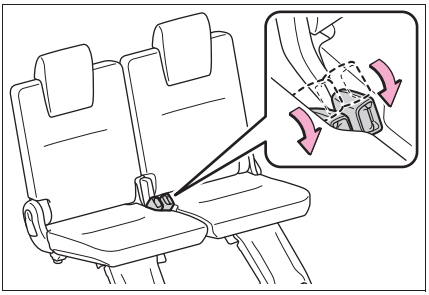


サードシートを格納するには（7人乗り車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

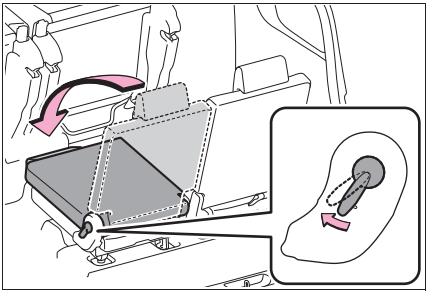
2 セカンドシートをタンブルする（→P.166）

3 サードシートのシートベルトのバックルを格納する

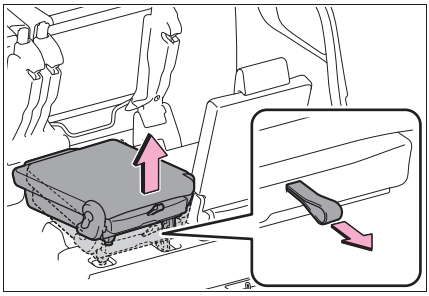


4 サードシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.171）

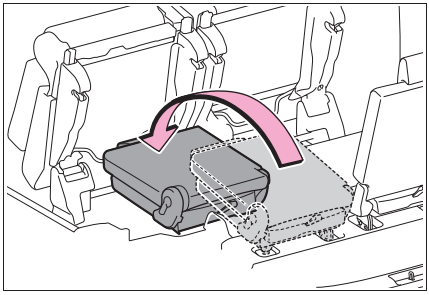
5 リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前方に倒す



6 シートロック解除ストラップを引いてロックを解除し、サードシートを引きあげる



7 サードシートを押し下げるようにしながらサードシート足元へ格納する



8 セカンドシートをもとにもどす（→P.166）

■ サードシートをもとにもどすときは

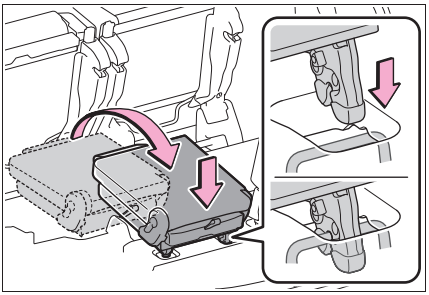
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをタンブルする（→P.166）

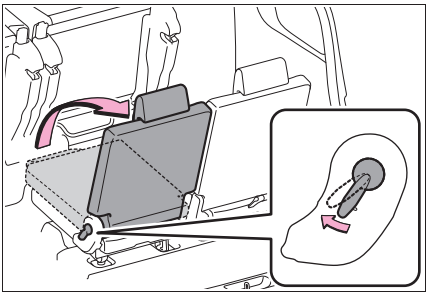
3 ストラップを握りサードシートを引きあげ、サードシートを押し下げるようにしながらシート固定位置までスライドする

シート脚部を床面ロック部にゆっくり降ろし、サードシートうしろ側を床に押し

つけて確実にロック部を固定させます。



4 リクライニングレバーを引いて、背もたれを起こす



5 セカンドシートをもとにもどす（→P.166）

⚠警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートアレンジについて

- 必ず平坦な場所でシフトポジションをPにして、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートのあいだにシートベルトやバックルが挟みこまれていないか確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■シートの格納について

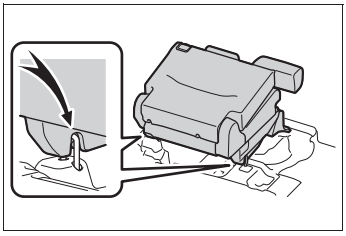
- セカンドシートを格納して走行するときは、必ずシート固定ベルトでセカンドシートを固定してください。（7人乗り車）
- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- 格納操作時以外は、セカンドシートまたはサードシートのレバーを操作しないでください。（7人乗り車）
- サードシートを格納するときは必ずストラップを持って操作してください。（7人乗り車）
- シートベルトやバックルが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。
- シート前方に物がないことを確認してください。
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。

⚠ 警告

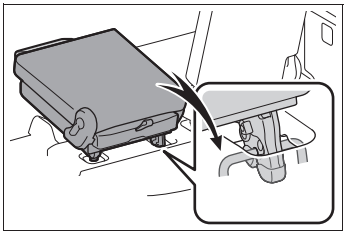
●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

●シートをもとにもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。（7 人乗り車）

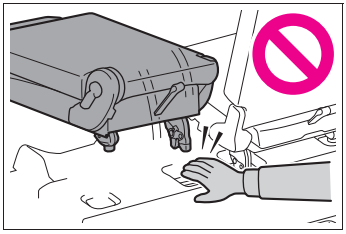
▶セカンドシート



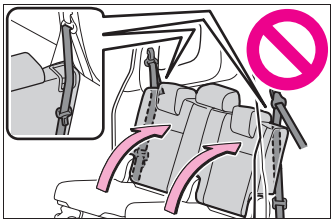
▶サードシート



●シートをもとにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。（7 人乗り車）



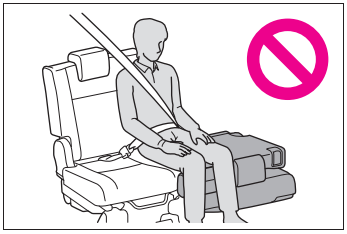
●セカンドシート操作後は、シートベルトが、背もたれのうしろ側にないことを確認してください。（5 人乗り車）



■セカンドシートを格納したときは（5 人乗り車）

走行するときは、助手席側のセカンドシートを格納した状態で中央席に座らないでください。

事故のときにクッション部が体を十分に支えきれず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

→P.168

⚠注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■シートの格納について

●シートを格納するときや、もとにもどすときは、床面やシートクッションの上に物がないことを確認してから行ってください。

●サードシート★を格納するときは、ヘッドレストを取りはずさずに格納してください。
ヘッドレストを取りはずしてサードシート★を格納すると、サードシート★が損傷するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

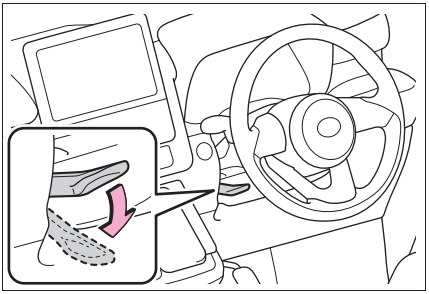
■タンブルについて（7 人乗り車）

→P.168

ハンドル

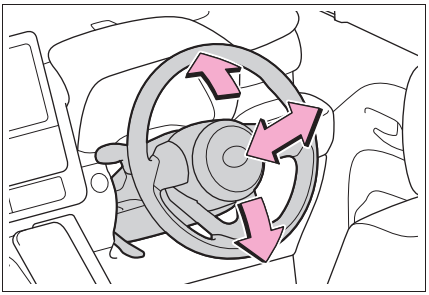
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■走行中の留意事項

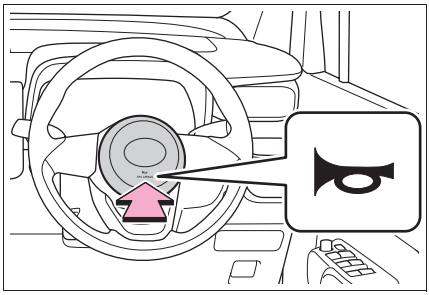
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



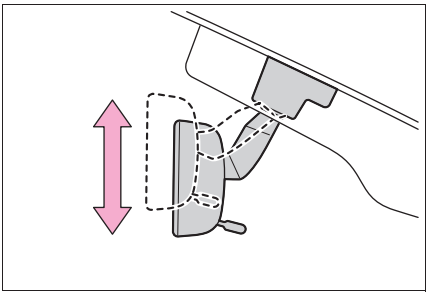
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

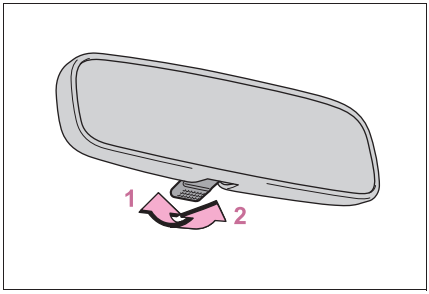
■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



1 通常使用時
2 防眩時

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.367）

⚠警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

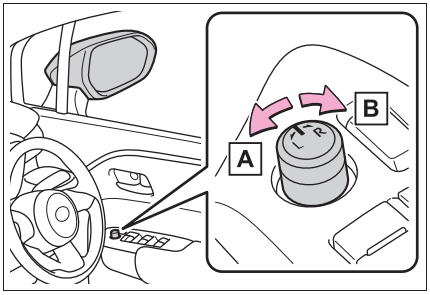
- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

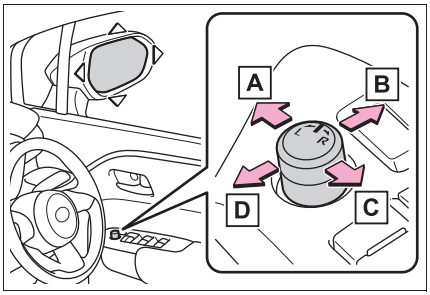
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左（L）

B 右（R）

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

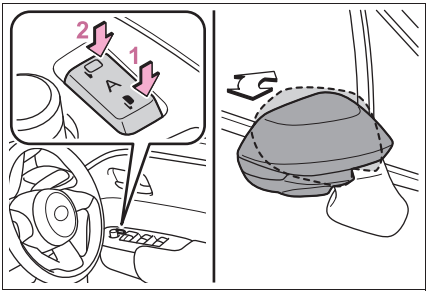
D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

ドアミラーを格納・復帰するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“A”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.492）

⚠警告

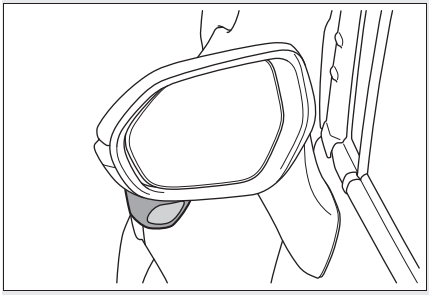
■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助確認装置★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

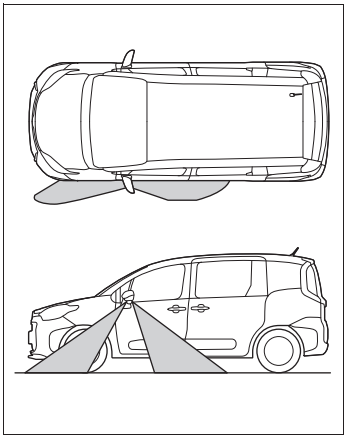


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



⚠注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声操作システムでの操作について（マルチメディアシステム装着車）

音声操作システムを使用して、ドアガラスを開閉することができます。（ウインドウロックスイッチが OFF の時のみ操作可能）

音声操作システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.472）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.134）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス連動機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.90）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.496）

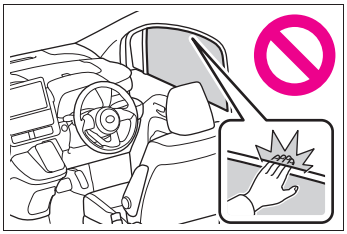
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.187）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

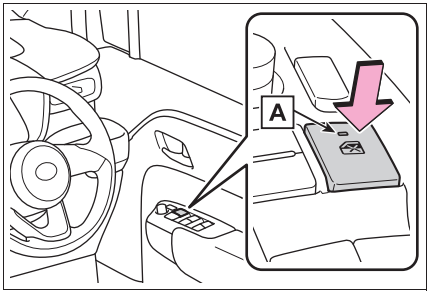
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター[A]が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

マイセッティング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Bluetooth® デバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。Bluetooth® デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● Bluetooth® デバイス

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 191

荷物を積むときの注意..... 198

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 200

EV ドライブモード..... 205

トランスミッション（ストレートタイプ）..... 207

トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプ）..... 210

方向指示レバー 214

パーキングブレーキ..... 214

ブレーキホールド 218

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 221

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 226

AHB（オートマチックハイビーム）..... 229

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 231

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 234

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 236

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）..... 238

Toyota Safety Sense..... 240

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 247

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 256

LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 261

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 266

発進遅れ告知機能..... 271

RSA（ロードサインアシスト）273

レーダークルーズコントロール276

クルーズコントロール 284

ドライバー異常時対応システム287

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 289

クリアランスソナー 294

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 303

RCD（リヤカメラディテクション）..... 308

PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 312

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]）..... 316

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 320

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 321

トヨタチームメイト アドバンストパーク 323
ドライブモードセレクトスイッチ 347
運転を補助する装置 348
プラスサポート（販売店装着オプション） 354

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 359
寒冷時の運転 361

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.200

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.214）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.215）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.208, 210）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P.214）、シフトレバーを P にする（→P.208、210）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

ストレートタイプシフトレバー装着車：シフトポジションを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P.214）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除し発進する（→P.214）

パーキングブレーキがオートモードのときは、アクセルペダルを踏むことにより自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.215）

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.359)

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します（→P.348）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→P.113, 118）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：
エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：
目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：
停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

⚠ 警告

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.436 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.207、210）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●4WD 車：
オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

⚠ 警告

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rのまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、Pポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションをRにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏みこんだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一ハイブリッドシステムが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは 2 つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

⚠ 注意

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.459 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。
その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

・ R に切りかえたとき※
・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “速度抑制中” が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.349）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.349）

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.504）

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物は荷室に積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージスペースに積まないでください。

●寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

⚠ 警告

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.214）

メータ内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：
シフトポジションがNと表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。

ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションをPにしてください。（→P.210）

ストレートタイプシフトレバー装着車：
シフトレバーをPの位置にしてください。

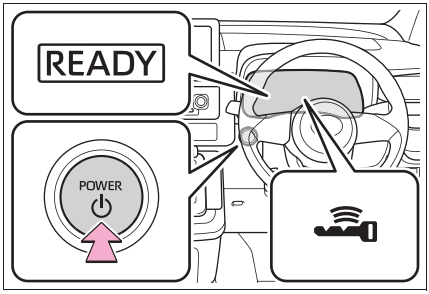
3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READYインジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



4 READYインジケーターが点灯したことを確認する

READYインジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポートをご使用の方は、P.354も併せて参照してください。

知識

■電子キーの検知に関する留意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、小物入れ内、荷室内などにあるときは、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しない可能性があります。（作動範囲：→P.154）

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.88）トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表

示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.472 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.139）はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いとき

●ハイブリッドシステム始動時にREADY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ−30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.83

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.473 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.128

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.155

■ご留意いただきたいこと

→P.156

■スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに “スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→P.452

■電子キーの電池交換

→P.425

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合や早く連続して押した場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.471 を参照してください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

▶ ストレートタイプシフトレバー装着車

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかけて（→P.214）、シフトレバーを P の位置にする（→P.207）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

パワースイッチを押すときは、シフトレバーから手を離してください。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.214）

3 シフトポジションを P にする（→P.210）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています。）

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。
システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動Pポジション切りかえ機能について（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

→P.212

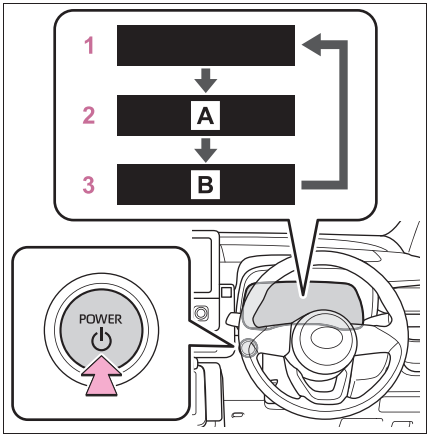
⚠警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.436）
  ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- ストレートタイプシフトレバー装着車：走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にしてパワースイッチを短く確実に押してください。
- エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にしてパワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッション ON

1 OFF※1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※2

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” が表示されます。

※1ストレートタイプシフトレバー装着車は、シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。

※2マルチメディアシステム装着車は、カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。（→P.496）

知識

■ACC カスタマイズが「OFF」のとき（マルチメディアシステム装着車）

パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき（ストレートタイプシフトレバー装着車）、20 分以上 ACC か ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

また、シフトポジションが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき（ストレートタイプシフトレバー装着車）、ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままで補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき（ストレートタイプシフトレバー装着車）

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーをPの位置にする

シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッションON”が表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に1回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッションON”の表示が消灯していることを確認する

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがONのままとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因になります。

EVドライブモード

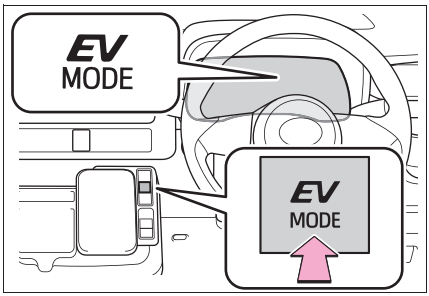
EVドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EVドライブモードの切りかえ

EVドライブモードスイッチを押す

EVドライブモードになると、EVドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EVドライブモードの切りかえについて

次のときはEVドライブモードに切りかわらない場合があります。EVドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.122）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.122）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに現在切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードが解除されました” と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション（ストレートタイプ）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモードにしても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→P.347）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.197

⚠ 警告

■すべりやすい路面を走行するとき

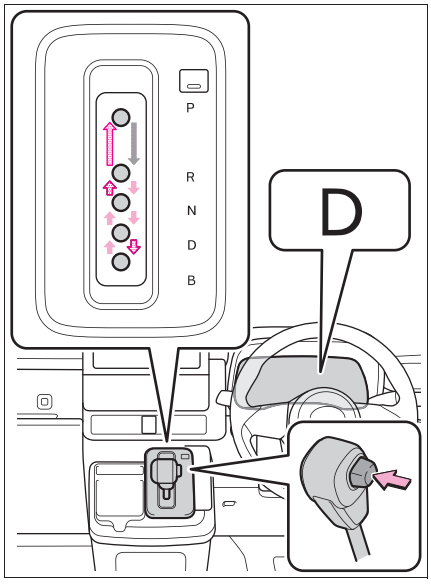
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

⚠ 注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



⇐：パワースイッチがONの状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇐：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチがONでブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

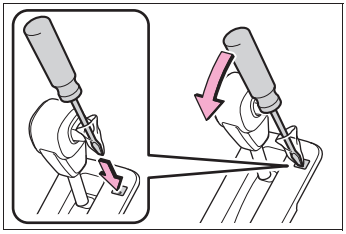
■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

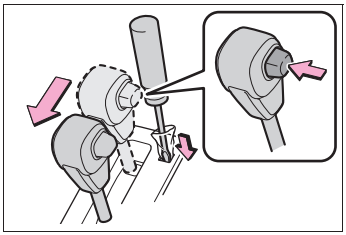
シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.214）
2 パワースイッチをOFFにする
3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

⚠警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.347

トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプ）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

知識

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

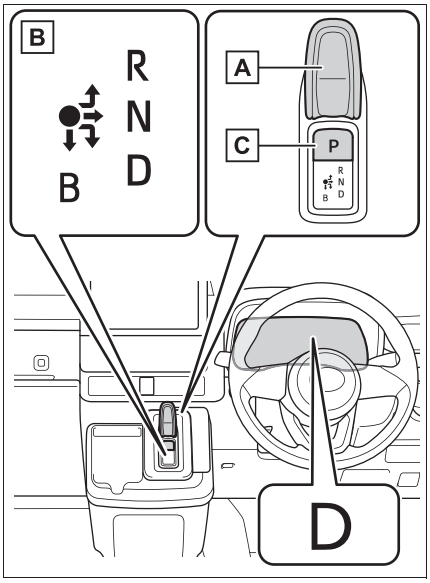
注意

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.452）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（ ● ）にもどります。

B への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・B・R から P へ、または D・B から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、B を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から B を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチが ON

・運転席シートベルトを着用していない

・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.473 を参照してください。

⚠警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

⚠ 警告

■P ポジションスイッチについて

●車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

⚠ 注意

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 停車する。

2 ブレーキホールドシステムを OFF にする。（→P.218）

3 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

4 シフトレバーを定位置（●）にもどす

5 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

6 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッドシステムが停止します。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

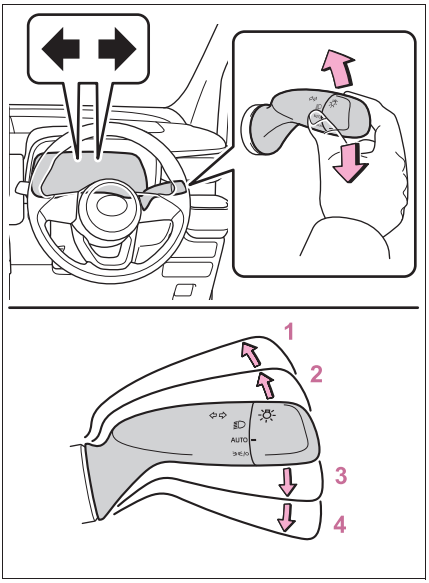
● シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して一旦シフトポジションを P に切りかえてください。

● 必ずハイブリッドシステムが始動している状態で操作してください。
ハイブリッドシステム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

方向指示レバー

操作のしかた



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

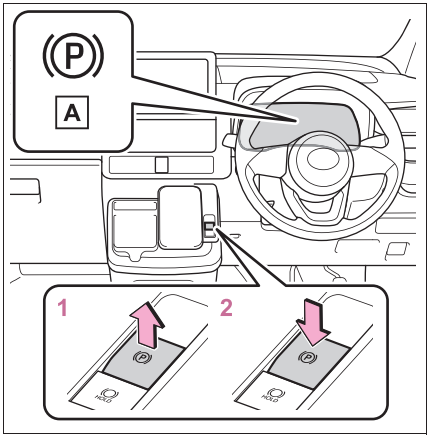
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.215)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.445)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトポジションおよび P ポジションスイッチ★は、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.214)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード(かける・解除する)は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯(黄色)が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ハイブリッドシステムオフ時パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ハイブリッドシステムを OFF したとき

●オートモード ON のとき

●ブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

■降車時パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席のドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

■自走式洗車機を利用するときなど「降車時パーキングブレーキ自動作動」機能を作動させずに、シフトポジション N で車から降りたいときは

次の操作を行うと、シフトポジション N で車から降りても降車時パーキングブレーキ自動作動機能を止めることができます。

▶ストレートタイプシフトレバー装着車

1 停車する。

2 ブレーキホールドシステムを OFF にする。（→P.219）

3 ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。（オートモードを OFF にする）

4 シフトレバーを N にする

5 ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

パーキングブレーキ表示灯が点滅します。

下記の条件をどれか満たしたとき、オートモード ON に戻ります。

パーキングブレーキ表示灯が消灯もしくは点灯します。

●シフトレバーを N 以外にしたとき

●パーキングブレーキスイッチを引いたとき

●ハイブリッドシステムを停止し、再度ハイブリッドシステムを始動したとき

▶エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

（→P.213）

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください」と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.191

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したときは

→P.445

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.362

⚠ 警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。
車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

⚠注意

■補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.473)

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

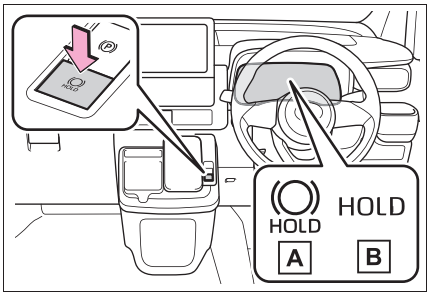
ブレーキホールド

シフトポジションがD・B・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDまたはBのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A(緑)が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B(黄)が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、「EPB動作が途中で停止しまし

た」や「EPB 故障　販売店で点検してください」が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しブレーキを保持できません。ブレーキ保持中に、運転席ドアが閉まっていないことや運転席シートベルトを着用していないことを検出した場合は、警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

ブレーキホールドシステムの ON および OFF 設定は、パワースイッチを OFF にしても維持されます。

■ブレーキ保持について

●ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しているときは、ブレーキを保持できません。

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

●パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.214）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください」または「BrakeHold 故障 販売店で点検してください」と表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.445

警告

■次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

- 急坂路
- すべりやすい路面
- 自動洗車機を使用するとき
- けん引されるとき

注意

■駐車するとき

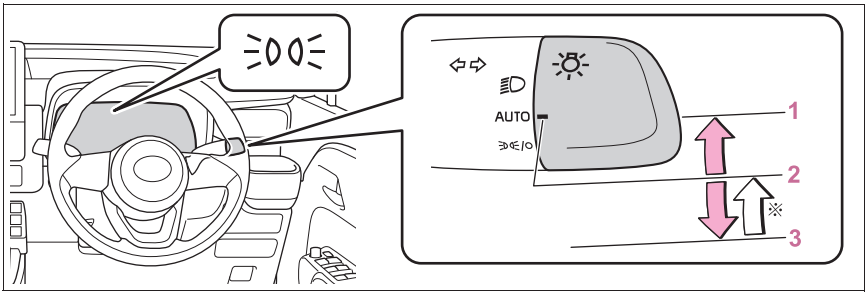
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO※1	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3/O※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

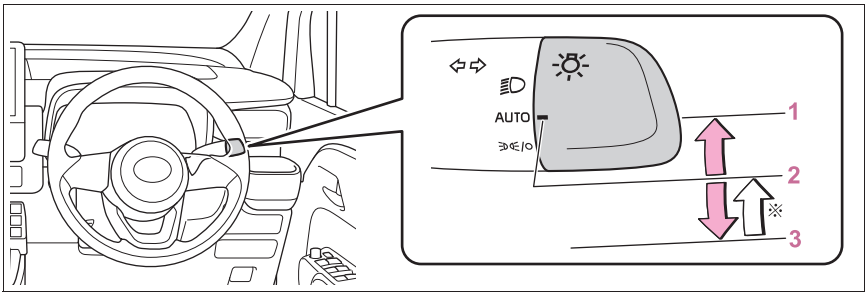
※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3/Oによる点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

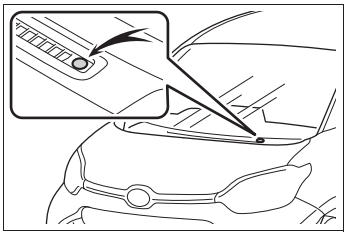
パワースイッチが ON のとき

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にすると自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプス

イッチをAUTOにしてから/Oまたはの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態でパワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能※

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■カスタマイズ機能

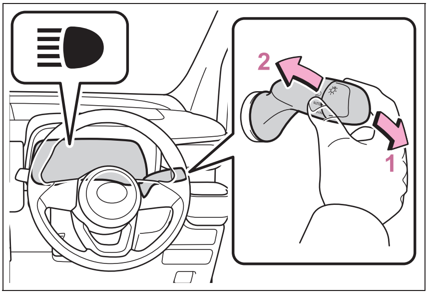
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.497）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

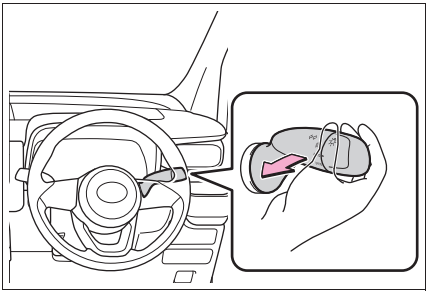
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

ヘッドランプ一時点灯機能

パワースイッチが OFF の状態で、ヘッドランプを 30 秒間点灯させることができます。

パワースイッチを OFF にしたあと、ランプスイッチがAUTOの位置で、レバーを手前に引いて離します。

4 運転



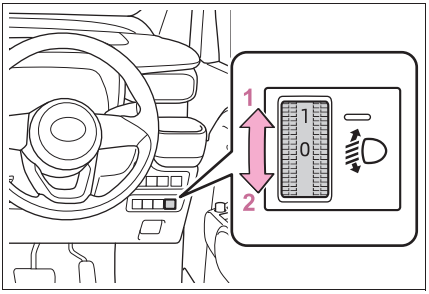
以下の操作でヘッドランプが消灯します。

- パワースイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

手動光軸調整ダイヤル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

▶ FF（前輪駆動）かつ 5 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席乗員	なし	1
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3

▶ 4WD（4 輪駆動）かつ 5 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席乗員	なし	1
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	2.5

▶ FF（前輪駆動）かつ 7 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席、サードシート全席乗員	なし	1
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3

▶ 4WD（4 輪駆動）かつ 7 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席、サードシート全席乗員	なし	1
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	2.5

■ **目盛り設定の目安（車いす仕様車［スロープタイプ］）**

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転席と助手席、サードシート全席乗員	なし	0
全乗員	なし	0
全乗員	ラゲージルーム満載時	0
運転者	ラゲージルーム満載時	0.5

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

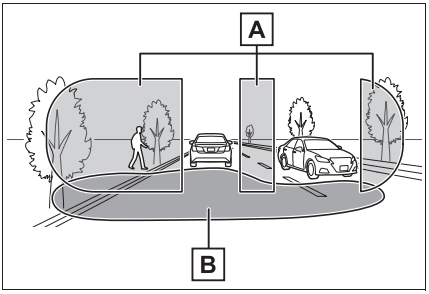
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



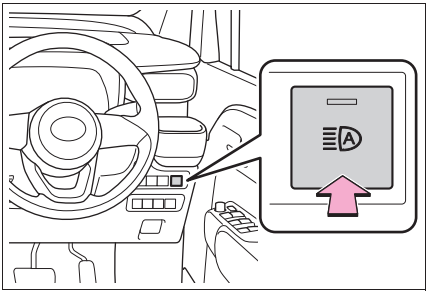
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

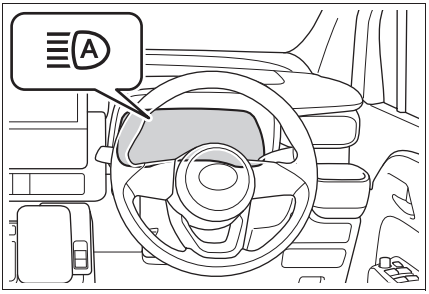
1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.240
・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.497）

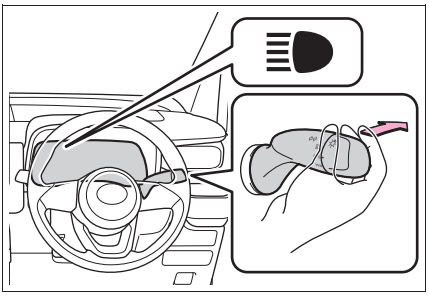
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

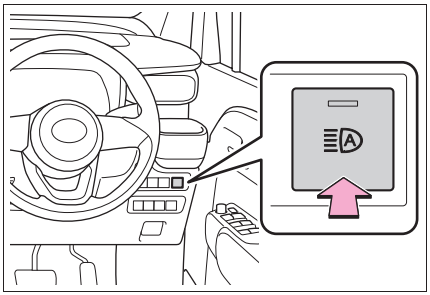


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

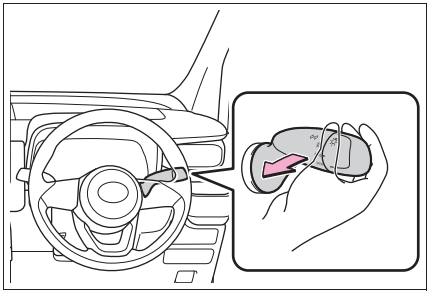


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

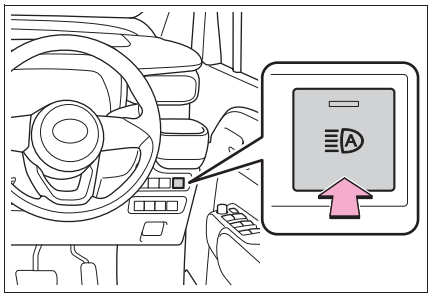
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

オートマチックハイビームを使うには

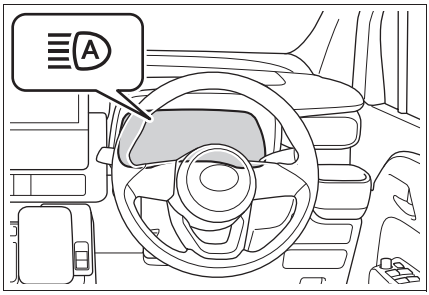
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.240
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244

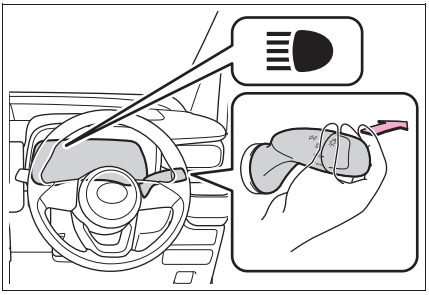
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

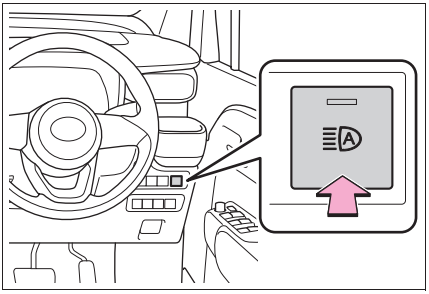


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

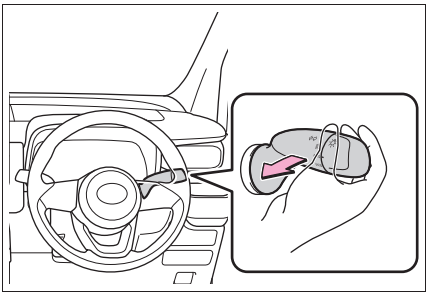


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

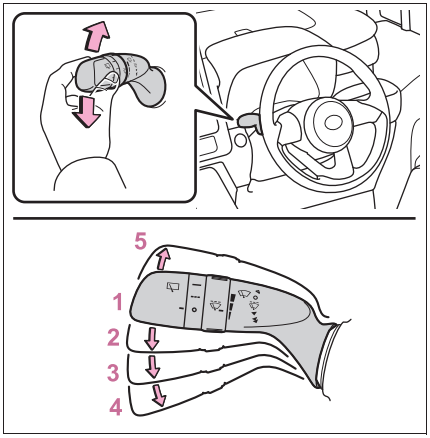
⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ○ 停止

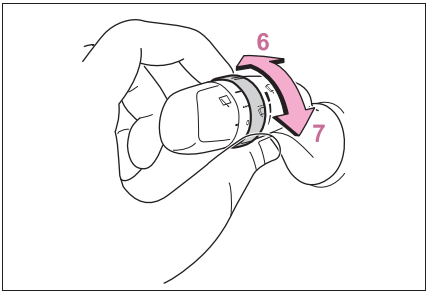
2 間欠作動

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

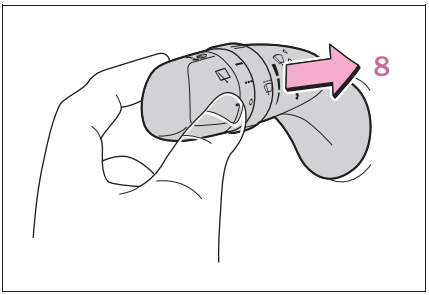
5 ⏢ 一時作動

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■音声操作システムでの操作について（マルチメディアシステム装着車）

音声操作システムを使用して次の操作をすることができます。

- フロントワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声操作システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したときは

ハイブリッドシステムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチを ON にすると通常作動を再開します。

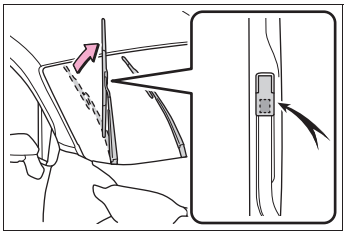
■サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを ⏢ の位置で約 2 秒以上保持する。

ワイパーがサービスポジションに移動します。

■ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



■ワイパーを格納位置に戻すには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパーを操作してください。作動後は格納位置で停止します。

⚠ 警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー(リヤ)

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

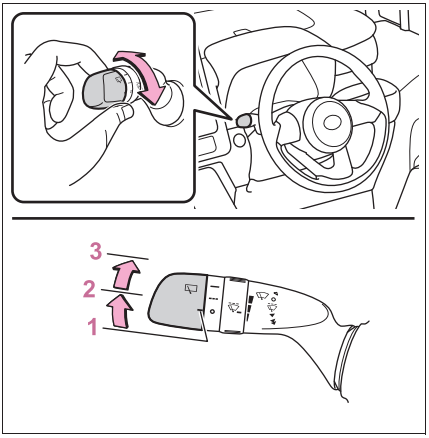
⚠注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

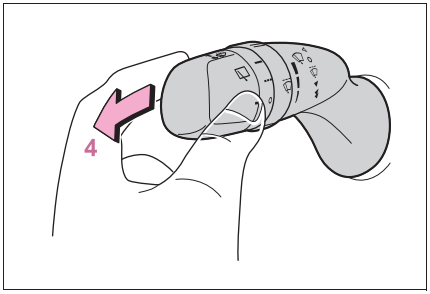
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○ 停止

2 ---間欠作動

3 ——通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■リバース連動機能

フロントワイパーが ・ ・ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトポジションを R にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.498)

⚠注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

⚠警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

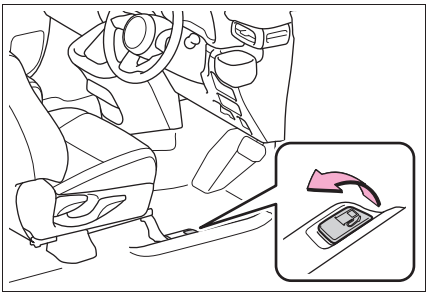
●塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

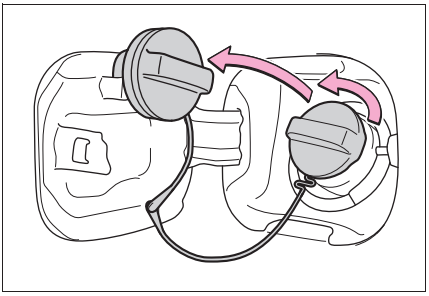
給油口の開け方／閉め方

■ 給油口を開けるには

1 オープナーを引いて、給油扉を開く



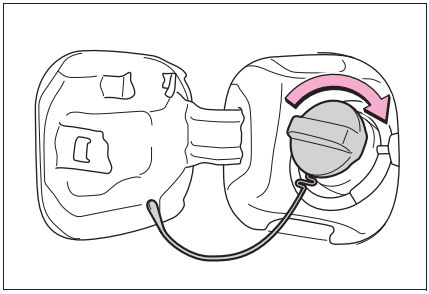
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



■ 給油口を閉めるには

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 装着車）

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

- Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイ★※／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 メインメニューの ⠿ にタッチします。

2 “運転支援アップデート” にタッチします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

■ 自車のToyota Safety Senseのバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR Code
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイ★に通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき※

・法規上の問題が発生したとき※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。
  運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。
  対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

⚠ 警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ **AHS（アダプティブハイビームシステム）★**

→P.226

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **AHB（オートマチックハイビーム）**

→P.229

■ **PCS（プリクラッシュセーフティ）**

→P.247

■ **LTA（レーントレーシングアシスト）**

→P.256

■ **LDA（レーンディパーチャーアラート）**

→P.261

■ **PDA（プロアクティブドライビングアシスト）**

→P.266

■ **発進遅れ告知機能**

→P.271

■ **RSA（ロードサインアシスト）**

→P.273

■ **レーダークルーズコントロール**

→P.276

■ **クルーズコントロール**

→P.284

■ **ドライバー異常時対応システム**

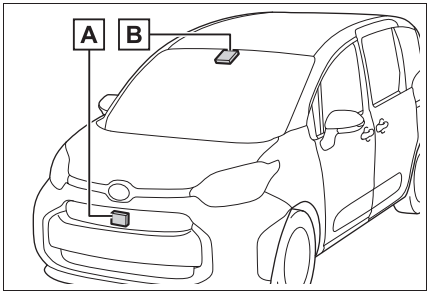
→P.287

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ **周囲の状況を検出するセンサー**

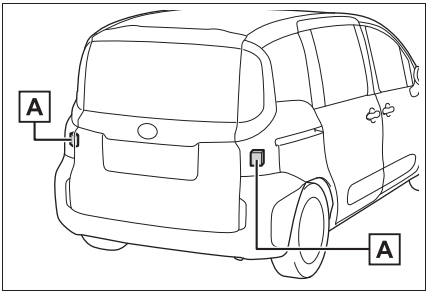
▶ フロント



A 前方レーダー

B 前方カメラ

▶ リヤ



A 後側方レーダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

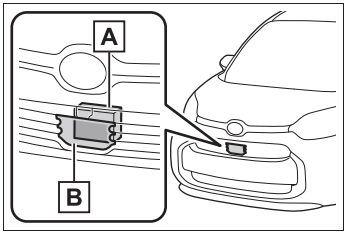
■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー・フロントグリルを交換したとき

⚠警告

■ヒーター機能付きレーダー専用カバーについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

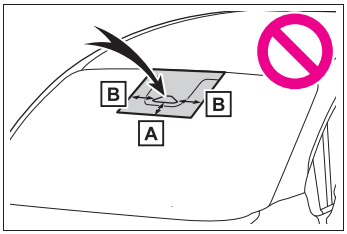
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約4cm

B 約4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

■センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●外気温が高温または低温のとき

●センサー前面に泥・雨滴・雪・虫・ゴミなどが付着したとき

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光・反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール

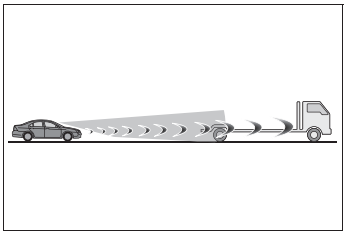
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

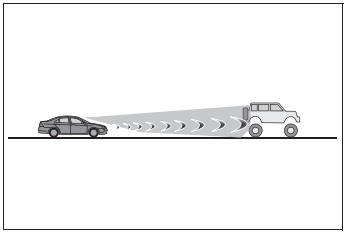
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

●VSC・TRC 等の安全システムが作動時

●VSC･TRC 等の安全システムが OFF のとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.247）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.255）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 安全にお使いいただくために：→P.240

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき:→P.240

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両
● 自転車 ※
● 歩行者
● 自動二輪車 ※
● 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

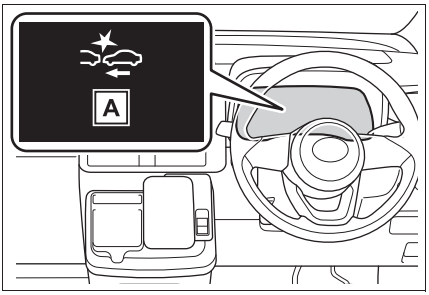
機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

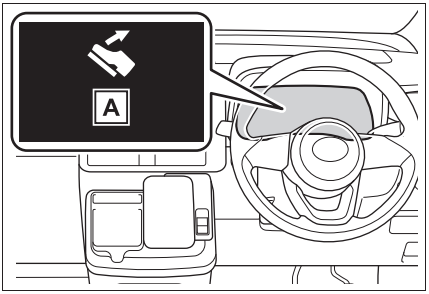
避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



A プリクラッシュセーフティ

アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A アクセルが踏まれています

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

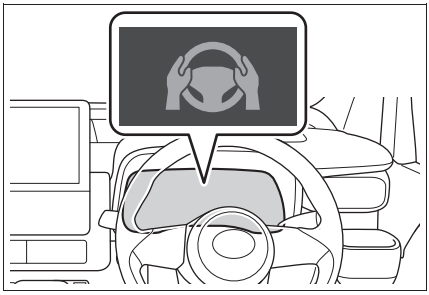
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。
作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

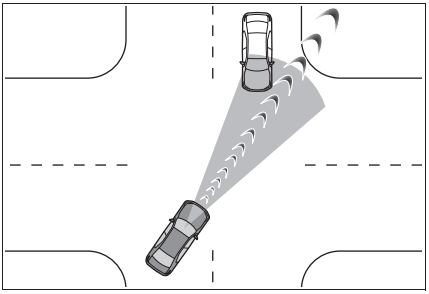
作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。



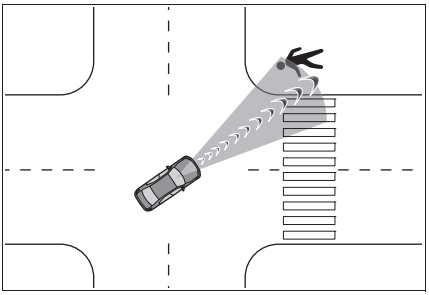
■ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車・対向自動二輪車の進路を横切るとき

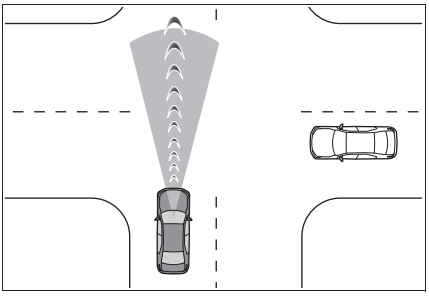


● 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



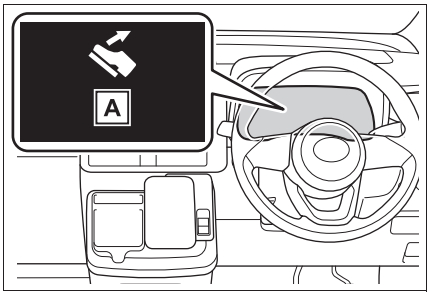
■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



A アクセルが踏まれています

⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

⚠ 警告

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30～180km/h	約 10～180 km/h
自転車	約 30～80 km/h	約 30～80 km/h
歩行者	約 30～80 km/h	約 30～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30～180 km/h	約 10～80 km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約40～80 km/h	約40～80 km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h
歩行者	約 5 ～ 30 km/h	—	約 5 ～ 40 km/h
自転車	約 5 ～ 30 km/h	—	約 5 ～ 50 km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60 km/h	·自車速度以下 ·約 40km/h 以下	約 5 ～ 60 km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約０～１５ｋｍ/ｈ	約０～１５ｋｍ/ｈ

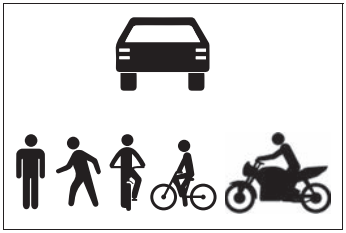
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

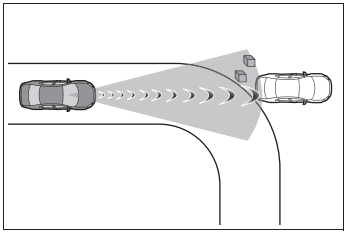
・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき

・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき

・ 作動対象などに急接近したとき

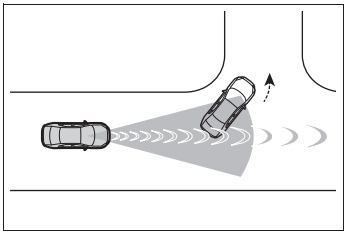
・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

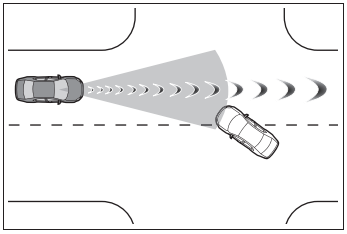


・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

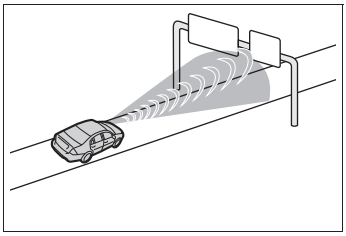


・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

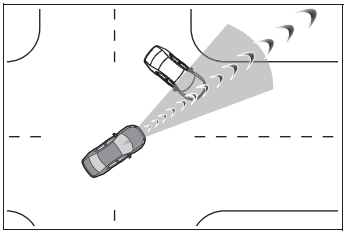


・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき

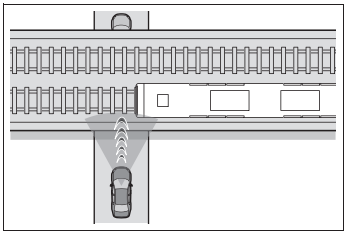
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車・対向自動二輪車・横断歩行者・横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車・対向自動二輪車・横断歩行者・横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車・対向自動二輪車・横断歩行者・横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車・対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



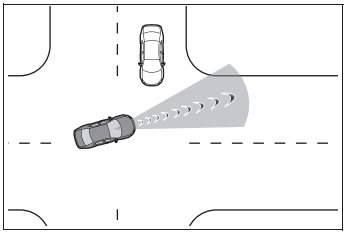
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路上方・下方を移動するものがあるとき



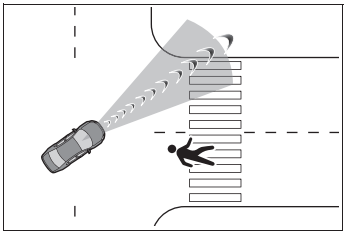
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車・対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック・牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき
・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.498）

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.498）

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

“ (遅い)” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が “ (早い)” のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車・周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

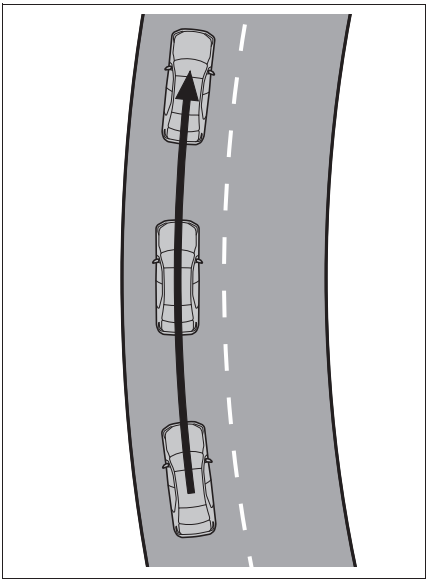
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車・周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

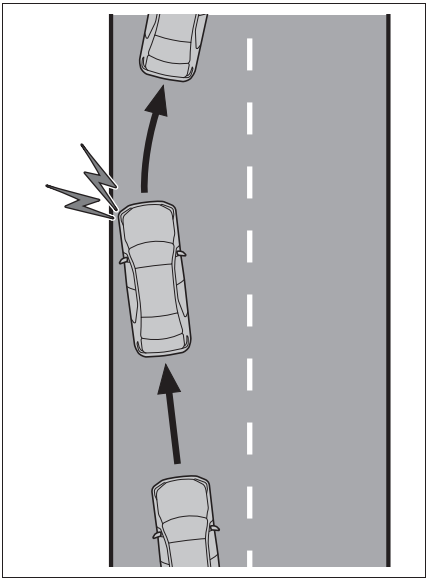
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

●次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・システムが車線を認識しているとき、または先行車・周辺車の軌跡を認識しているとき
・レーダークルーズコントロールが作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.258）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.257）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

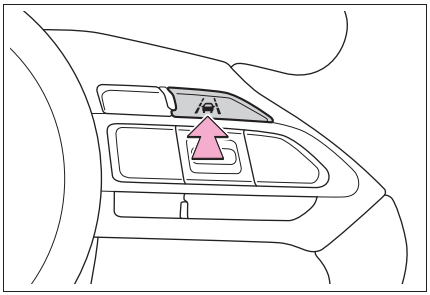
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON/OFF を変更する

LTA の ON/OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。



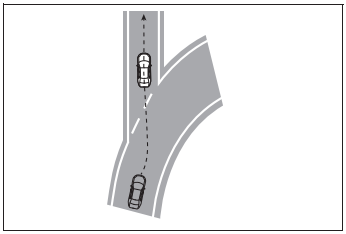
⚠警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

⚠ 警告

- 先行車・周辺車が車線変更したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車・周辺車がふらついたとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車・周辺車が車線から逸脱したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車・周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.245
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色／白色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

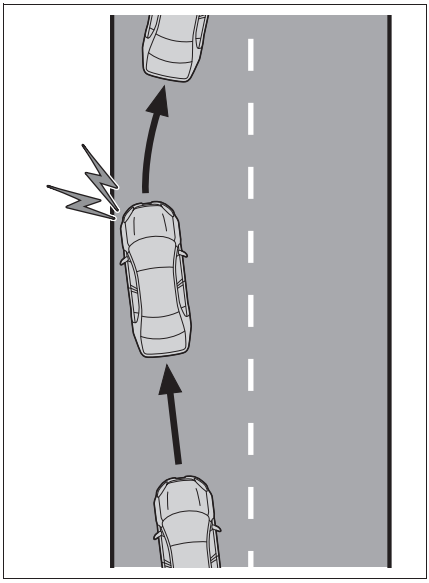
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



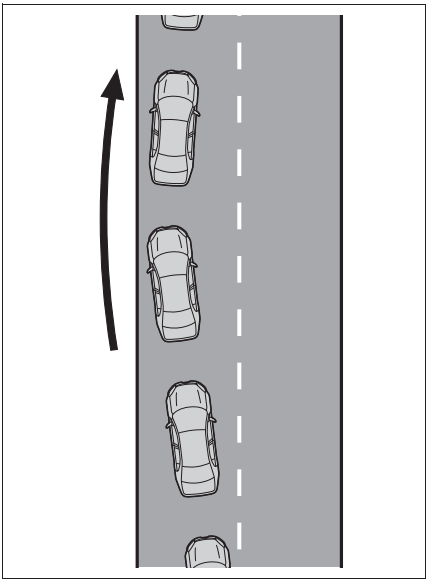
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

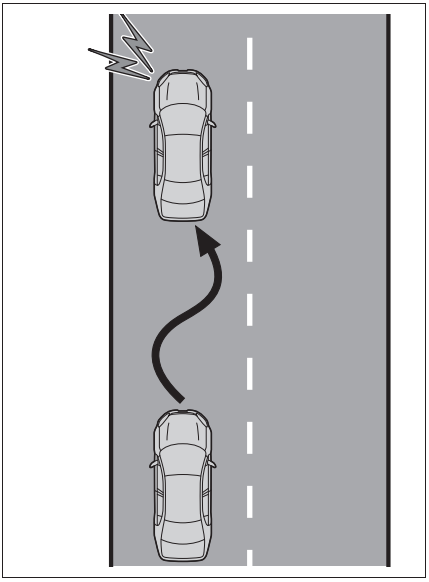
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ 車速が約 50km/h 以上のとき
車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にした時）
・ システムが車線または走路 ※ を認識しているとき（車線または走路 ※ が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・ 急カーブを走行していないとき
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・VSC または TRC を OFF にしていないとき

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.262）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

●次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.498）

● カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。（→P.498）

⚠警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.245
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.246
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している
黄色点滅	黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.267）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。
  必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.268）
- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト（OAA）	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
		ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	
減速アシスト（DA）	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト（SA）	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.246
・シフトポジションが P、R または N のとき
・運転席シートベルトを着用していないとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
・車速が約 15km/h 以下のとき
・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.245

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁・柵・ポール・工事用コーン・ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道・轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換・急加速・急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

⚠ 警告

- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、 作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動 / 非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.499）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.499）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

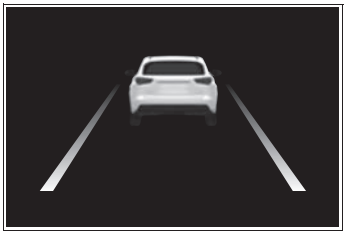
次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

●シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき

●ブレーキホールドが作動中のとき

●レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

●道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき

●歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき

●交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合

●日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON/OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.492)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→P.492)

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム★（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244

ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム★（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

●工事などの通行規制区間に標識があるとき

●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

●ナビゲーションシステム★の地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステム★を利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステム★に表示される最高速度標識が異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。
・ 最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が矢印信号のとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき

・ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・停止線に対し信号機が遠くにあるとき
・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.500)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.281

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

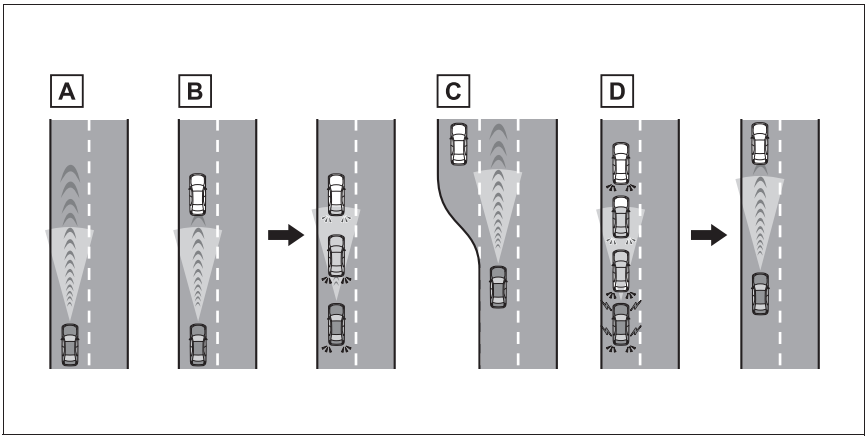
⚠ 警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.244
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

基本機能



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

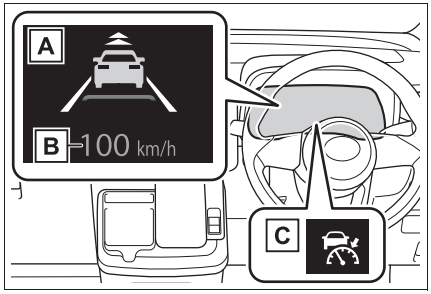
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

システムの構成部品

■ メーター表示

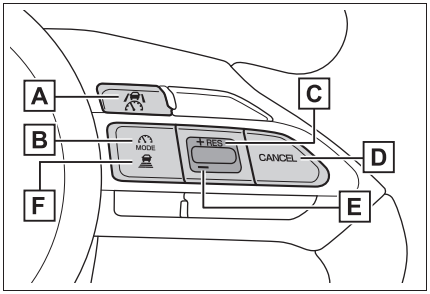


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-” スイッチ

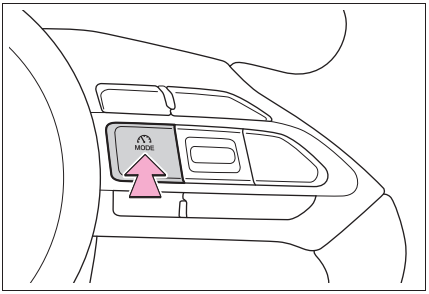
F 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。

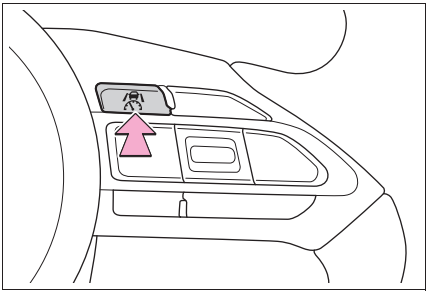
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

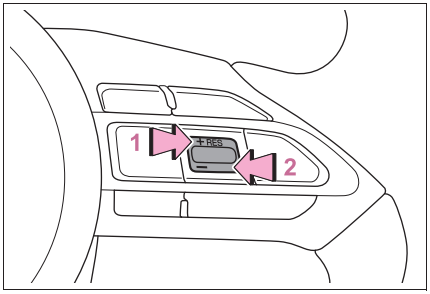
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

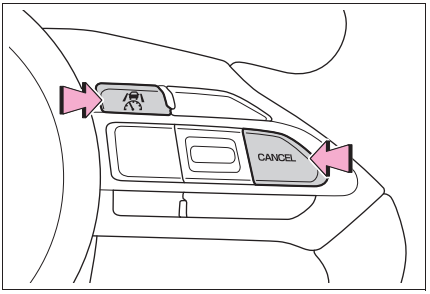
2 “+” スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

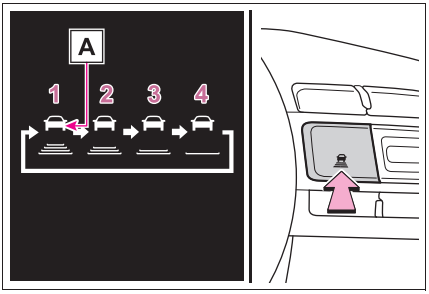


2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークAも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/hの場合）
1	最長	約70m
2	長	約60m
3	中	約45m
4	短	約30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約30km/h以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
・車速が約30km/h未満のときに設定すると、約30km/hに設定されます。
・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “RES” スイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約3分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.246

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.240

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.281）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

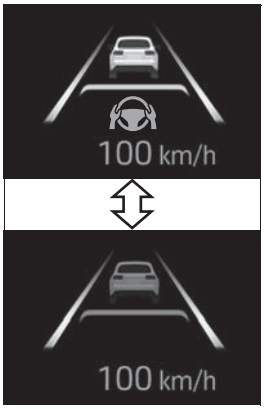
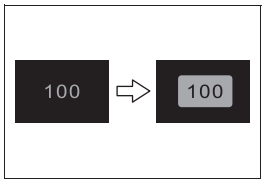
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.500)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

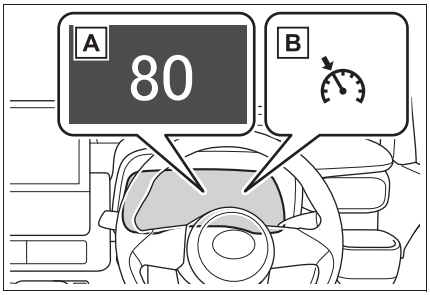
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.240

システムの構成部品

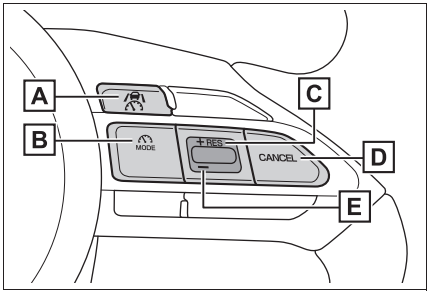
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D キャンセルスイッチ

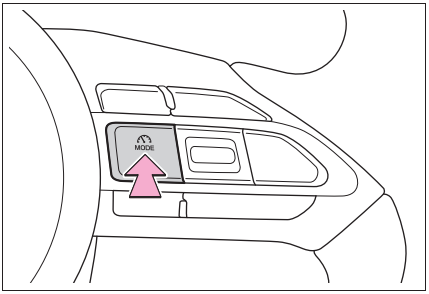
E “-” スイッチ

クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

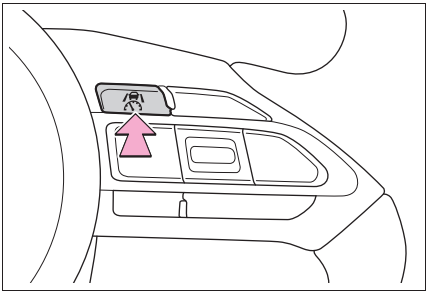
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

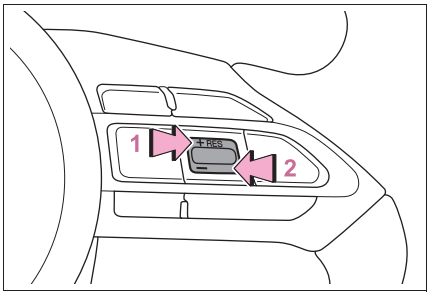
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

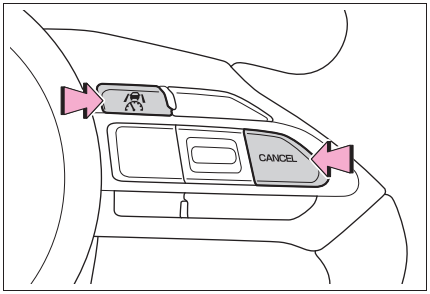
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

知識

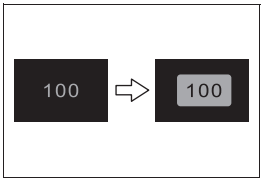
■クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- ●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- ●車速が約 30km/h 未満になったとき
- ●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- ●パーキングブレーキが作動したとき
- ●運転席シートベルトを着用していないとき
- ●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.246

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーション		状態
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色		設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

●自車速が約 50km/h 以上

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.246

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続によ

る運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

●LTA

⚠警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠警告

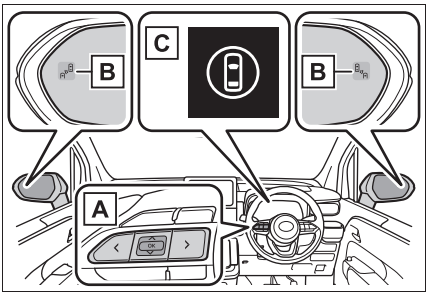
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “ブラインドスポットモニター OFF” と表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.501）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

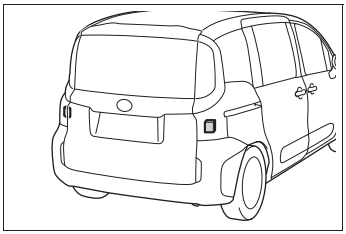
⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.454）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.293）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON/OFF を切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、ON/OFF を切りかえることができます。(→501)

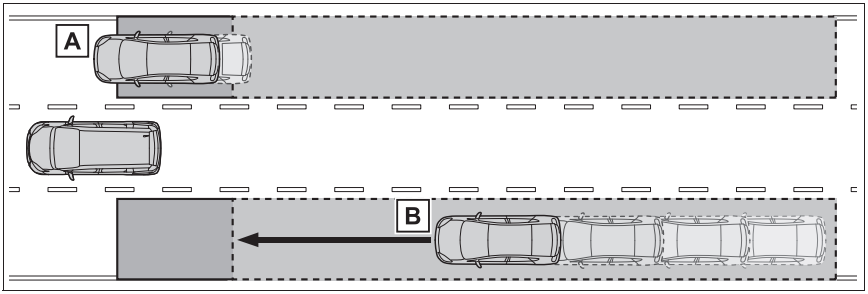
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.94）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “ブラインドスポットモニター OFF” と表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

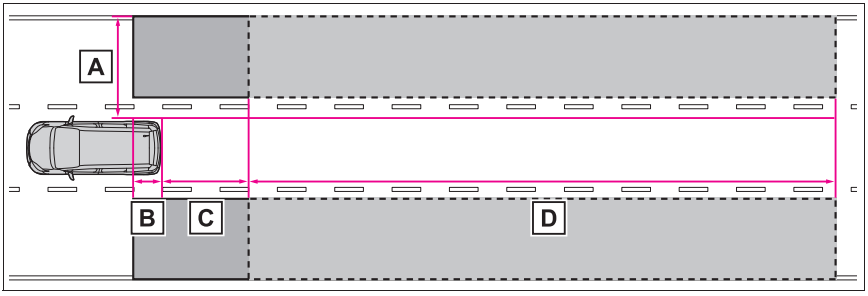


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ブラインドスポットモニターが車両を検知しない状況

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2 つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - 自車と後続車の車間距離が短いとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
  - 自車と他車の速度差に変化があるとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
  - 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
  - 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
  - きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
  - 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
  - ブラインドスポットモニターを ON にした直後
  - けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

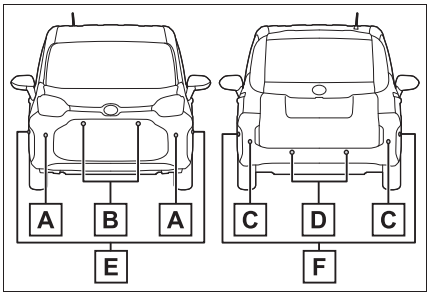
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディア画面★の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品

■ **センサーの種類**



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

F リヤサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディア画面★に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示（マルチメディア非装着車）

▶ マルチメディア画面の表示（マルチメディア装着車）

■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.295）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.492）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.94）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.492）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切り替えることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
  強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
  スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
  シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
  シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナ ー、リヤセンターセンサー：
  シフトポジションが R にあるとき
- サイドセンサー：（アドバンストパーク装着車）
  - ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
  - シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
  - シフトポジションが R のとき
  - VIEW が押され、マルチメディア画面が表示されているとき
  - フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にする

と、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●メーター故障時はブザーの音がならないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

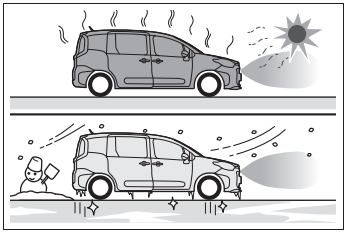
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

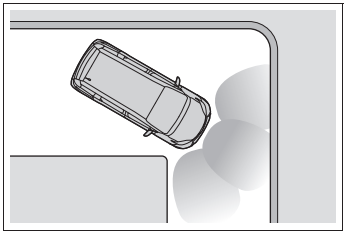
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴があるとき

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

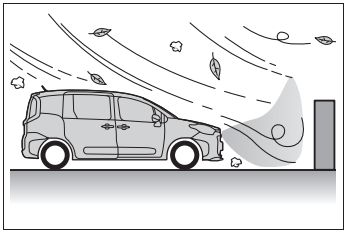
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

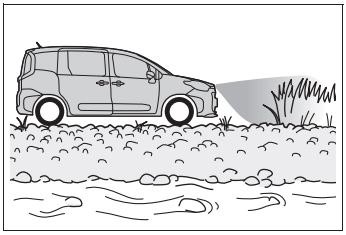
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



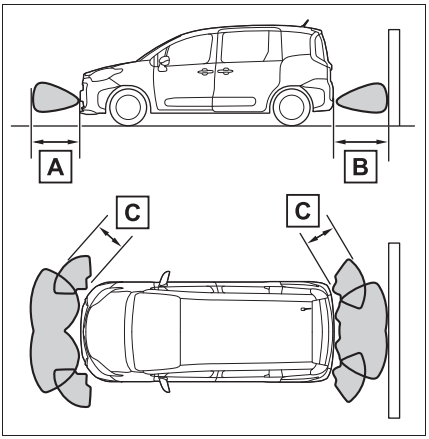
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車



A 約 100cm

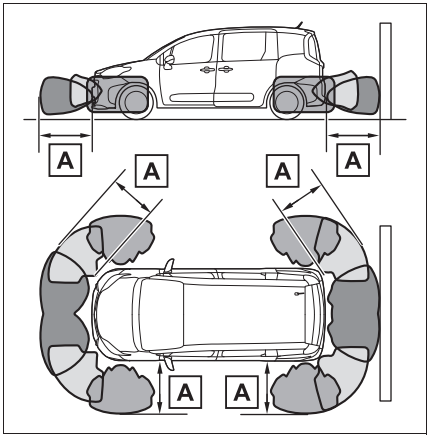
B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ アドバンストパーク装着車



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.301）

▶ アドバンストパーク装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
フロント / リヤセンターセンサー、コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
フロント / リヤセンターセンサー、コーナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	継続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.301）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

知識

■ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA★、RCD★の音量を一括で切りかえることができます。
（→P.492）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面★に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

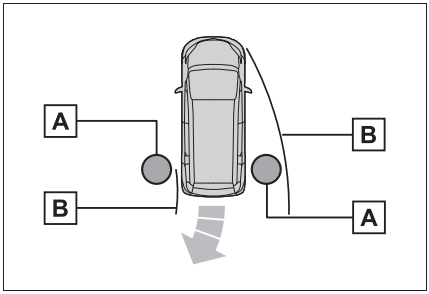
クリアランスソナー、RCTA★、RCD★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。
- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

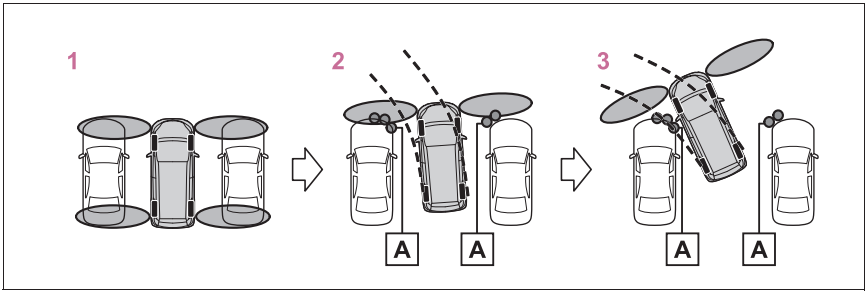
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VIEW が押され、マルチメディア画面が表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

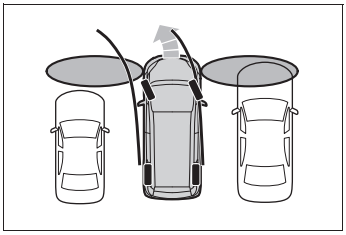
⚠警告

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

⚠ 警告

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき

●サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき

●ドアミラーが閉じられているとき

●補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

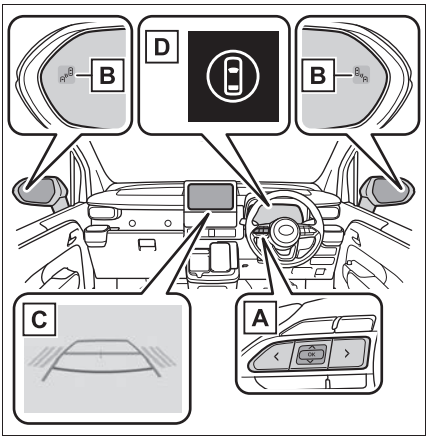
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全運転をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディア画面★

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.305）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “リヤクロストラフィックアラート OFF” が表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、RCTA の ON/OFF を切りかえることができます。(→P.501)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.94）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “リヤクロストラフィックアラート OFF” と表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

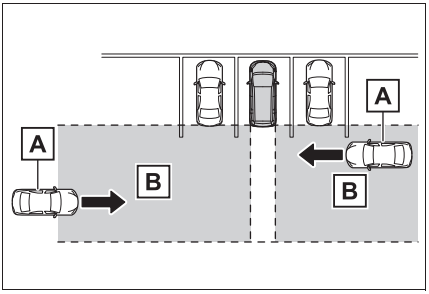
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.291

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



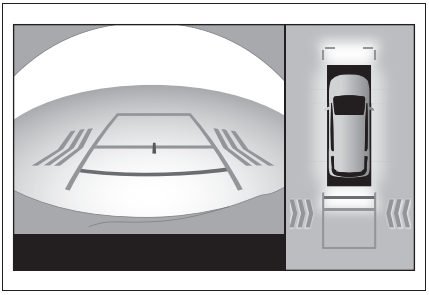
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

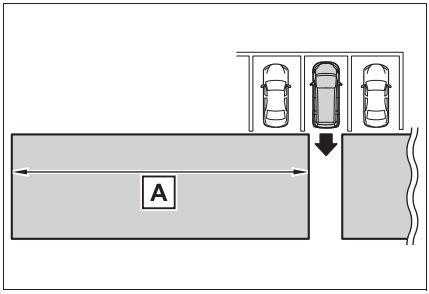
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	40m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 57km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でクリアランスソナー、RCTA、RCD★のブザー音量の調整が一括で調整ができます。（→P.501）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

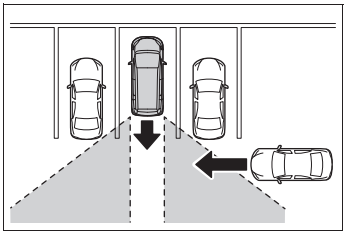
- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



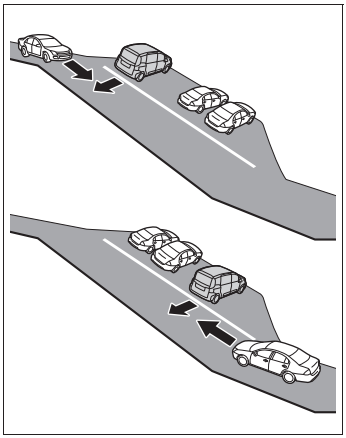
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両※
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知することがあります。

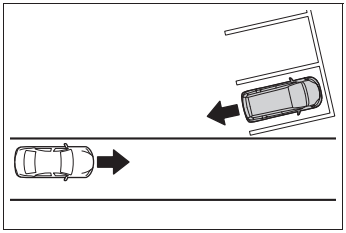
■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが検知できない車両

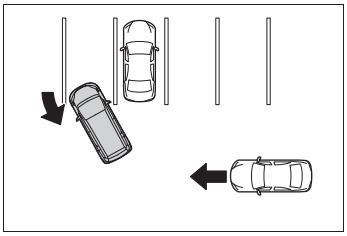
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

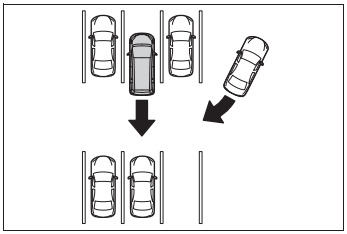
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



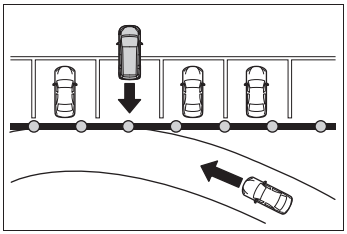
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



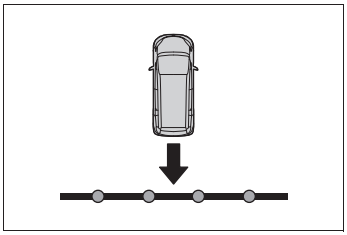
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

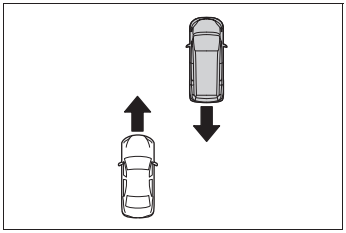


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

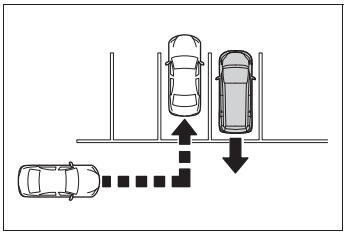


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

●カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。

●カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。

●カメラを分解・改造・塗装しないでください。

●カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。

●リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。

●適正なタイヤ空気圧を維持してください。

⚠ 警告

●バックドアを完全に閉めてください。

■RCD の機能を OFF にするとき

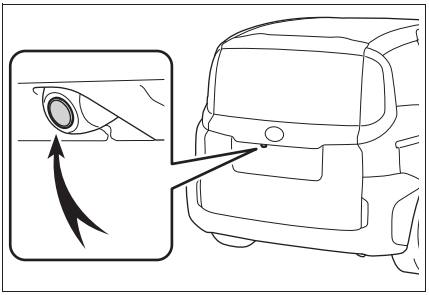
次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●上記の内容が守られないとき

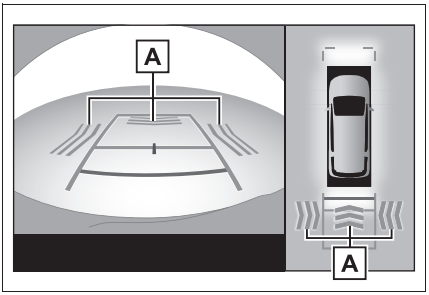
●純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

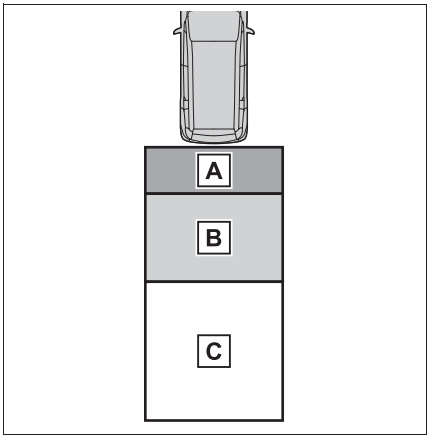
RCD の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.492）

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.94）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいるとき

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいるとき

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断したとき

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

●パワースイッチが ON のとき

●RCD 機能が ON のとき

●シフトポジションが R にあるとき

●アドバンストパークが作動中でないとき

■ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.492）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・けん引しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.316

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

→P.320

- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

→P.321

- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

→P.317

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

⚠ 警告

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキのON/OFFは、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.492）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）がOFFのとき、運転支援情報表示灯（→P.94）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.492）からON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（パワースイッチをOFFにしたあとで再度ONにしても、復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面★およびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面★表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例（パノラミックビューモニター装着車※）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例（パノラミックビューモニター装着車※）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示例（パノラミックビューモニター装着車※）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

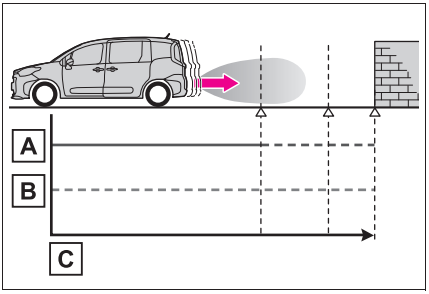
※ パノラミックビューモニターの仕様によっては表示されない場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両★や後方歩行者★）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

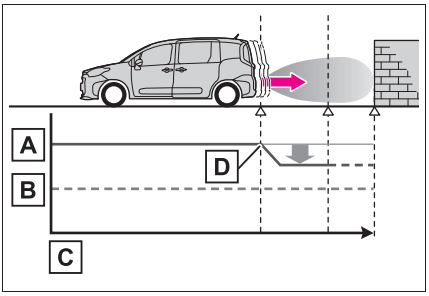


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



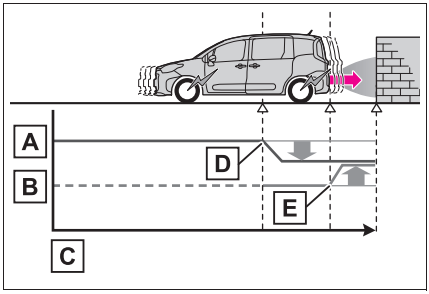
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。
また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。
また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.94）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.295）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.313）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

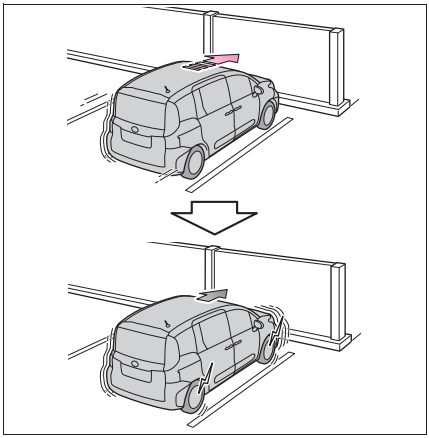
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

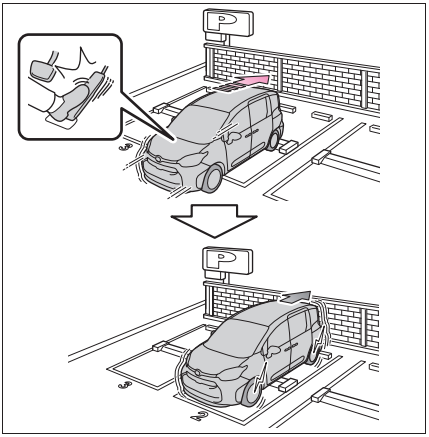
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

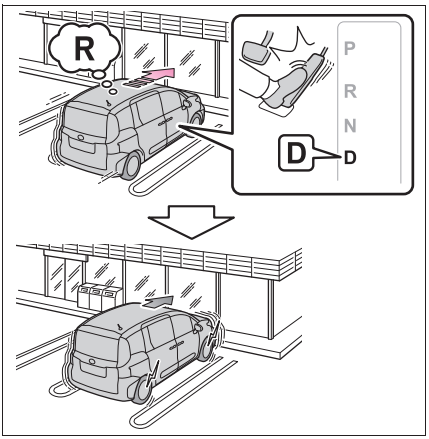
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



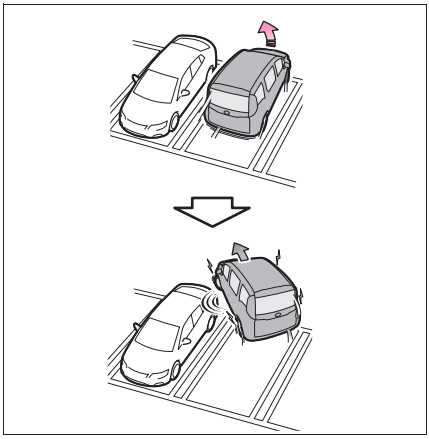
■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



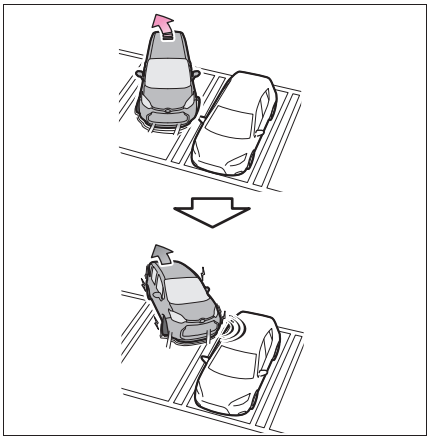
システム作動例（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.294

⚠警告

■システムを正しく作動させるために

→P.296

■万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.315

■洗車時の注意

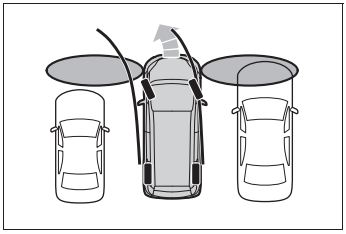
→P.296

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて（アドバンストパーク装着車）

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき

●サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき

●ドアミラーが閉じられているとき

●補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.92）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム始動後、車両が 7m 前進するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が 7m 前進するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.299）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物 [アドバンストパーク装着車]）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.297

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.298

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件（→P.318）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しない恐れがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せするとき（→P.335）

■サイドエリアの静止物の検知について（アドバンストパーク装着車）

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

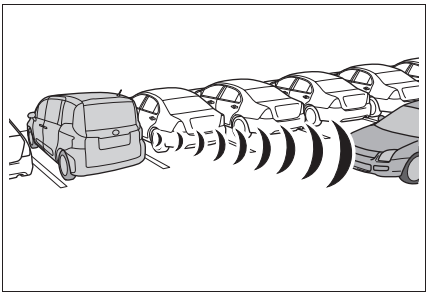
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.291

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.291

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.92）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.306

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.307

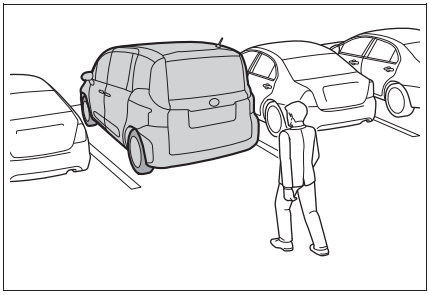
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

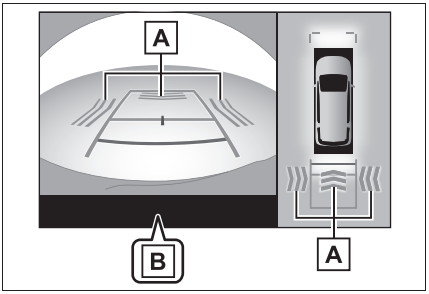
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！“

⚠警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.308

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.92）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が 15km/h 以下
- シフトポジションが R のとき
- 自車後方に歩行者がいるとき
- 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.316

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.309）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.310

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.311

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全・安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。
また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。
アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークは、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能一覧

■ 並列前向き・バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.331)

■ 並列前向き・バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.333)

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.335)

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.337)

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.339)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- ●一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- ●システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- ●駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- ●駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- ●本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- ●次のようなもの・場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
  - ・細いもの(針金・フェンス・ロープ・ポールなど)や接近する角度によって細く見えるもの(看板・自転車など)
  - ・音波を吸収しやすいもの(綿・雪など)
  - ・鋭角的な形のもの(ブロック塀や柱、壁の角など)
  - ・背の低いもの(縁石やブロック、階段、車止めなど)
  - ・背が高く上部が張り出しているもの(梁など)
  - ・地面に対し垂直でないもの
  - ・障害物に対して斜めに接近するとき
- ●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

⚠警告

●周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地、砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜、段差、穴、側溝のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

⚠ 警告

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨のとき

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・けん引フック、バンパープロテクター、バンパートリム、サイクルキャリア、除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

・区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

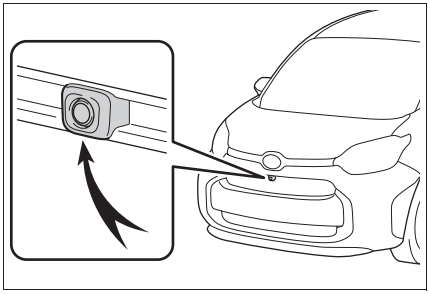
■アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

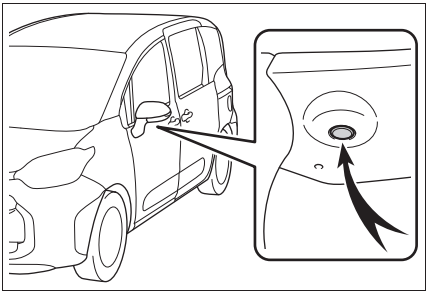
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

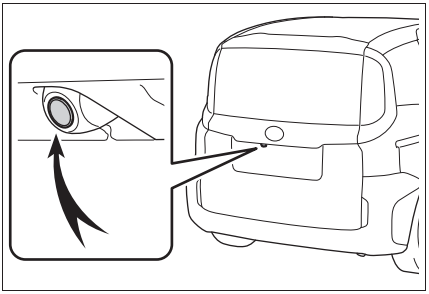
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.294

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき

・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■センサーの検知について

→P.297

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.297

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.297

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.298

⚠警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。→P.296

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

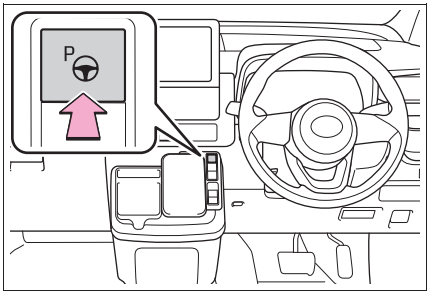
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

アドバンストパークの ON/OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

●ブレーキペダルを踏んでいる
●停車している
●運転席シートベルトを着用している
●ハンドルを操作していない

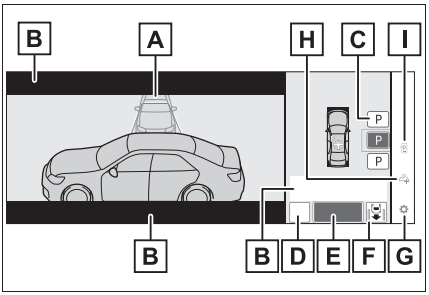
●アクセルペダルを踏んでいない
●ドアおよびバックドアが閉まっている
●ドアミラーが格納されていない
●パーキングブレーキがかかっていない
●レーダークルーズコントロールが作動していない
●ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない
●けん引していない
●急勾配でない
●TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。(→P.346)

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

：並列前向き・バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。(→P.341)

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。(→P.344)

H 登録開始スイッチ

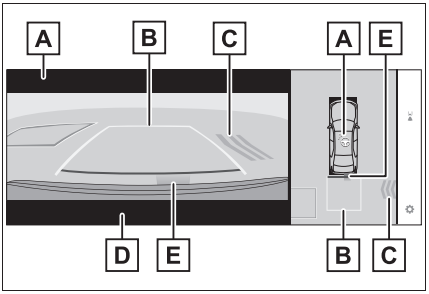
駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ★

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離※（黄色）と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.295

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→P.295）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■アドバンストパーク作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

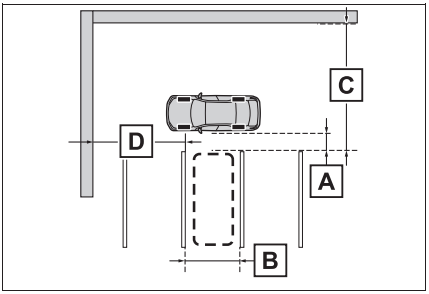
アドバンストパークの並列前向き・バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き・バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

B 約 2.5m※

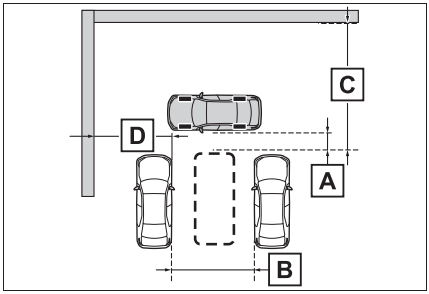
C 約 5m 以上※

D 約 5.5m 以上※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 3m 以上※

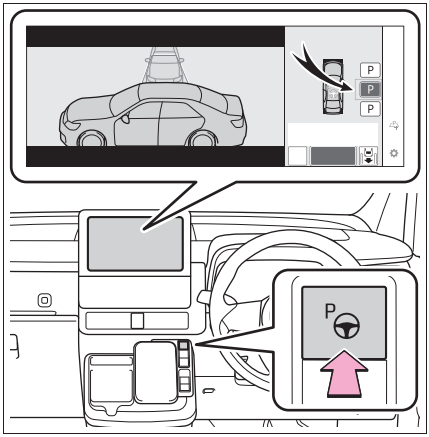
C 約 5m 以上※

D 約 5.5m 以上※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

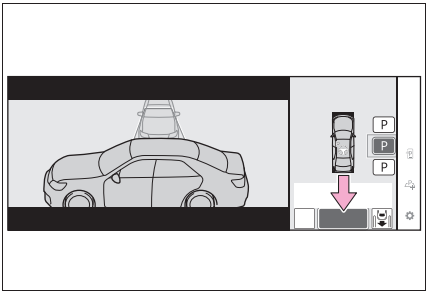
● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

● 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくはにタッチすると、駐車向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” または “後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進・後退が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

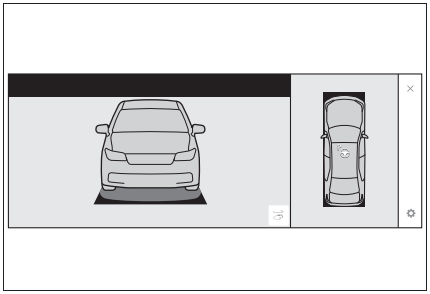
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.332

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面のにタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

⚠注意

■並列前向き・バック駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

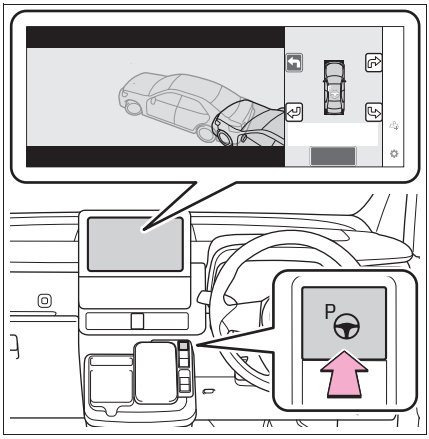
●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

アドバンストパークの並列前向き・バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き・バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

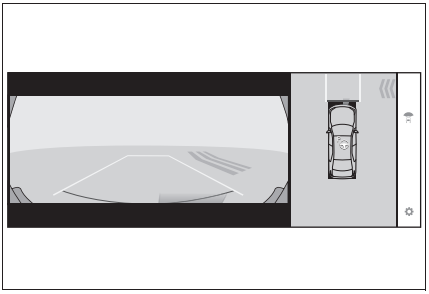


2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました ” の音声案内と表示が出ます。

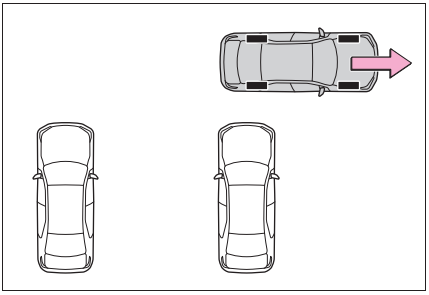
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.334

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると “ ハンドルを操作すると終了できます ” のメッセージが表示され、ハンドル操作すると “Advanced Park を終了しました ” の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.332

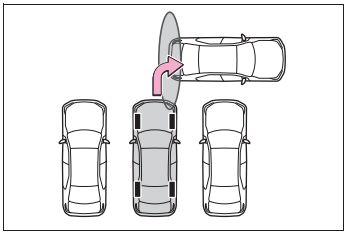
■並列前向き・バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き・バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

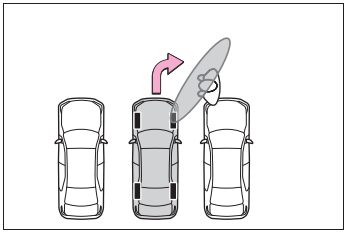
■並列前向き・バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き・バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



●フロントまたはリヤのセンター・コーナーセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ブレーキが作動したとき

→P.332

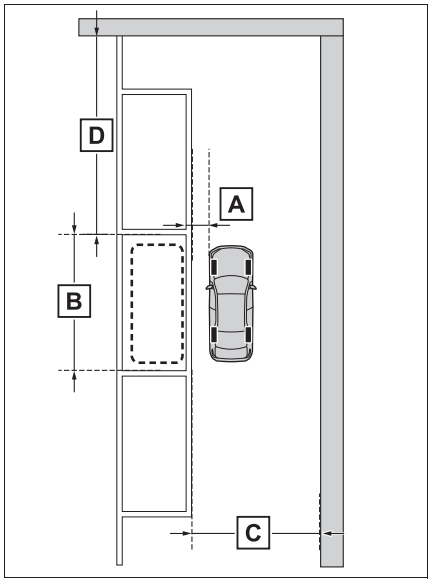
アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

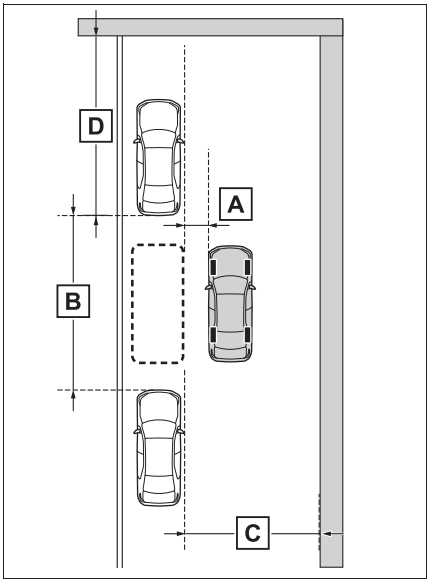
B 約 5m※

C 約 4.5m 以上※

D 約 8m 以上※

※駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m※

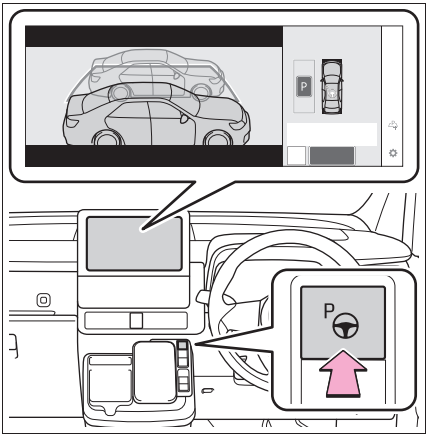
B 約 6m 以上※

C 約 4.5m 以上※

D 約 8m 以上※

※駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



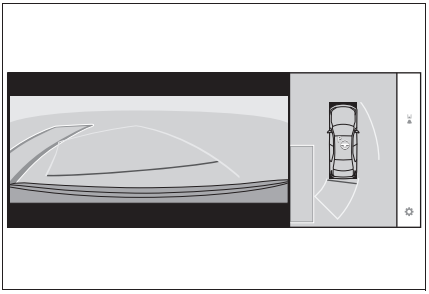
● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列前向き・バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、[P]にタッチすると並列前向き・バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

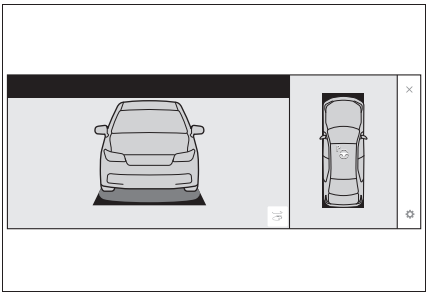
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.337

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面の[]にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



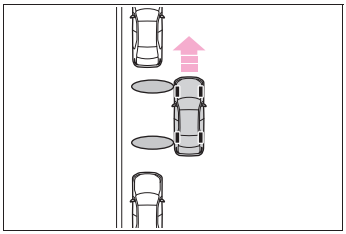
知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.332

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ブレーキが作動したとき

→P.332

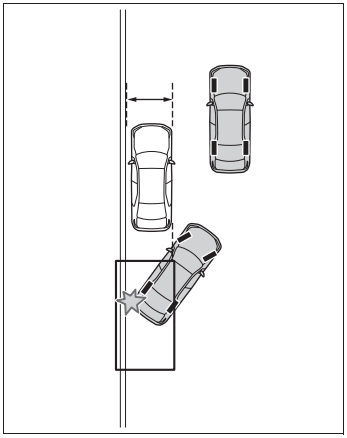
注意

■縦列駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

●隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



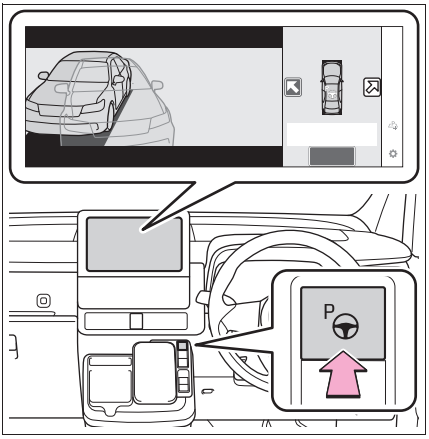
●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Parkを中止しました”の音声案内と表示が出ます。

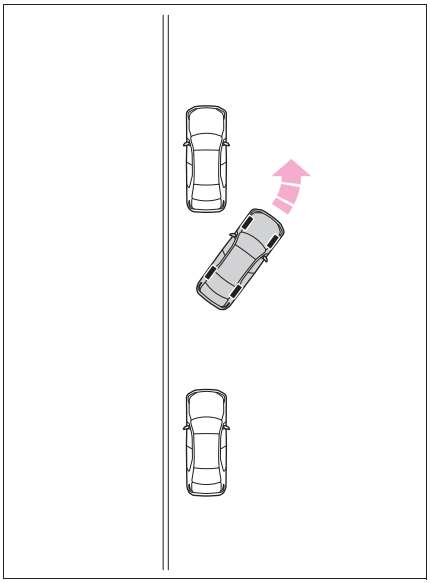
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.338

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Parkを終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.332

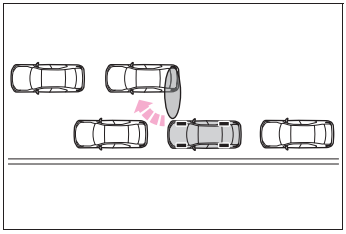
■縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

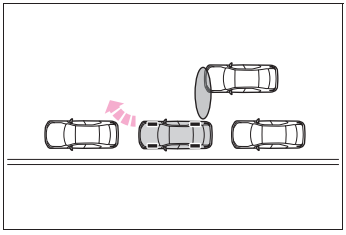
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

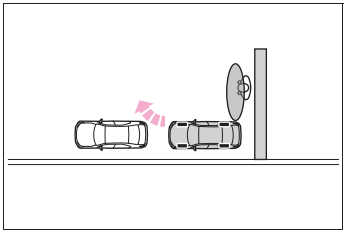
●出庫方向に信号待ちの車両があるとき



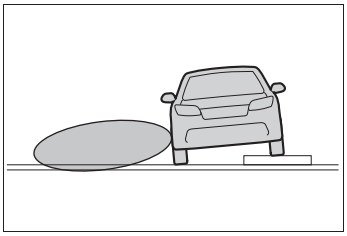
●出庫方向の後方に車両が待っているとき



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



●車両の前方に駐車車両がないとき

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎているとき

■ブレーキが作動したとき

→P.332

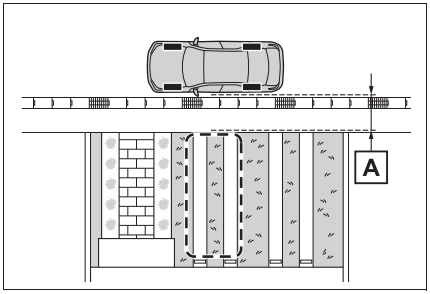
アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

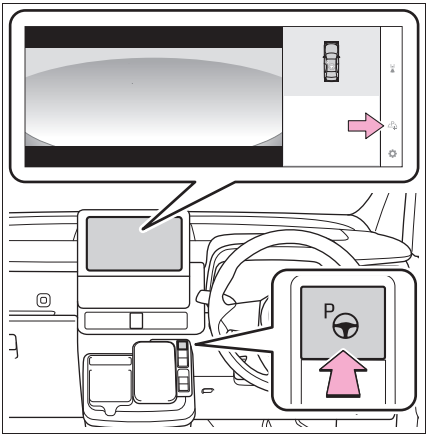
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

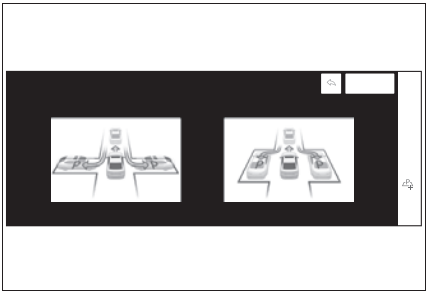
2 アドバンストパークメインスイッチを押し、にタッチする

区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、” 駐車できる場所が見つかりません ” と表示されることがありますが、続けてにタッチしてください。



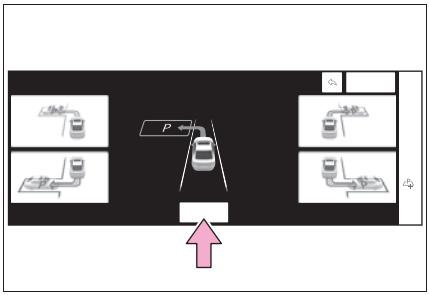
3 並列（前向き・バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

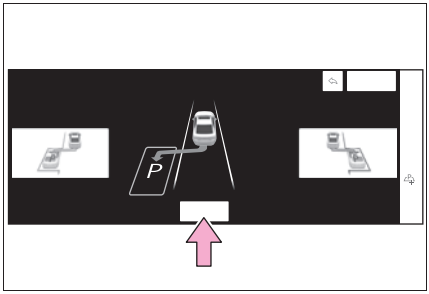


4 駐車の向きを選択し、“ 次へ ” スイッチにタッチする

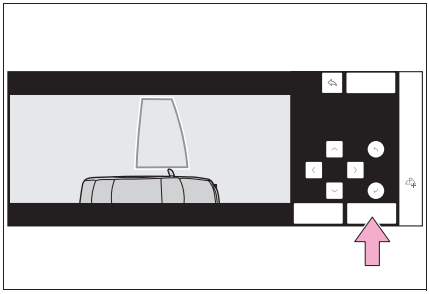
手順 **3** で並列（前向き・バック）駐車を選択した場合：



手順 **3** で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“ 設定完了 ” スイッチにタッチする



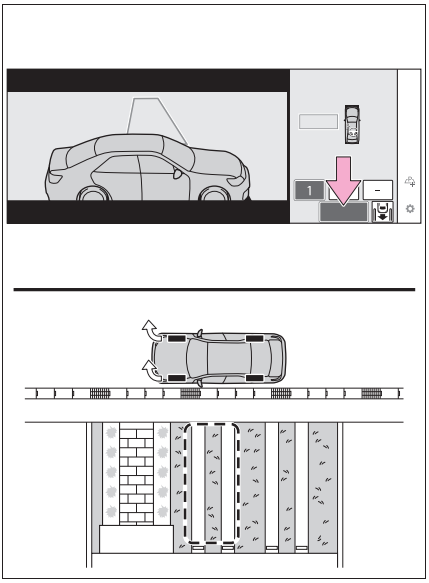
6 “ 開始 ” スイッチにタッチする

“ ピッ ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

ブレーキペダルを離すと、“ 前進します ” の音声案内と表示が出たあと、前進が

始まります。

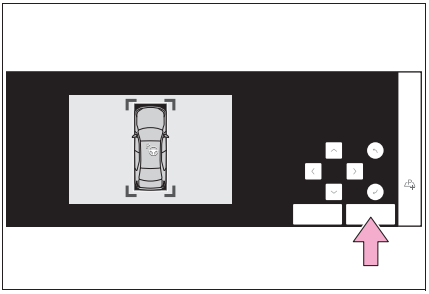
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.342



7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

マルチメディア画面に“登録を完了しました”と表示されます。

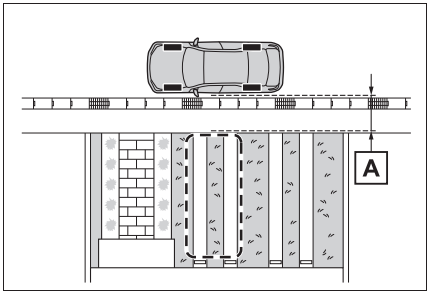


● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

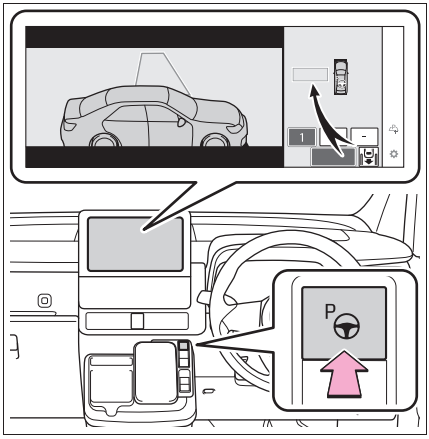
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始”スイッチにタッチします

このあとの手順は、並列前向き・バック駐車機能の手順 **3** 以降と同じです。（→P.331）

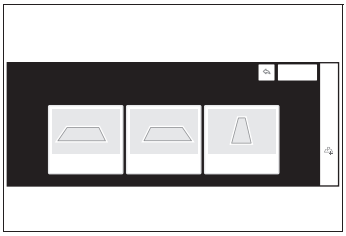
知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.332

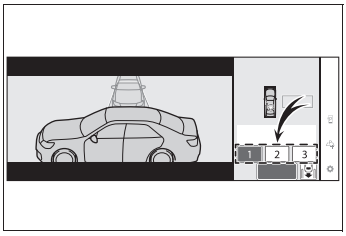
■登録した駐車スペースを上書きするときは

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態でにタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”にタッチします。



■ブレーキが作動したとき

→P.332

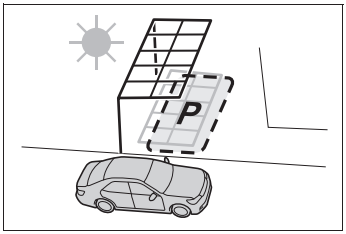
注意

■メモリ機能を使用するときは（→P.333, 337）

- メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。
- 次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。
  - カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
  - 雨雪が降っているとき
  - 夜間（周囲が暗いとき）
- 次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。
  - 道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場
  - 駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場
- 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

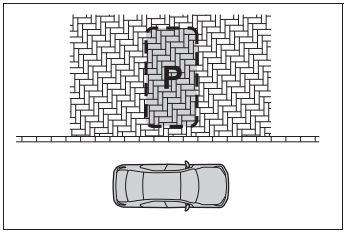
⚠注意

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



・駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）

・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

・路面の色や明るさが一様でないとき

・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・勾配がある駐車場

・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

⚠注意

●カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークを中止・中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはバックドアを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC・VSC を OFF にした
- TRC・VSC・ABS が作動した
- けん引している
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディア画面上で “中止” にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されているときにブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

アドバンストパークの設定を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面の⚙にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ 音声案内

音声案内の ON/OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き・バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き・バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き・バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

⚠ 注意

- “駐車位置調整（前向き）”、“駐車位置調整（バック）”による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物・車止め・縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

マルチメディア画面に表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました” が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の “再開” スイッチにタッチしてください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません” が表示されたときは

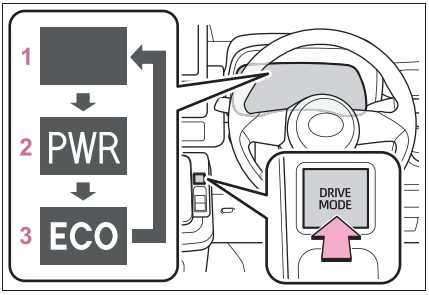
駐車スペースを認識できない駐車場で にタッチしたときに表示されます。システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.339）

ドライブモードセレクトスイッチ

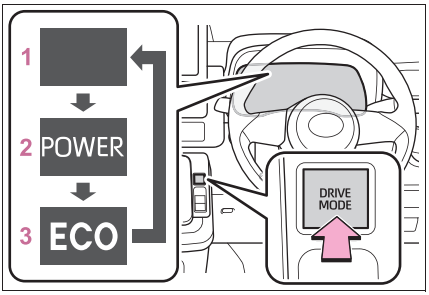
走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ 4.2 インチディスプレイ装着車



▶ 7 インチディスプレイ装着車



ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモード、エコモードの順で切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

パワーモード表示灯が点灯します。

3 エコモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコモード表示灯が点灯します。

知識

■エコモード時のエアコン作動について

エコモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする（→P.368）
- 風量を調整する（→P.366）
- エコモードを解除する

■パワーモードの自動解除

パワーモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ 緊急ブレーキシグナル

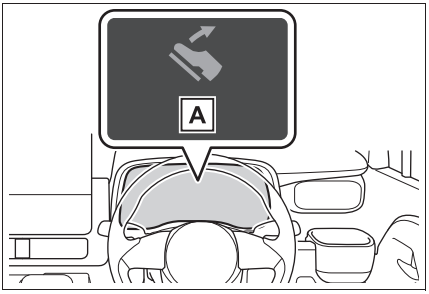
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（SCB）

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



A “アクセルが踏まれています”

■ E-Four（電気式 4WD システム）（4WD 車）★

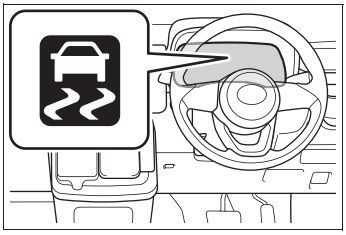
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

知識

■TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

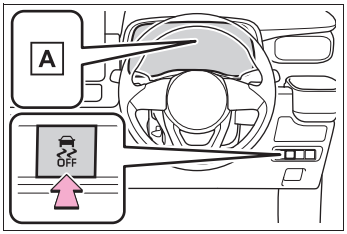


■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押します。



A “TRC OFF しました”

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュセーフティも OFF になります。（衝突警報のみ作動状態になります）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.251）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●前進での上り坂発進時にシフトポジションが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトポジションが R のとき

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●前進での上り坂発進時にシフトポジションが D などの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトポジションが R 以外のとき

●アクセルペダルを踏んだ

●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●パワースイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、

停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車両が約 0km/h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

・車速が約 60km/h 以下のとき

・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき

・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき

・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

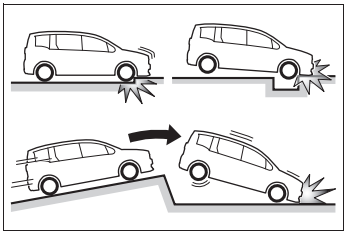
※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。

・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき (4WD 車)

それぞれ、次のように対処してください。

●「4WD システム高温 高負荷走行を控えてください」

4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●「4WD システム高温 2WD 走行に 切替わりました」

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※
しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●「4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検」

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

⚠ 警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.490）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ **機能の追加**

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■ **音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）**

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ **通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定**

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リアクロストラフィックアラート）★
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- クリアランスソナー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

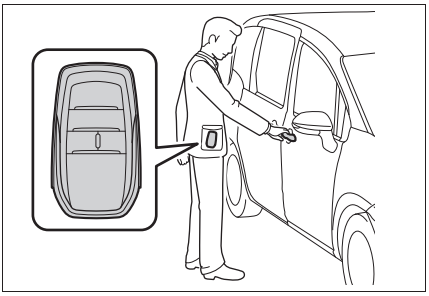
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

■ **プラスサポートを始動するには**

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する。（→P.128, 134）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

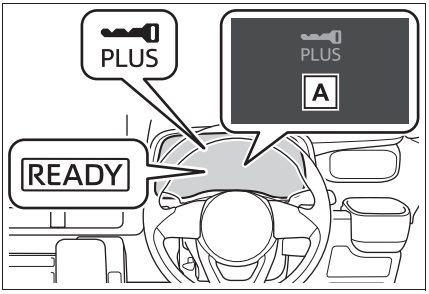


2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→P.200）

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



A “プラスサポートで起動中 急加速を制限します”

4 メーター操作スイッチの↩を押してメッセージを非表示にする。

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

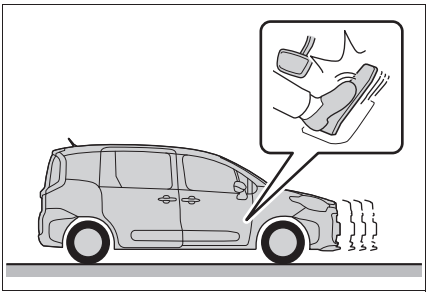
⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。（→P.94）
  プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

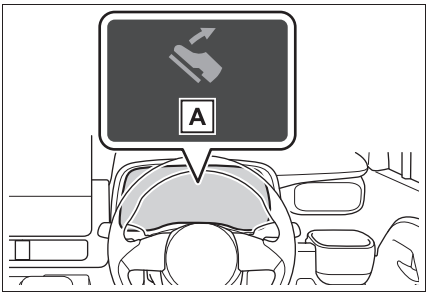
必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブ

レーキペダルを踏んでください。



A “アクセルが踏まれています”

知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションがP・N以外のとき

●車速が約30km/h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km/h、後退時は約12km/h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間（前進時）

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約2秒間（前進時）

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません

作動対象	自車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコモードの利用

エコモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.347）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→P.97, 102）

シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションをＤにしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションをＰにしましょう。シフトポジションをＮにしても、燃費向上の効果はありません。Ｎでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.411）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドア・ワイパー・ミラーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。
  パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
  また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをＰにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをＰに入れた状態でシフトレバーが動かないことを確認してください。

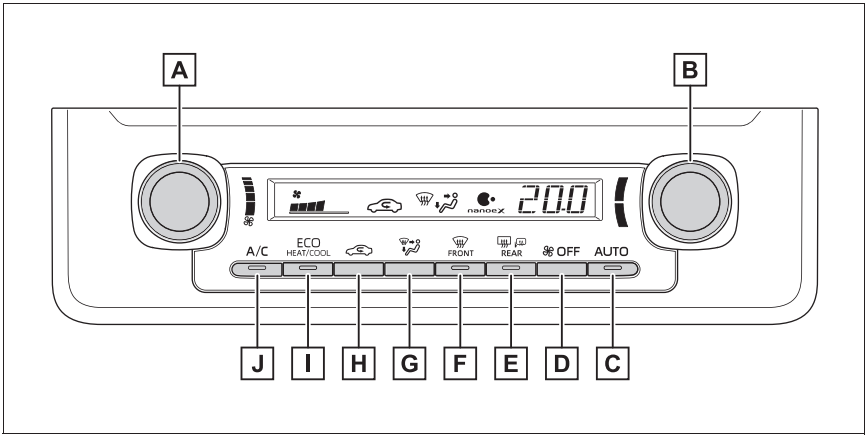
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン 366
天井サーキュレーター 372
ステアリングヒーター／シートヒーター 373
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 375
5-3. 収納装備
収納装備一覧 377
ラゲージルーム内装備 381
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 384
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 389
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 397

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A 風量調整ダイヤル

B 温度調整ダイヤル

C AUTO スイッチ（オート設定）

D OFF スイッチ

E リヤウインドウデフォッガースイッチ／リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ★

F フロントデフロスタースイッチ

G 吹き出し口切りかえスイッチ

H 内外気切りかえスイッチ

I エコ空調スイッチ

J 冷房・除湿スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

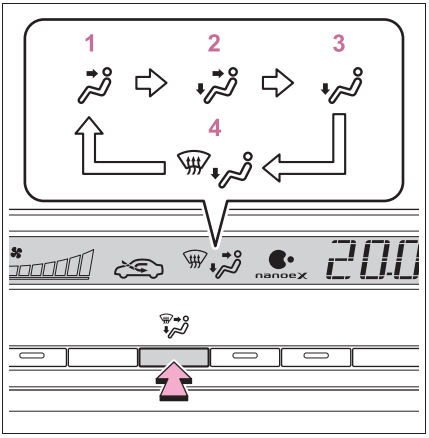
風量を増やすときは風量調整ダイヤルを右へまわし、減らすときは風量調整ダイヤルを左へまわす

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように設定が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは が、外気導入を選択しているときは が表示されます。

■ エアコン（冷房・除湿機能）を切りかえるには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ※1 またはリヤウインドウデフォッガースイッチ※2 を押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ※1またはリヤウインドウデフォッガースイッチ※2がONのときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1ミラーヒーター装着車

※2ミラーヒーター装着車以外

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードがONのときは、作動表示灯が点灯します。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチをONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房･除湿スイッチをONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードがONになります。(→P.347)

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードがOFFになる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・エコ空調モードをOFFにする(→P.368)
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する(→P.347)

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ナノイーX★※1, 2について

エアコンにはナノイーX発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側の吹き出し口からナノイーXを放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。※3

●ナノイーXがONのとき、ファンが作動すると、自動的にナノイーX発生装置が作動します。

●ナノイーX発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき

・運転席窓側の吹き出し口が開いているとき

●ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・作動直後は作動音が大きい場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1nanoe、ナノイー及び nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P.419

⚠警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★が作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ナノイー X 発生装置★について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。

修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■ナノイー X 発生装置★の損傷を防ぐために

運転席窓側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

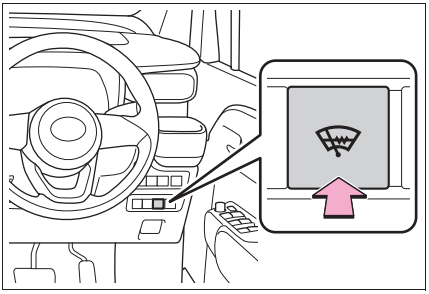
知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロントワイパーデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

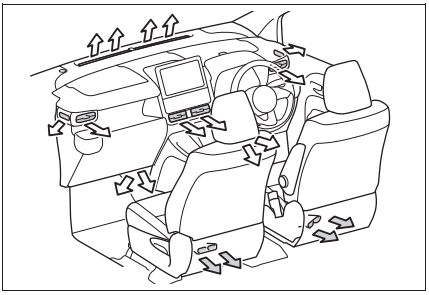
■フロントワイパーデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

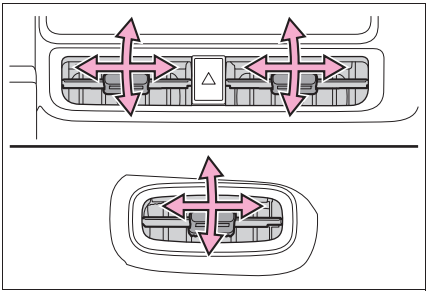
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



⬅：仕様により設定の有無あり

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



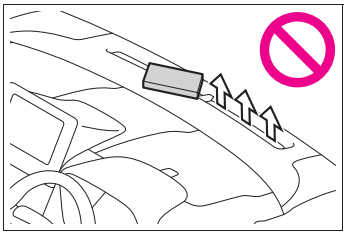
ノブを上下左右に動かしてください。

サイド吹き出し口：ノブを外側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

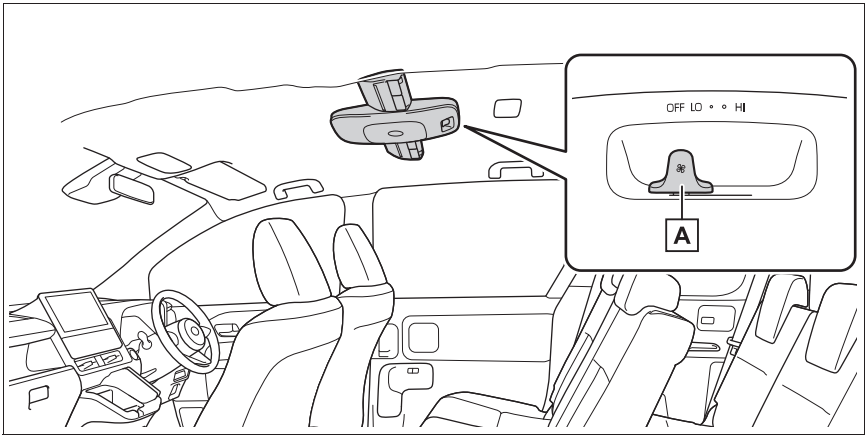
吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



天井サーキュレーター★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法



A 風量切りかえツマミ

■ 風量を切りかえる

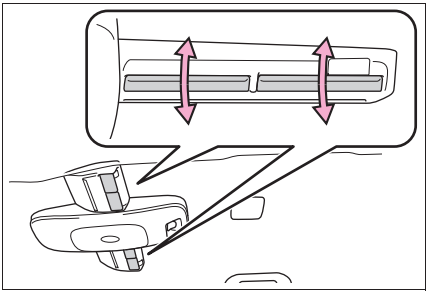
風量を増やすには風量切りかえツマミを右へ、風量を減らすには風量切りかえツマミを左へ動かす

風量は 4 段階に調整できます。

風量切りかえツマミを OFF にすることで天井サーキュレーターの作動を停止できます。

■ 吹き出し口の操作

上下に風向きを調整できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を温めることができます。

● フロントシートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ステアリングヒーター／シートヒーターの損傷を防ぐために

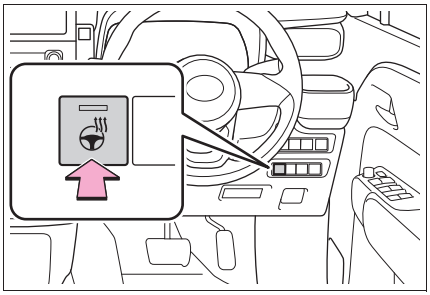
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切り替える



作動中は作動表示灯が点灯します。

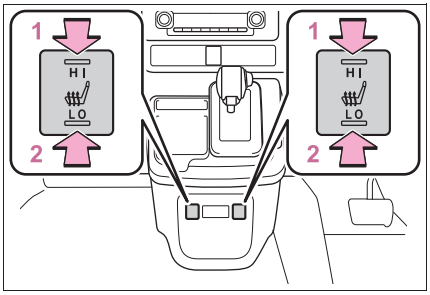
知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

シートヒーター

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 HI（強）

2 LO（弱）

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

警告

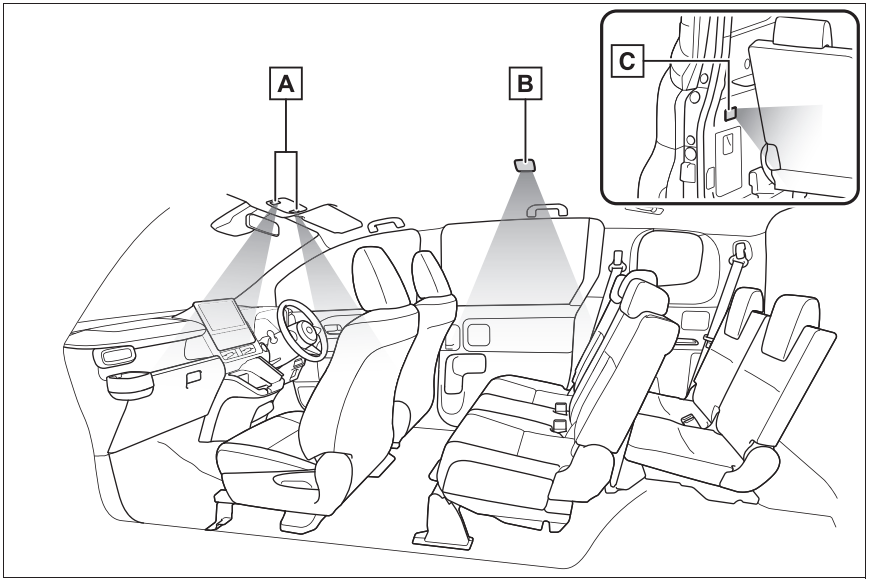
■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

室内灯一覧

室内灯の位置



A フロントインテリアランプ・パーソナルランプ（→P.376）

B リヤインテリアランプ（→P.376）

C ラゲージルームランプ（→P.152）

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.506）

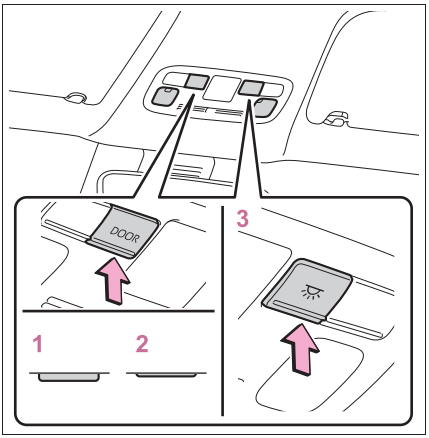
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ



1 ドア連動を OFF にする

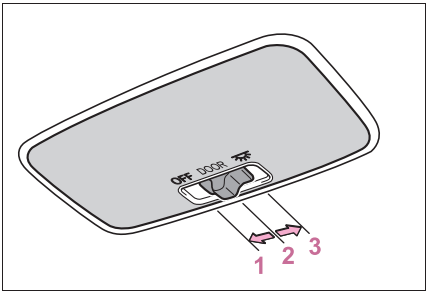
2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます

3 ランプを点灯／消灯する

リヤインテリアランプが連動して点灯・消灯します。

■ リヤインテリアランプ



1 ランプを消灯する

2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

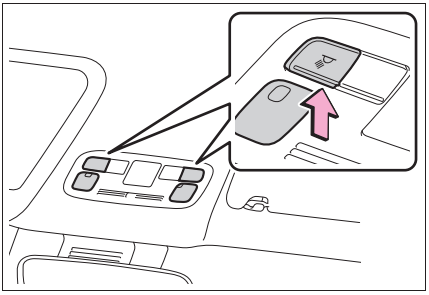
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

フロントインテリアランプに連動してランプが点灯・消灯します。

3 ランプを点灯する

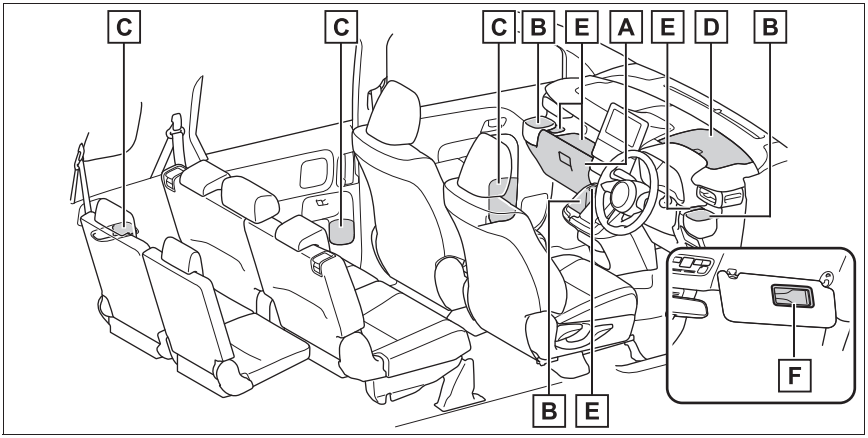
パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



収納装備一覧

収納装備の位置



A グローブボックス（→P.378）

B カップホルダー（→P.378）

C ボトルホルダー（→P.379）

D 小物入れ（→P.380）

E オープントレイ（→P.380）

F チケットホルダー（→P.379）

⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

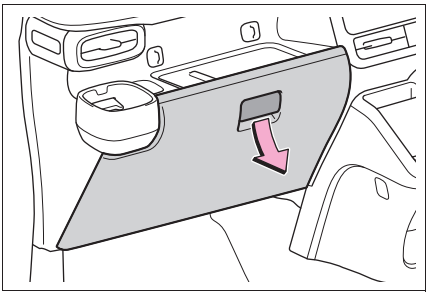
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■収納装備を使用しないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックス

レバーを引いて開ける



⚠ 警告

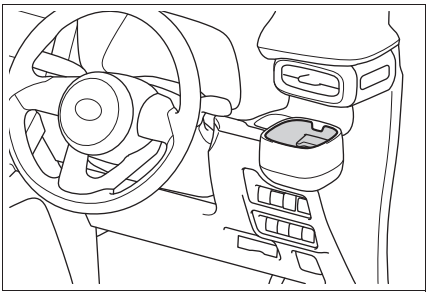
■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

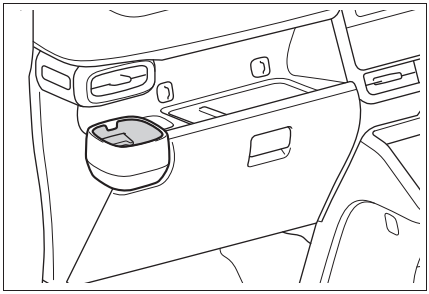
カップホルダー

■ フロントカップホルダー

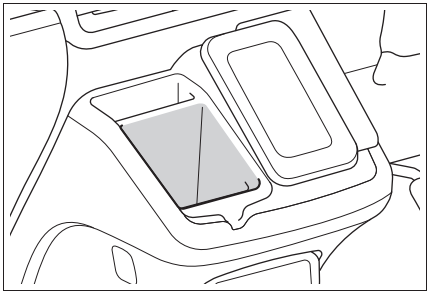
▶ 運転席側



▶ 助手席側



▶ センターコンソール側



⚠ 警告

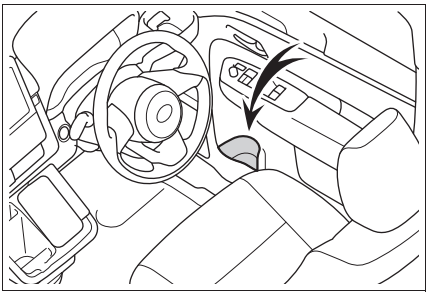
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

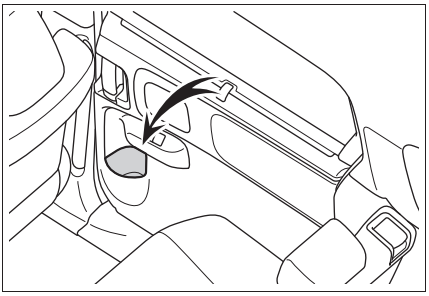
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

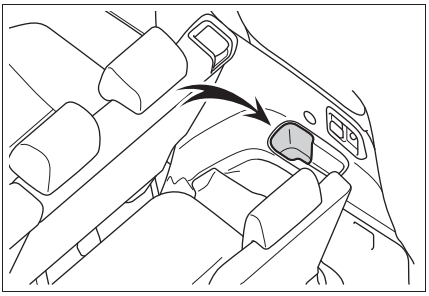
▶ フロントドア



▶ スライドドア



▶ リヤクォータートリム



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

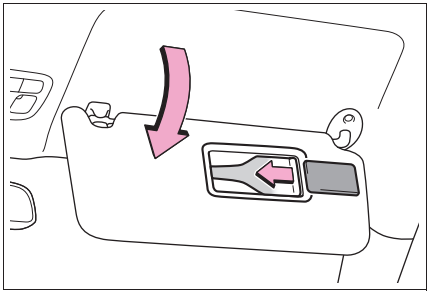
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

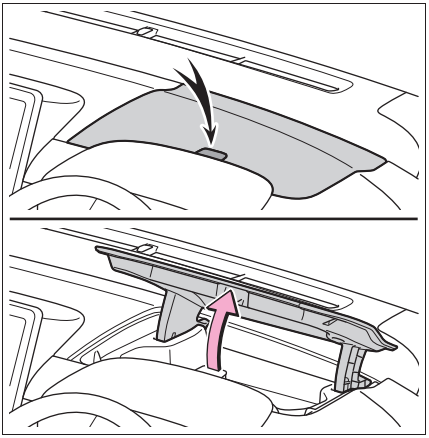
チケットホルダー

バイザーを下ろす



小物入れ

運転席アッパーボックスのフタを押す



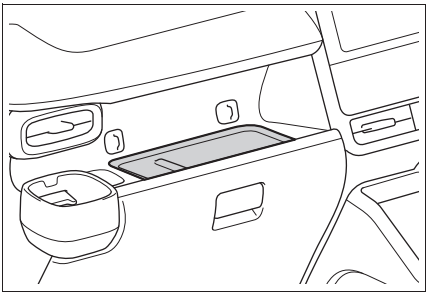
⚠ 警告

■走行中の警告

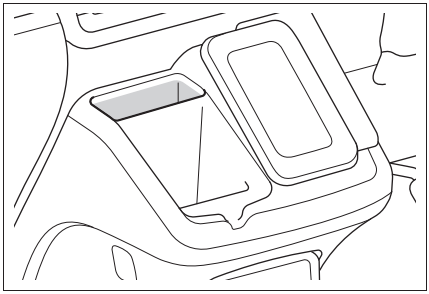
運転席アッパーボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ

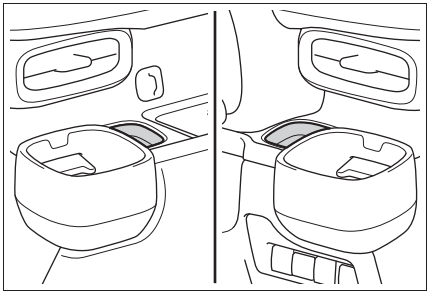
▶ 助手席アッパーオープントレイ



▶ センターオープントレイ



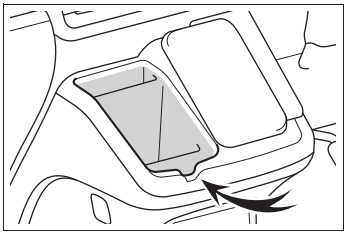
▶ インパネアッパートレイ



知識

■オープントレイの切り欠きについて

オープントレイの切り欠きに配線を通すことができます。配線の太さによっては使用できない場合があります。



⚠ 警告

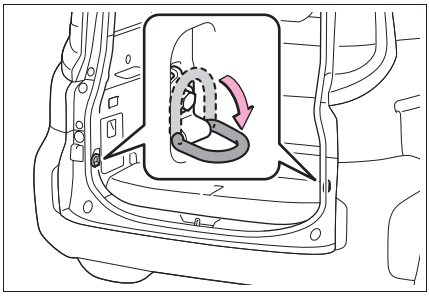
■走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。
- トレイにカップや缶、ペットボトル類を収納しないでください

ラゲージルーム内装備

デッキフック



デッキフックを使って荷物を固定することができます。

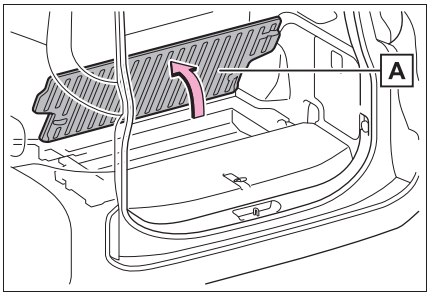
⚠ 警告

■デッキフックを使用しないときは

使用後は、デッキフックを必ずもとの位置に戻してください。

デッキボード

▶ 5人乗り車



A デッキボードを持ち上げる

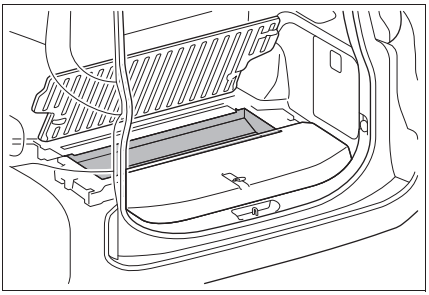
⚠ 注意

■デッキボードの破損を防ぐために

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキアンダートレイ

▶ 5 人乗り車（FF 車）

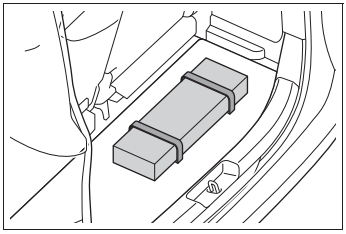


知識

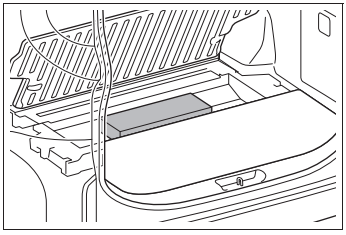
■停止表示板収納について

停止表示板を収納することができます。ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶7 人乗り



▶5 人乗り



ユーティリティホール

ユーティリティホールにフックやバーなどを取り付けることができます。

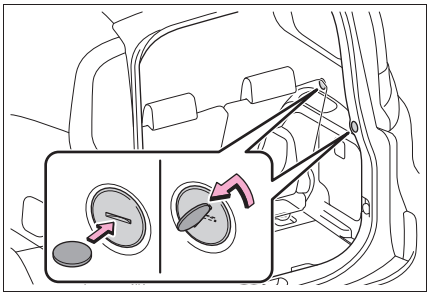
使用するときは、カバーを取りはずす

コインなどを使って、カバーを取りはずします。

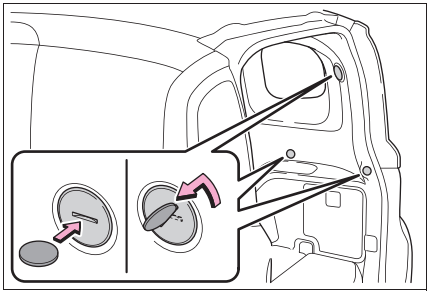
カバーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。

デッキアンダートレイに入れておくことをおすすめします。

▶ 7 人乗り車



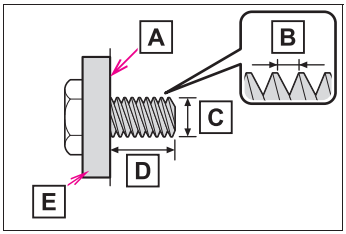
▶ 5 人乗り車



知識

■ユーティリティホールを使用するときは

●次の大きさのボルトを使用できます。



A 取り付け面

B ピッチ：1.0mm

C ネジ径：M6（6mm）

D 取り付け面からの深さ：10.0mm

E 取り付けるもの

●ユーティリティホールの耐荷重は1箇所あたり 3kg です。取り付けるフックなどの重さを含めて 1 箇所合計 3kg まで使用できます。

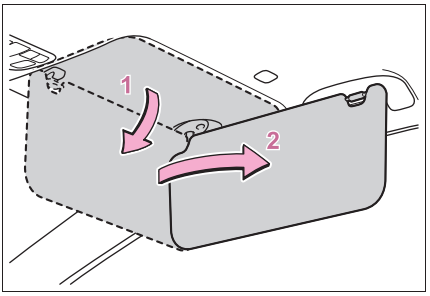
注意

■ユーティリティホールを使用するときは

ユーティリティホールの耐荷重 3kg をこえないようにしてください。
ユーティリティホールの変形や損傷などにつながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

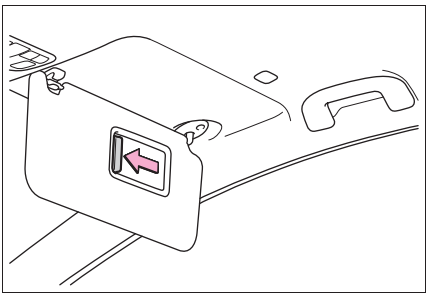


1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける



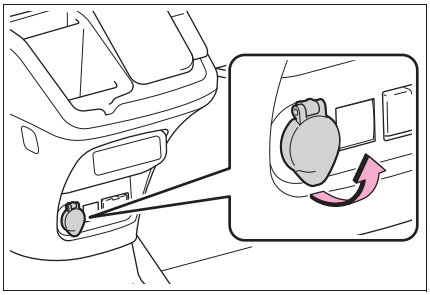
アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

■ インストルメントパネル

フタを開けて使用する



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

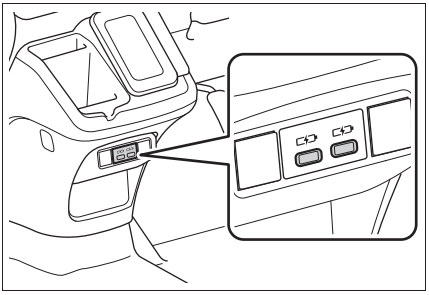
充電用 USB Type-C 端子を使うには

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

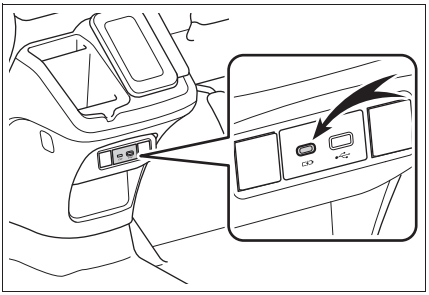
USB Type-A の使用方法については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 充電用USB Type-C端子を使用するには

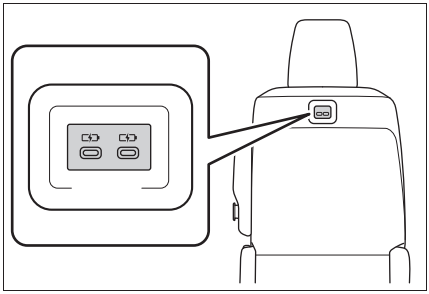
▶ インストルメントパネル（マルチメディアシステム非装着車）



▶ インストルメントパネル（マルチメディアシステム装着車）



▶ 運転席後方★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■充電ケーブルなどを使用するときには

- 充電ケーブルなどがシフトレバーに引っかからないことを確認してください
- 充電ケーブルなどをシフトレバーに巻き付けないでください

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

●充電ケーブルを繋いだ状態で、シートをリクライニングさせないでください。リクライニング時、シートと干渉しケーブルが破損するおそれがあります。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

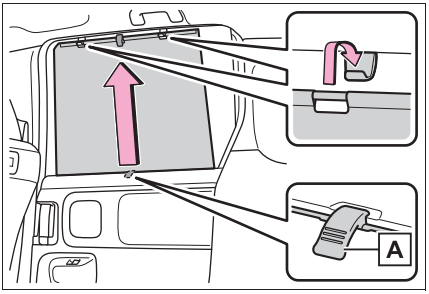
ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

後席用サンシェード★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ツマミ[A]をしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。



⚠ 注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

●開閉のさまたげになる部分にものを置かない

●後席用サンシェードにものを貼らない

●後席用サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない

●スライドドアが開閉しているときは、後席用サンシェードを操作しない

●収納するときに傾けた状態で収納しない
傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

■後席用サンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

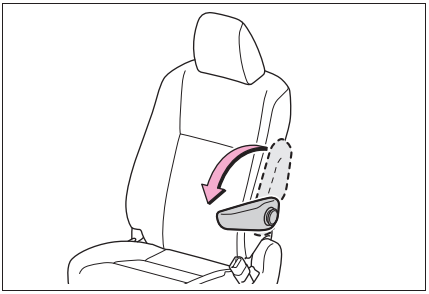
●フックが片方はずれた状態で使用しない
スライドドアを開閉するときに後席用サンシェードが破損するおそれがあります。

●フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
スクリーン部が破損するおそれがあります。

アームレスト★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

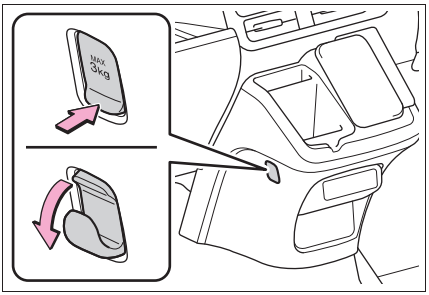
手前に倒して使用する



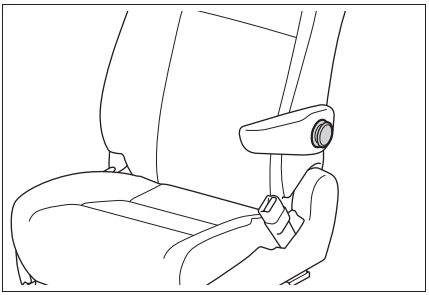
買い物フックを使うには

▶ インストルメントパネル

下側を押してフックを起こす



▶ アームレスト★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■買い物フックの損傷を防ぐために

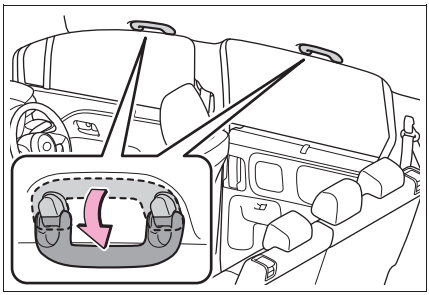
3kg 以上のもの (インストルメントパネル部)、2kg 以上のもの (アームレスト部) をフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップを使うには

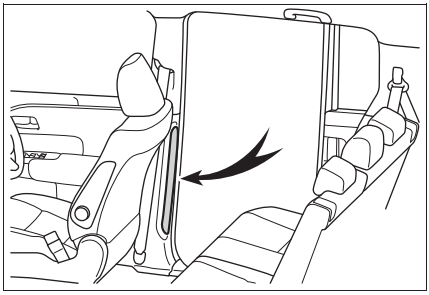
▶ 回転式

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▶ 固定式

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップをお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて（回転式）

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

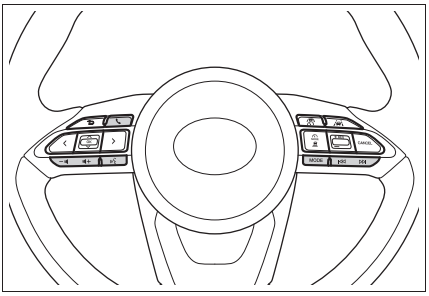
■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



⚠ 警告

■運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）★・非常時給電システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.390）
災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.391）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.391）

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

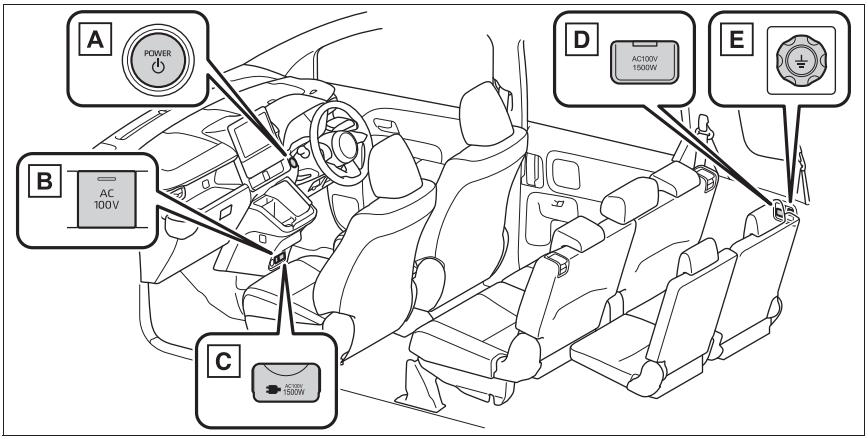
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をお勧めします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A パワースイッチ（→P.200）

B AC100V スイッチ

C 室内コンセント

D ラゲージルーム内コンセント

E アース端子

アクセサリーコンセントを使用するには

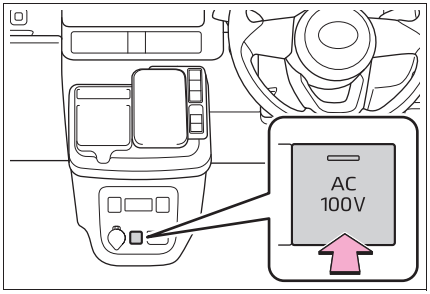
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.200）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、“AC100V” スイッチを押す

“AC100V” スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

“AC100V” スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.392）

■ コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

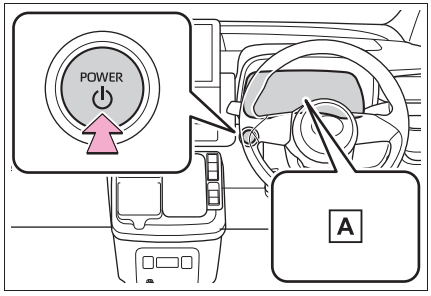
1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 “AC100V” スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（→P.203）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



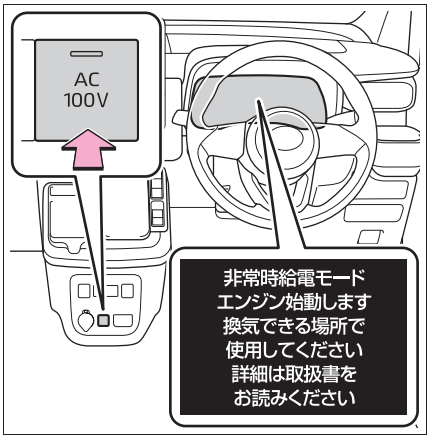
A イグニッション ON

2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“AC100V” スイッチを 3 回連続で押す

“AC100V” スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

“AC100V” スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“AC100V” スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.392）

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 “AC100V” スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める
5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

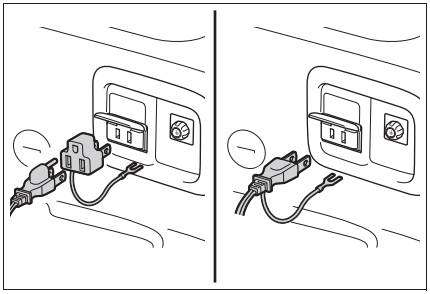
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを前席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

外部給電アタッチメントは、グローブボックスに搭載されています。

知識

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬

間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントの使用中、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

●非常時給電システムの使用中は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー (→P.472) のみでドアを施錠・解錠することができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “キーが見つかりません キーの所在を確認してください。” と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.221 を参照してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

⚠警告

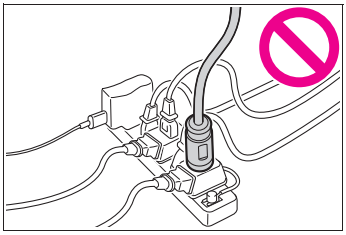
●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。またコードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

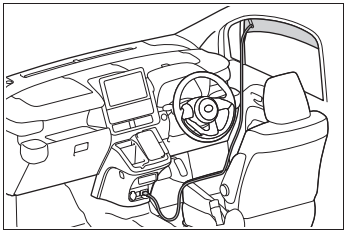
●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●給油や洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近づいたり、荷物を置いたりしないでください。
また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエータ冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣 (特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど) が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

⚠ 警告

●駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所 (雪が積もった場所) などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して使用してください。
設置できない場合は使用しないでください。

■走行中に使用するとき

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■駐車中または停車中に使用するとき

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

●特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）★または非常時給電システム★が使用できないときは

★：グレード、オプションにより装備の有無があります。

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。（→P.200）マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” と表示されていることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ ピンなどの異物が挿さっていないか ・ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

■ “シフトポジション切りかえにより給電停止しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処法
シフトポジションが P から切りかわった	シフトポジションを P に戻した後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 402
内装の手入れ 405

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 408
ガレージジャッキ 410
ウォッシャー液の補充 411
タイヤについて 411
タイヤ交換 413
タイヤ空気圧について 418
エアコンフィルターの交換 419
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 421
キーの電池交換 425
ヒューズの点検・交換 427
電球（バルブ）の交換 429

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワースライドドアの機能を停止する（→P.149）
・アンテナを取りはずす

車両前側から洗車してください。走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：N ポジションに保持したままにする必要があるときは、P.213 を参照してください。

■高圧洗車機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

●パワースライドドアの機能を停止する（→P.149）

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.155）

■ハンズフリーパワースライドドア★について

電子キーを携帯した状態で洗車時にセンサ ー 部付近を洗ったり、拭いたりした場合、パワースライドドアが作動する場合があります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●パワースライドドアの作動を停止する（→P.149）

●電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.155）

●ハンズフリーパワースライドドアの作動を停止する（→P.505）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

●BSM★

●RCTA★

●PKSB

●クリアランスソナー

●Toyota Safety Sense

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

⚠注意

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

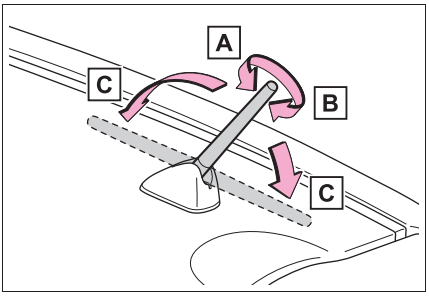
●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。



A 取りはずす

B 取り付ける

C 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

注意

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV・IR カットガラス★について

- ガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

●ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●車内で可燃性のスプレー（洗浄剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.34）電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.240）

■リヤウインドウガラス／クォーターウインドウの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

注意

■スーパーUV・IRカットガラス★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約5%にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

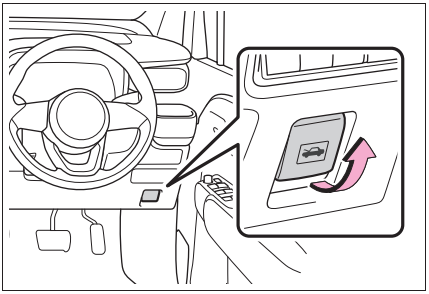
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

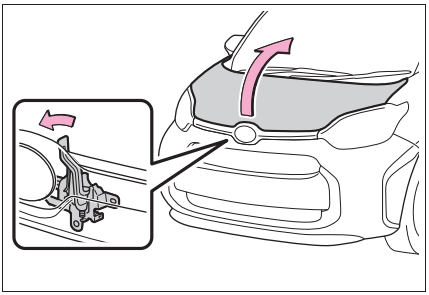
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

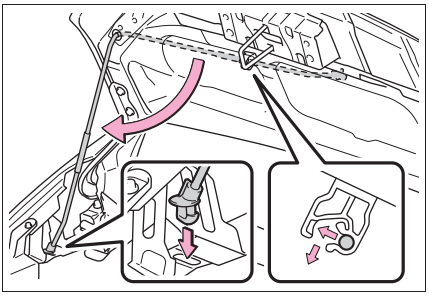
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



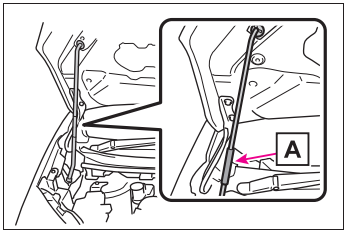
3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■ボンネットを開くとき

ボンネットステーは樹脂部分を持って取り扱ってください。また、走行直後にボンネットを開ける必要がある場合は、ボンネットステーが熱くなっていることがあるため、金属部分にふれないよう、特に注意してください。



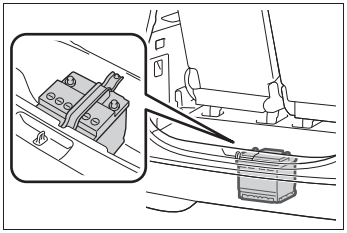
A 樹脂部分

■補機バッテリーについて

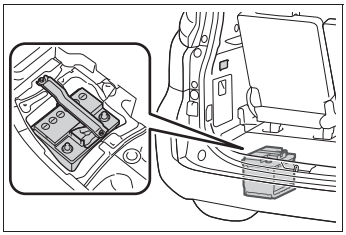
この車両の補機バッテリーはラゲージルームにあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
(→P.473)

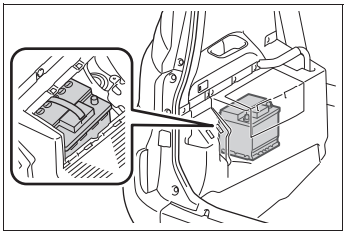
▶FF 車



▶4WD 車



▶車いす仕様車（スロープタイプ）



⚠警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

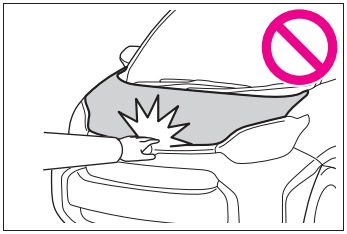
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠注意

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

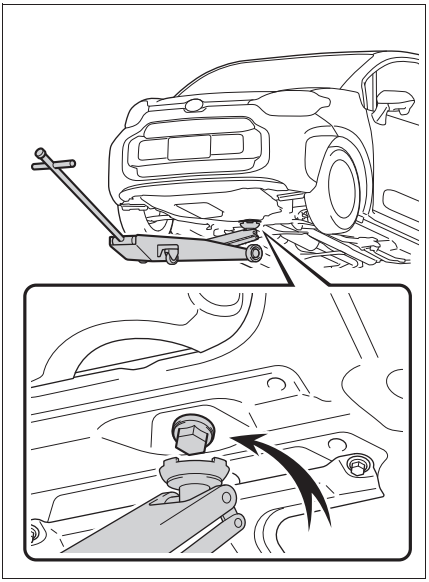
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

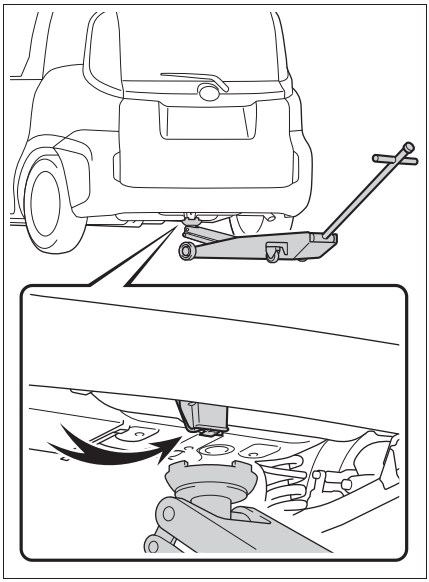
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

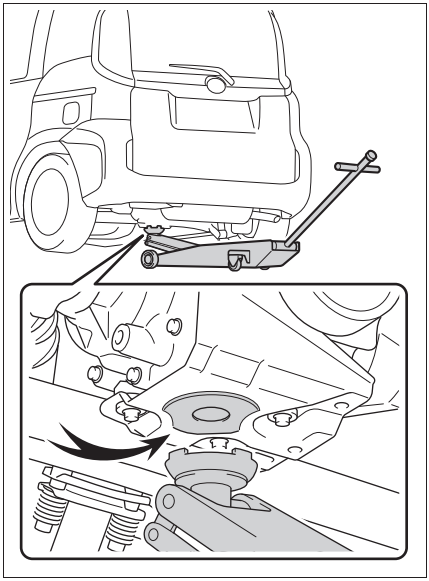


■ リヤ側

▶ FF 車（前輪駆動）



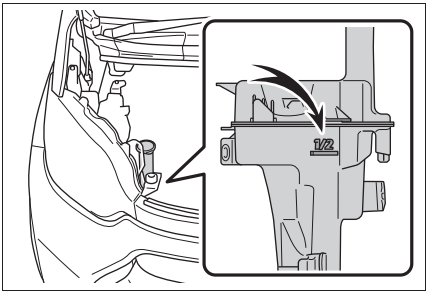
▶ 4WD 車（4 輪駆動）



ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が 1/2 の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

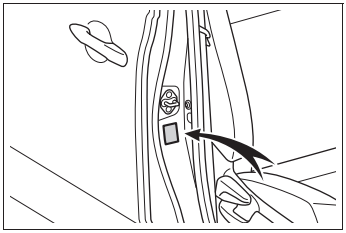
■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	前輪	後輪
185/60R15 84H※1	240kPa (2.4kg/cm²)※2	
185/65R15 88S		

※1車いす仕様車（スロープタイプ）

※2タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

⚠警告

■点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 警告

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

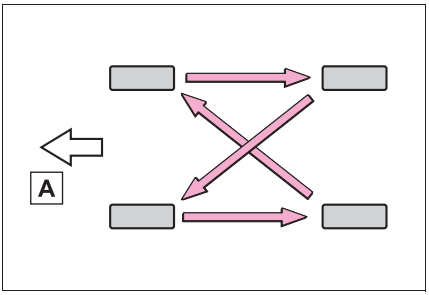
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.435）
- パワースライドドアの機能を停止する（→P.149）
- 車高調整機能を停止する（車いす仕様車［スロープタイプ］）※

※ 別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱説明書」を参照してください。

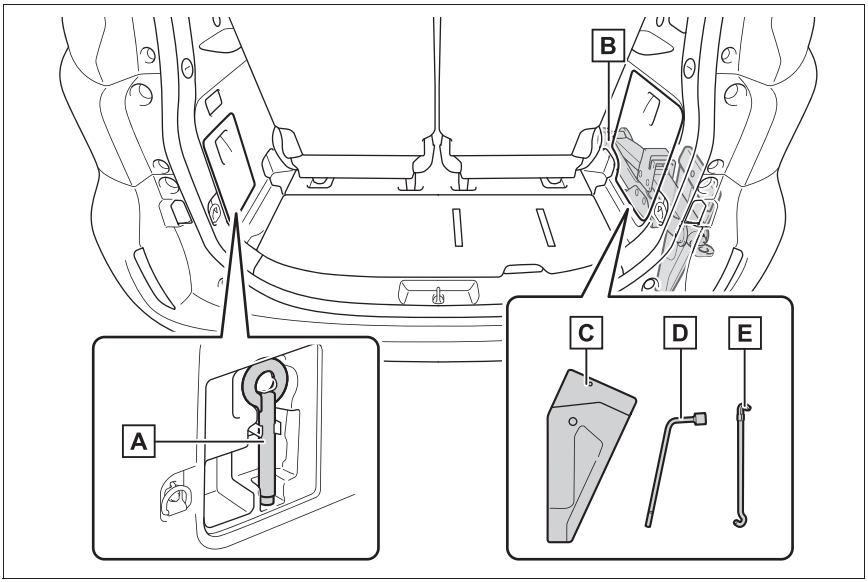
知識

■工具について

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具は搭載されていません。工具はトヨタ販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

工具の位置



A けん引フック

B ジャッキ※

C ツールバッグ※

D ホイールナットレンチ※

E ジャッキハンドル※

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

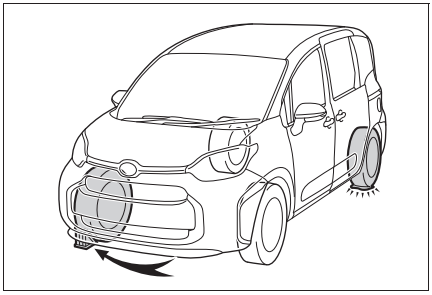
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない

⚠ 警告

- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの取りはずし

1 輪止め※をする

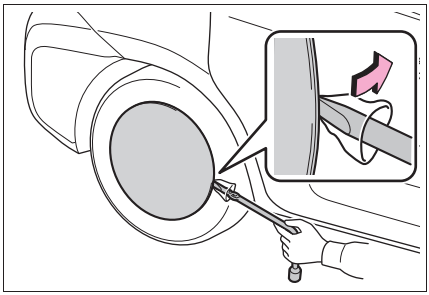


パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

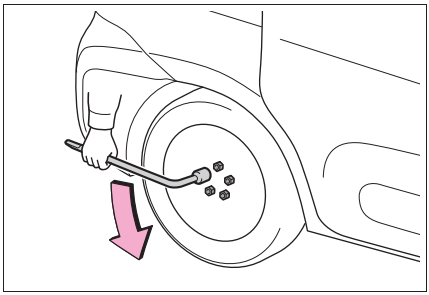
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

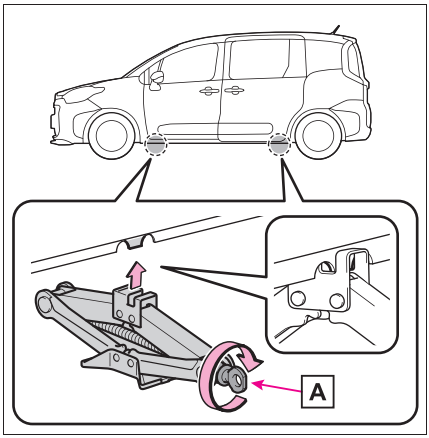
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



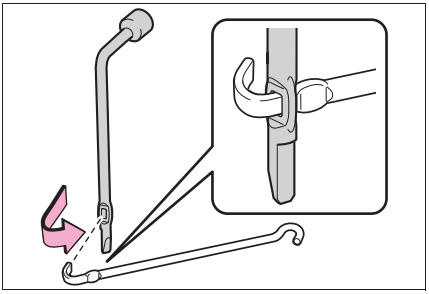
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



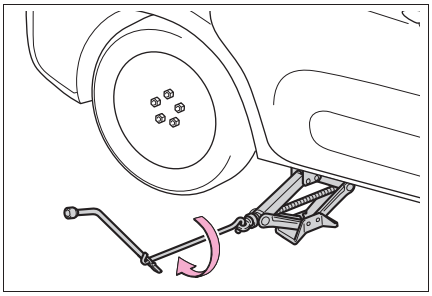
4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキのA部を手でまわす



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

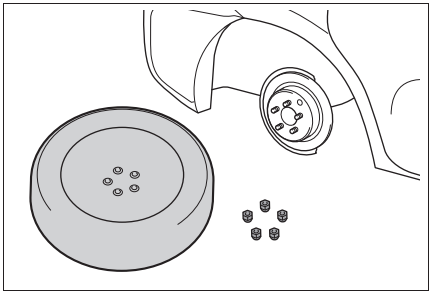


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアの機能を停止してください。(→P.149)
パワースライドドアメインスイッチを OFF にしないと意図せずパワースライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

⚠ 警告

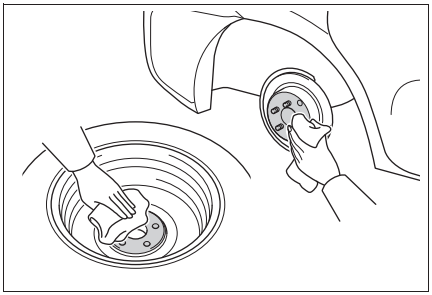
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

タイヤの取り付け

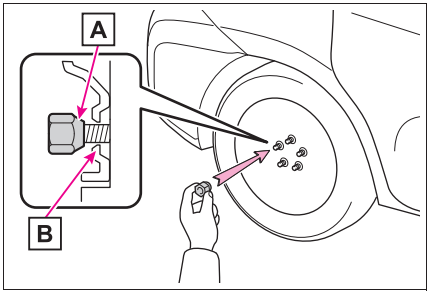
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



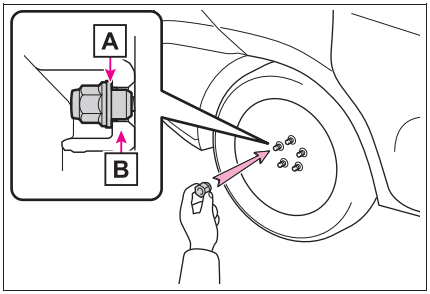
2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき：ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす

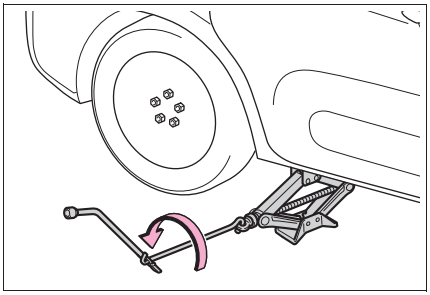


アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：ナットの座金Aがホイール

Bにあたるまでまわす

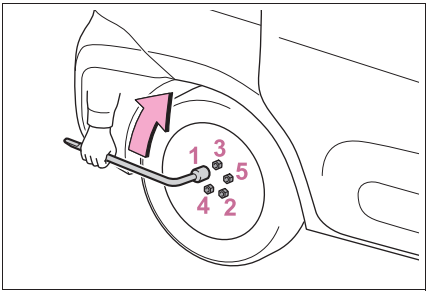


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）

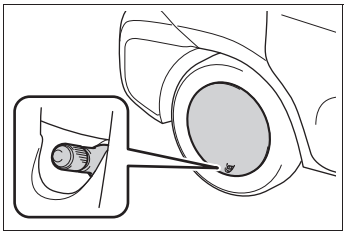


5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ホイールキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。



タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

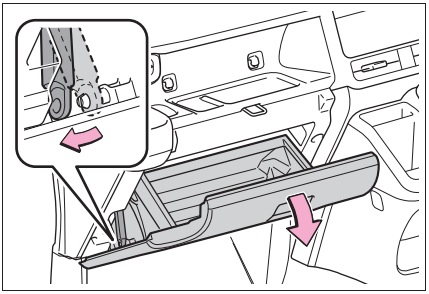
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

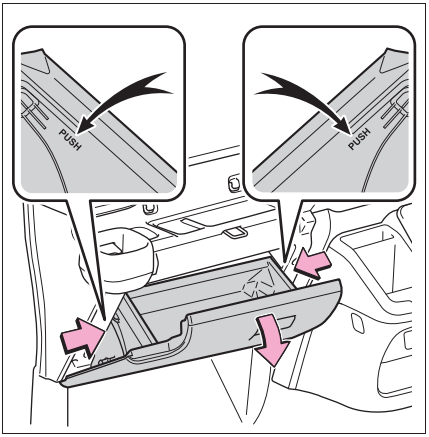
交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

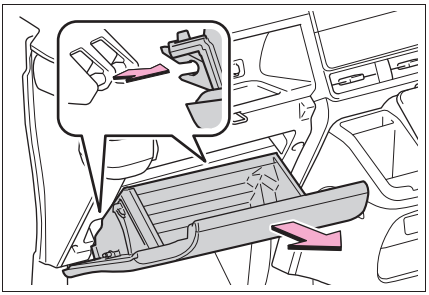


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす

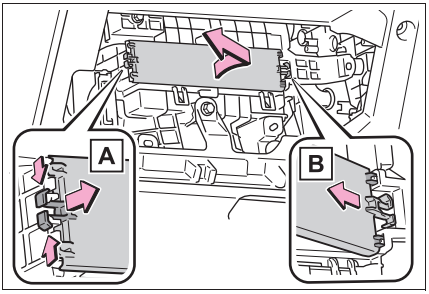


4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

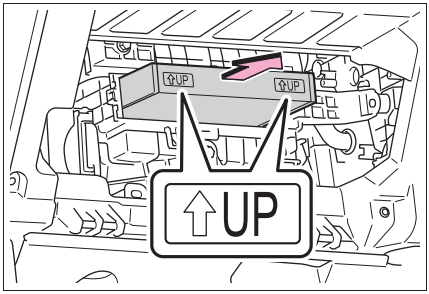
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

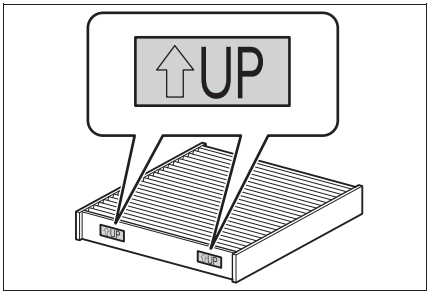


6 フィルターを取りはずす



7 新しいフィルターと交換する

“⇧UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km※1] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

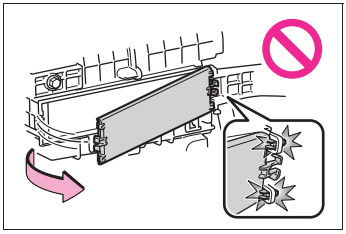
■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。

ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

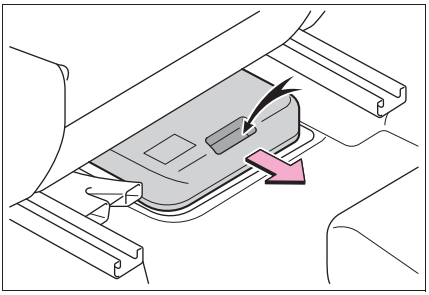
■マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは

すみやかに清掃してください。

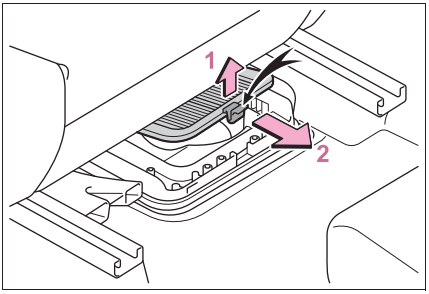
警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする
2 助手席をいちばん前にする（→P.159, 160）
3 カバーを矢印の方向にスライドさせて取りはずす

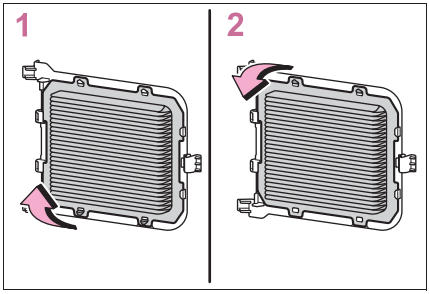


4 吸入口ベゼルを取りはずす



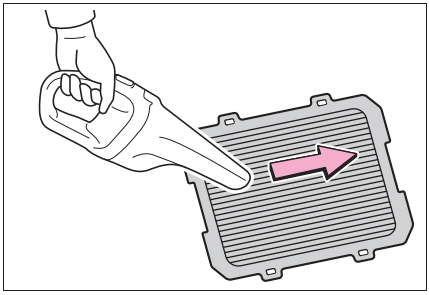
1 ツメを押しながら吸入口ベゼルを持ち上げる
2 矢印の方向に取りはずす
5 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。



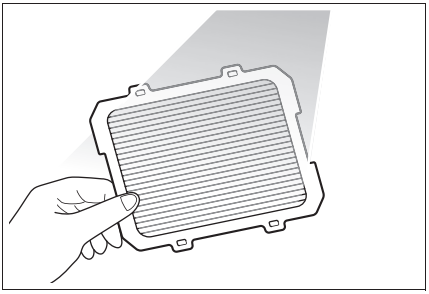
1 図で示す 2ヶ所のツメからフィルターをはずす
2 残りの 2ヶ所のツメを取りはずし、吸入口ベゼルからフィルターを取りはずす
6 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。
カバーからも埃やチリなどを取り除いてください。

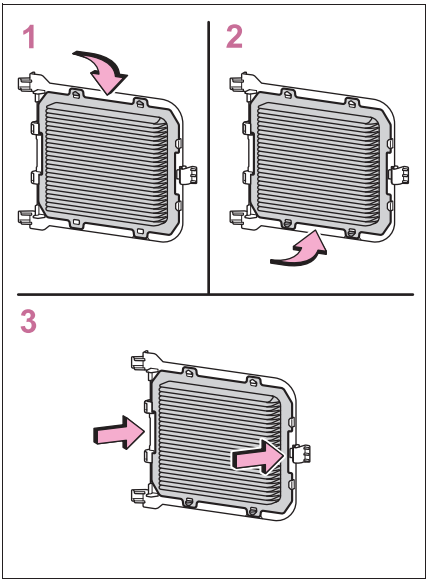


7 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



8 吸入口ベゼルにフィルターをもと通りに取り付ける



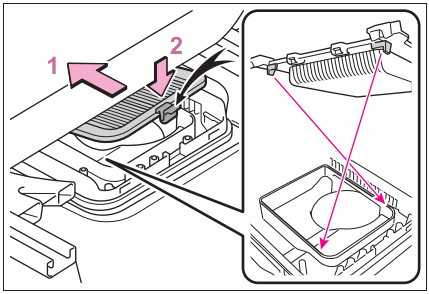
1 図で示す 2ヶ所のツメにフィルターを引っかける

2 残りの 2ヶ所のツメにフィルターを取り付ける

3 図で示す爪にフィルタを押し込む

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

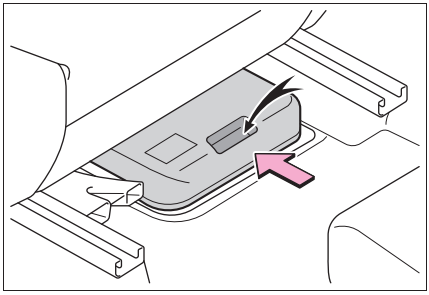
9 吸入口ベゼルを取り付ける



1 図で示すように、吸入口ベゼルのガイドを合わせる

2 ツメを取り付ける

10 カバーを取り付ける



▶ マルチインフォメーションディスプレイに “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” と表示されていたとき

11 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

⚠警告

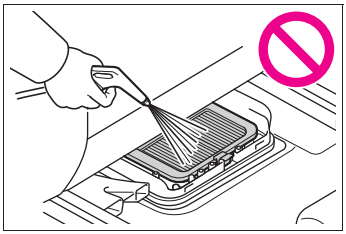
■吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。
ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずカバー・フィルター・吸入口ベゼルをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口ベゼルに取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2450

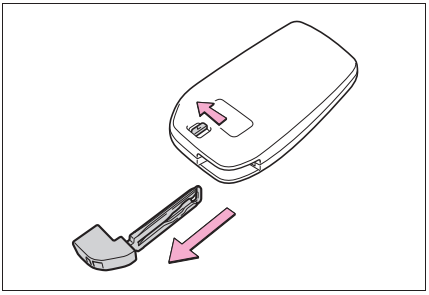
知識

■リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

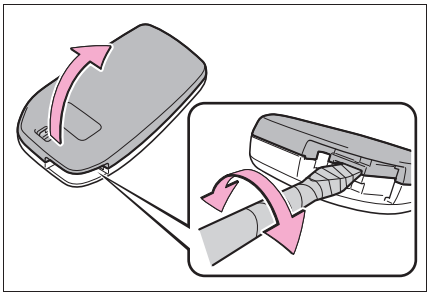
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

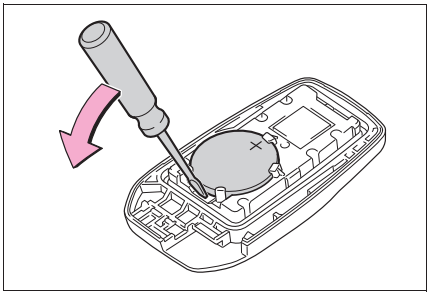


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを挿し込む

5 ボタン（または）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

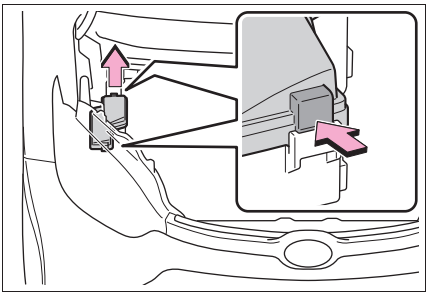
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

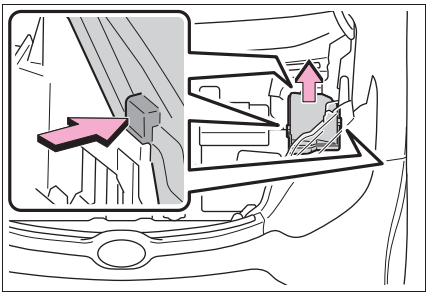
▶ エンジンルーム（運転席側）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（助手席側）

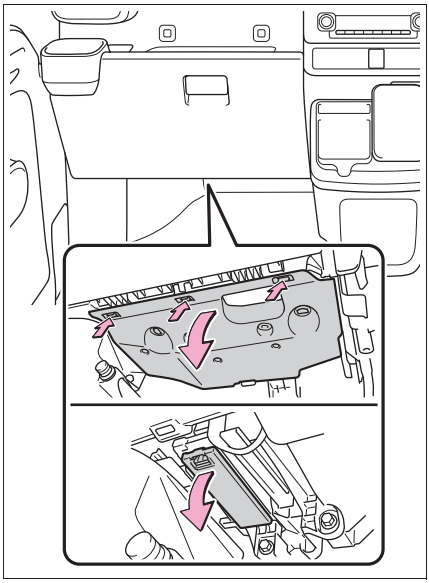
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



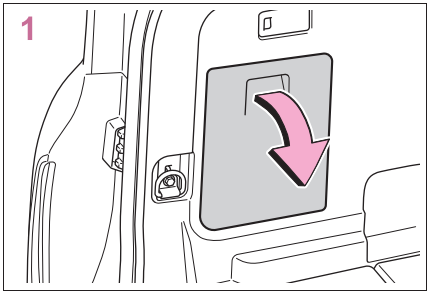
▶ 助手席足元

足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

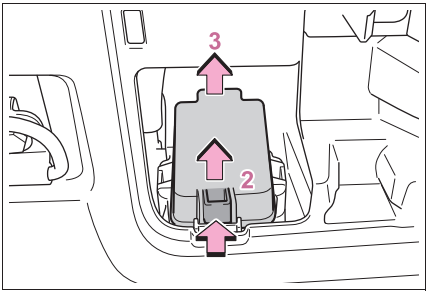
ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



▶ ラゲージルーム（助手席側）



1 カバーを取りはずす

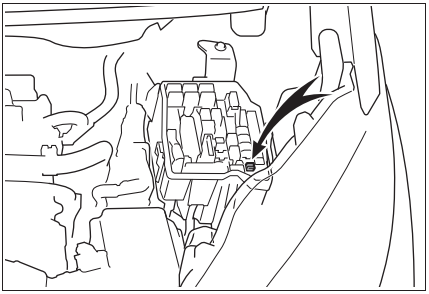


2 ツメを押しながら、カバーの手前を持ち上げる

3 カバーの奥を持ち上げて取りはずす

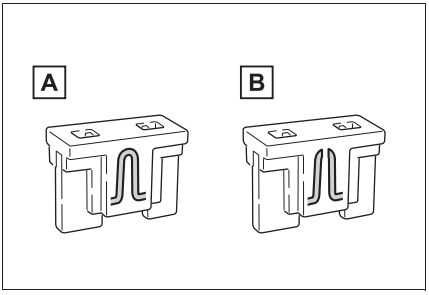
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

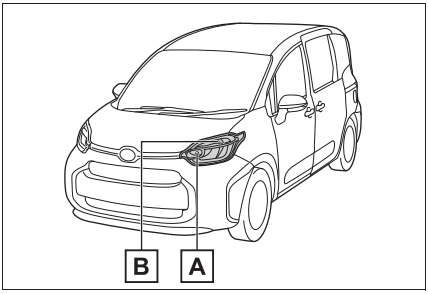
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.490）

電球の位置

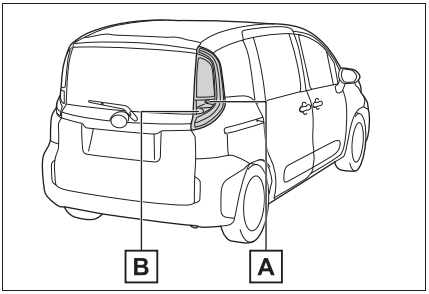
▶ フロント



A フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

B 車幅灯（バルブタイプ）

▶ リヤ



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、
トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- 車幅灯（LED タイプ）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

次のランプ以外は、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）
- 車幅灯（バルブタイプ）
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

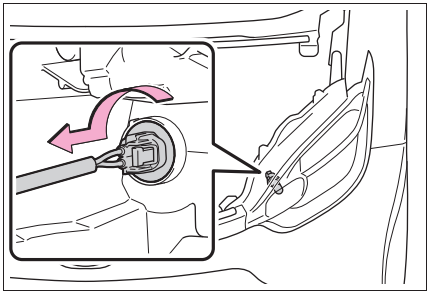
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.428

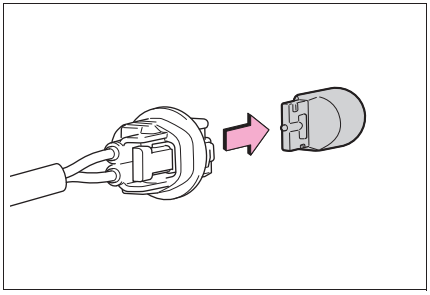
電球交換をするには

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす



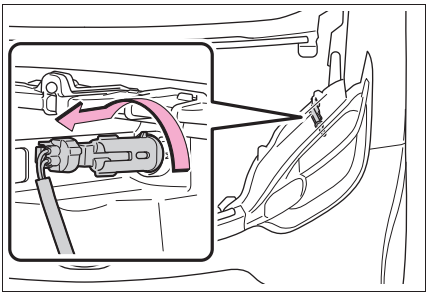
2 電球を取りはずす



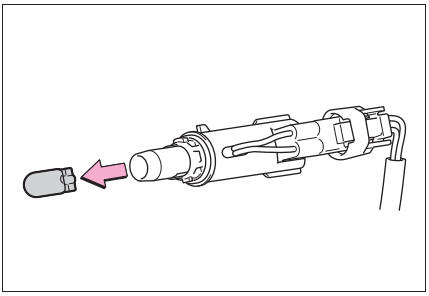
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **車幅灯（バルブタイプ）**

1 ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす

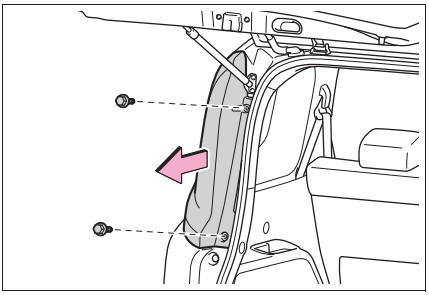


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

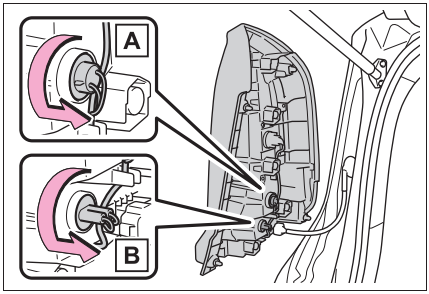
■ **リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯**

1 バックドアを開ける

2 ボルト（2 本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



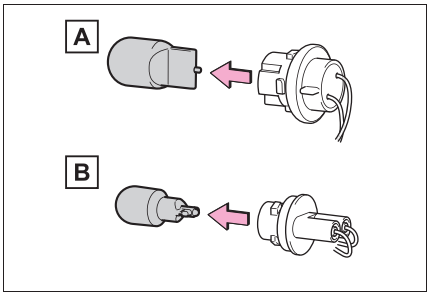
3 ソケットをまわして取りはずす



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

4 電球を取りはずす

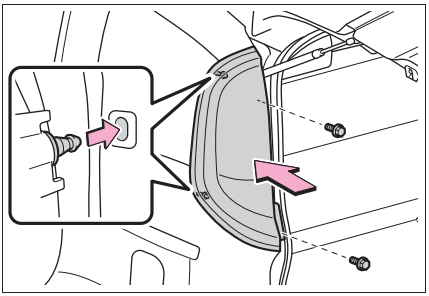


A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

6 車体の取り付け部にピンを合わせてランプ本体を取り付け、ボルト（2 本）を取り付ける



警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 434
非常点滅灯（ハザードランプ） 435
発炎筒 435
車両を緊急停止するには 436
水没・冠水したときは 437
車中泊が必要なときは 438

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 439
警告灯がついたときは 445
警告メッセージが表示されたときは 452
パンクしたときは 459
ハイブリッドシステムが始動できないときは 469
キーをなくしたときは 471
電子キーが正常に働かないときは 471
補機バッテリーがあがったときは 473
オーバーヒートしたときは 479
スタックしたときは 482
助手席ターンチルトシートが車外に出た状態で回転できないときは 483

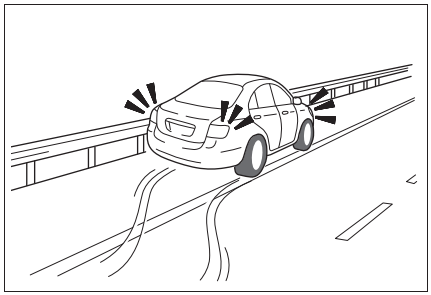
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.435）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



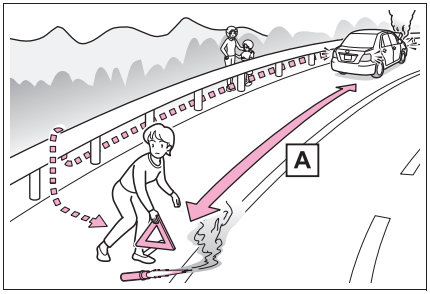
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.435）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

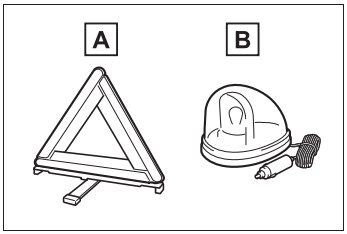
3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

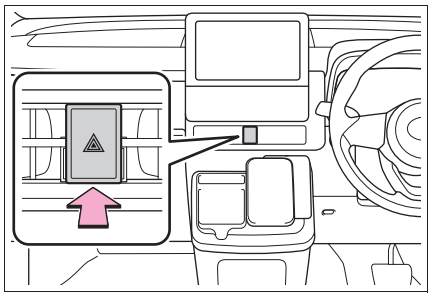
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

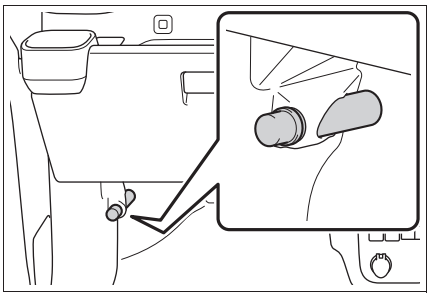
- ハイブリッドシステム停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
  非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
  （衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

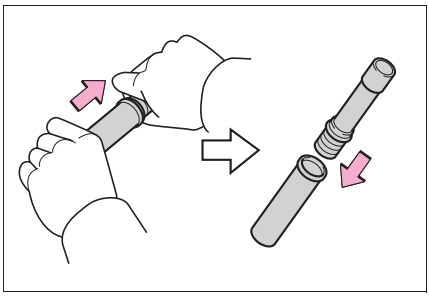
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

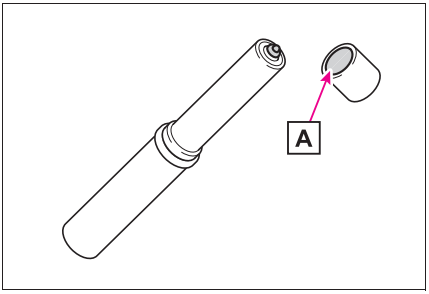


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発災筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発災筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発災筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発災筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発災筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発災筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N に入れる

▶ シフトポジションが N に入った場合

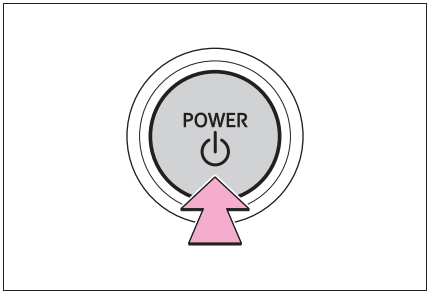
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.203, 452）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.88）
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき（→P.471）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.473）

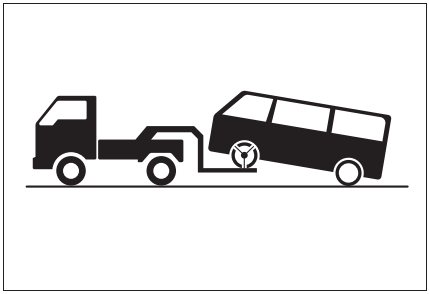
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

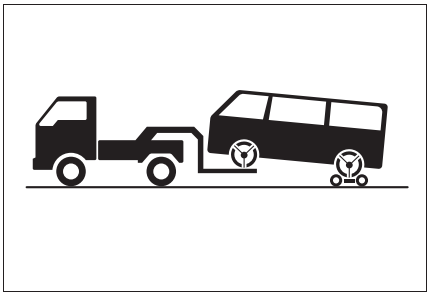
レッカー車でけん引するには

▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



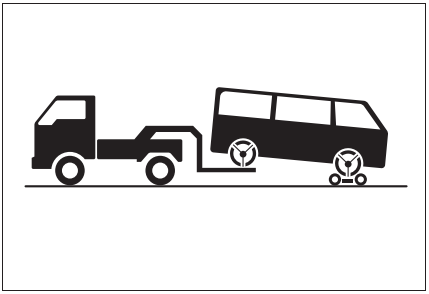
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

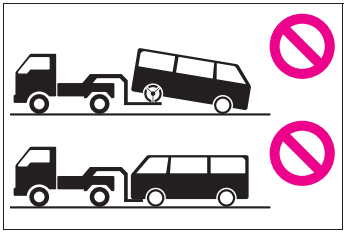
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

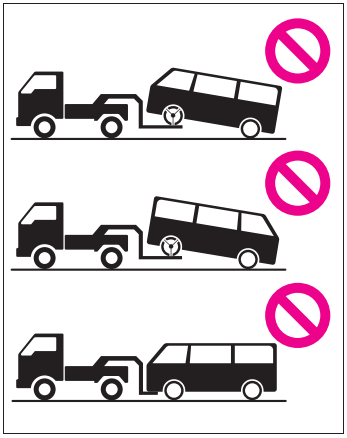
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ 4WD 車

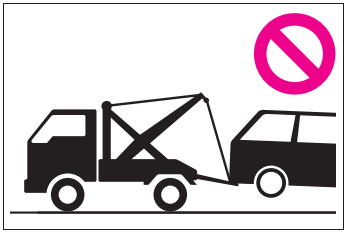
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

■レッカー車でけん引するとき

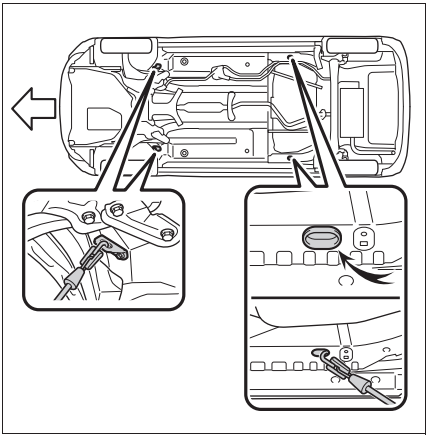
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



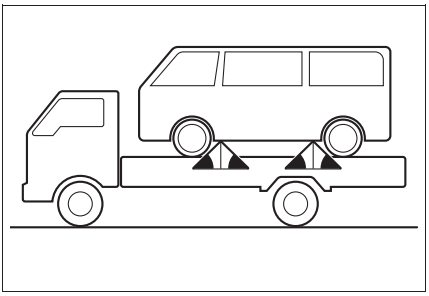
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

固縛用の穴にカバーが取り付けられている場合、輸送後はカバーをもとの位置に取り付けて、穴をふさいでください。



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

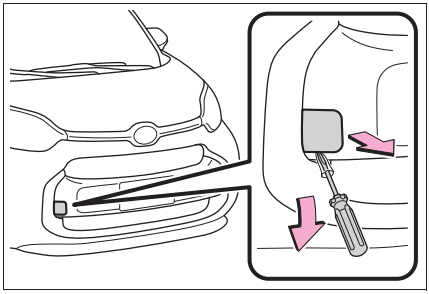
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

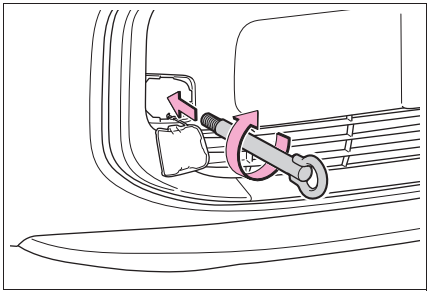
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.414, 460）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

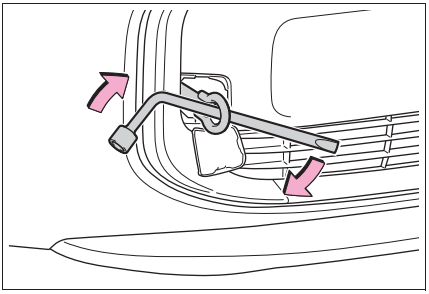


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチ※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ トヨタ販売店で購入することができます。



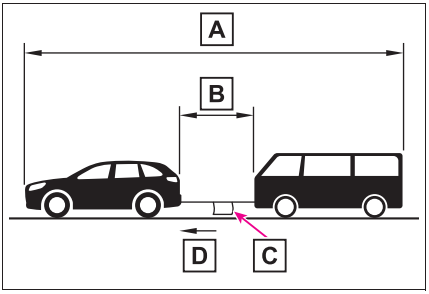
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフトレバーがシフトできないときは：→P.208

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

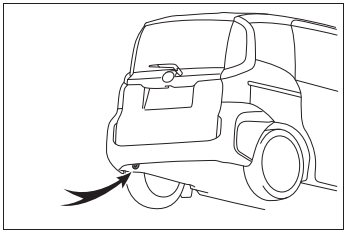
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

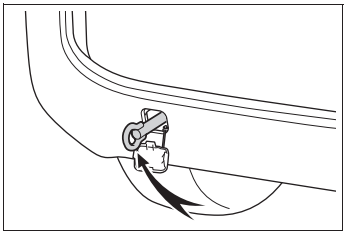
■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



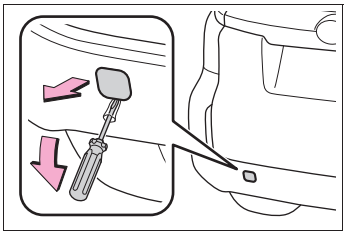
■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

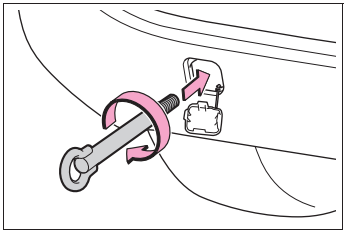
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（P.460, 414）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

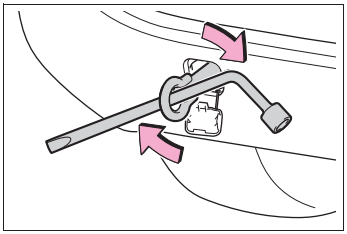


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※トヨタ販売店で購入することができます。



⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
次のことをしないでください

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.479）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 → **安全な場所に停車し、対処方法（→P.479）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS &ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 5.2L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LDA（レーンデパーチャーアラート）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）★ ●BSM（ブラインドスポットモニター）★ ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.454）**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 車高調整表示灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	エアサスペンションシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

※ 別冊「車いす仕様車（スロープタイプ）取扱説明書」を参照してください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

●パワースイッチが ON で、助手席ドア、スライドドアまたはバックドアを開閉すると約 60 秒間点灯します。

●いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、助手席ドア、スライドドアまたはバックドアを開閉すると約 60 秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.445）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.479

■ “駆動用電池保護が必要Nレンジの使用を控えてください” が表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフトポジションがNのときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションがNでは充電できないため、停車するときはシフトポジションをPにしてください。

■ “駆動用電池保護が必要Pレンジにして再始動してください” が表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

一定時間シフトポジションがNになっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し停車” または “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフトポジションがP以外でパワースイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はPにしてください。

■ “Nレンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ “停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOFFしました” が表示されたときは

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約5分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LEDヘッドランプ
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- AHB（オートマチックハイビーム）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★

- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知機能
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止　取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知機能
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）★

次の対処法に従ってください。

・補機バッテリー電圧を確認する

・RCD 装着車：バックドアが開いていないか確認してください。

・Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.241）

・BSM（ブラインドスポットモニター）★、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.291）

・センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→P.297, 306, 310）
センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。（→P.294, 326）

・センサーが正しく作動していないおそれがあります。（→P.244, 293, 297, 306, 310）

センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良　取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知機能
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

・エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外　常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる

・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります

・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■“機能停止 前方レーダー汚れ　汚れを除去してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.242）

・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■“機能停止 前方レーダー作動温度範囲外　常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■“機能停止 前方レーダー向き調整中　取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.242）

・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■“ソナーに水滴，雪等が付着しています”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■“機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれのシステムが停止しています。

●RCD（リヤカメラディテクション）★

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●レーダークルーズコントロール

●クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■“アクセルを戻してください”が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール（→P.197）

●プラスサポート★（→P.356）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱説明書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●“エンジン冷却水高温”が表示されたときは、対処方法（→P.479）に従ってください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・“スマートエントリー&スタートシステム故障”

・“ハイブリッドシステム故障”
・“エンジン系故障”
・“バッテリー系故障”
・“アクセル系故障”
・“シフトシステム故障”※1
・“P スイッチ故障”※1
・“シフトシステム不作動”※1
・“バッテリ充電不足”
・“ハイブリッドシステム停止”※2
・“エンジン停止”※2

※1エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

※2ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。（→P.236）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“故障のためブレーキ力が低下します”
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して取扱書確認”（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）
・“補機バッテリー充電システム異常”
・“エンジン油圧不足”

●“補機バッテリー（始動用）充電不足”が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
・数秒後※に表示が消えたときは：
ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.473）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

●“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
・駆動用電池冷却用吸入口を清掃する（→P.421）

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠注意

■**“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください”がひんぱんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

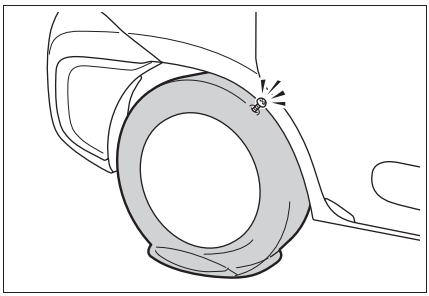
■パンクしたままの走行について

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.435）
- パワースライドドアの機能を停止する（→P.149）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

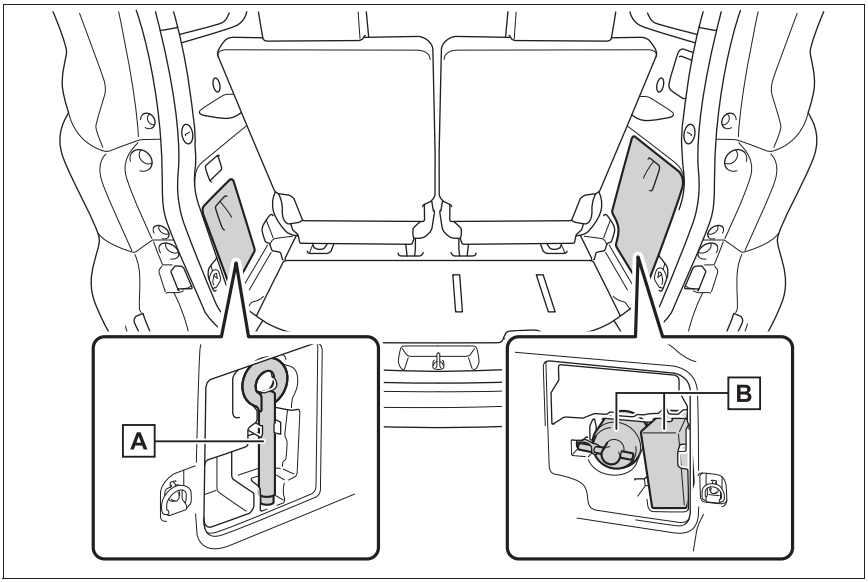
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の位置

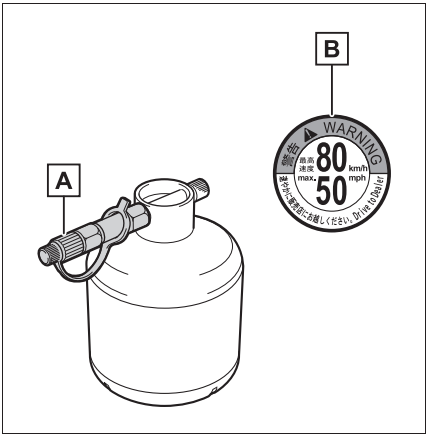


A けん引フック

B タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

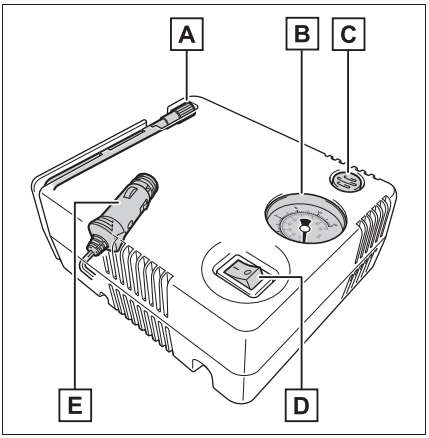
▶ ボトル



A ノズル

B 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



A ホース

B 空気圧計

C 空気逃がしボタン

D 電源スイッチ

E 電源プラグ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル１本でタイヤ１本を１回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

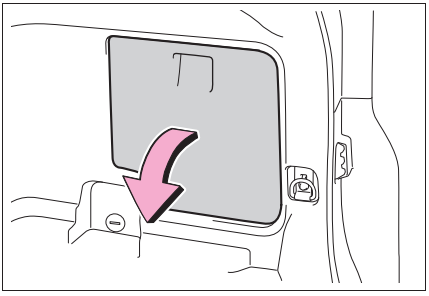
■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

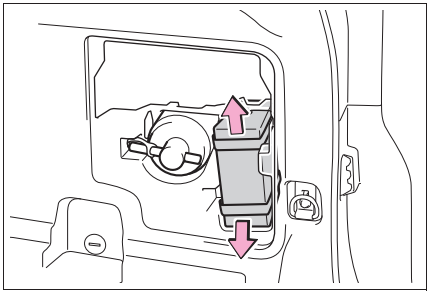
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 カバーを取りはずす

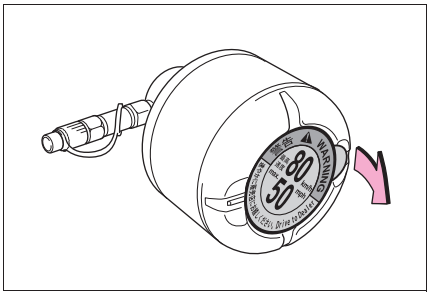


2 テープ止めをはずし、応急修理キットを取り出す

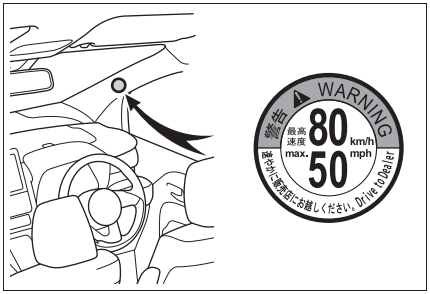


応急修理するときは

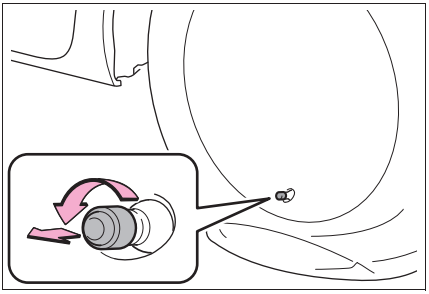
1 ボトルから速度制限ラベルをはがす



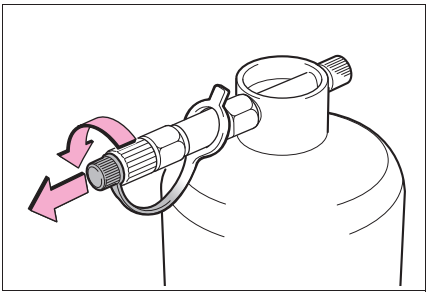
2 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける



3 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



4 ノズルからキャップを取りはずす

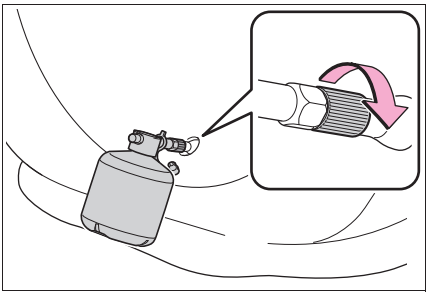


5 ノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

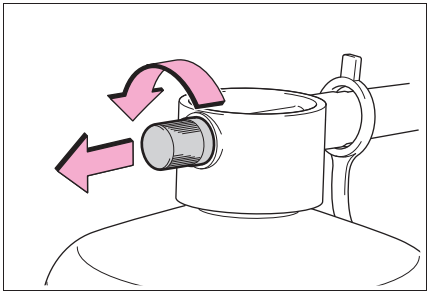
ノズル先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

ボトルは垂直にぶら下がるように取り付け、地面と接触させない。

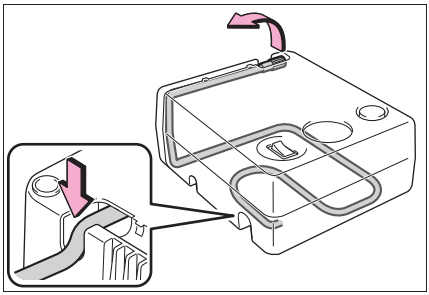
もし垂直にできない場合は、バルブの位置が適正になるように車両を移動させる。



6 ボトルのキャップをはずす

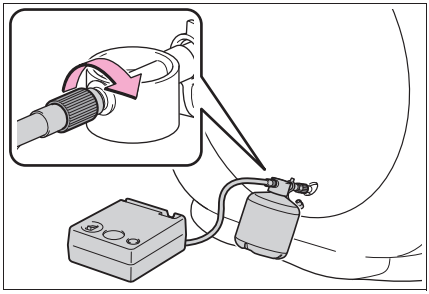


7 コンプレッサーからホースを取りはずす

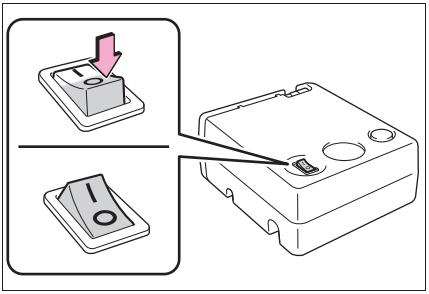


8 コンプレッサーのホースをボトルに取り付ける

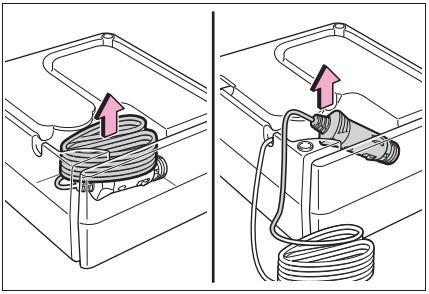
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



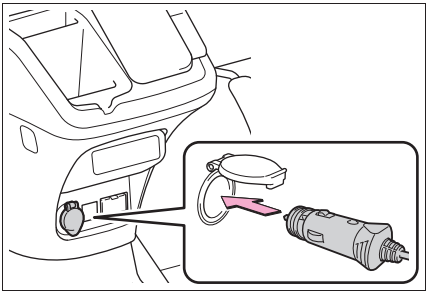
9 コンプレッサーのスイッチが○（OFF）であることを確認する



10コンプレッサーから電源プラグを取りはずす

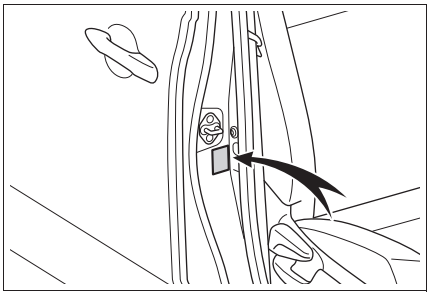


11コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.384）



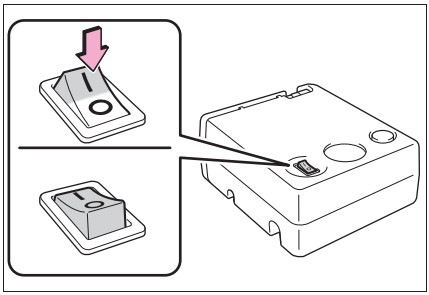
12タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.411）

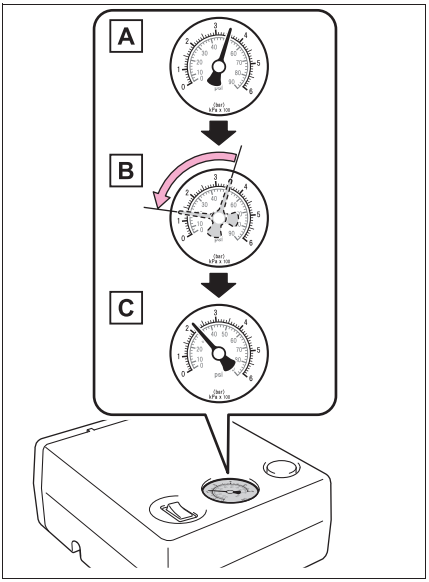


13ハイブリッドシステムを始動する（→P.200）

14コンプレッサーのスイッチを｜（ON）にし、パンク補修液と空気を充填する



15空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A スイッチ ｜（ON）直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する。

B スイッチを ｜（ON）にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

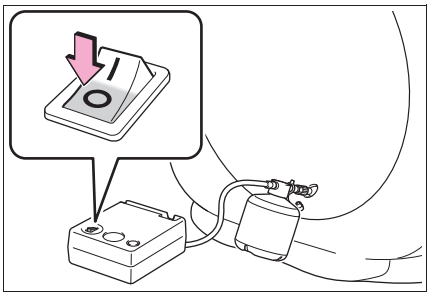
C 指定空気圧になるまで充填する

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを〇（OFF）にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

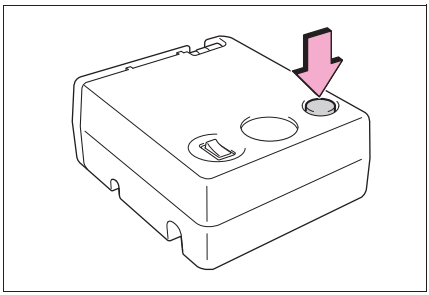
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.467）

16コンプレッサーのスイッチが〇（OFF）であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからノズルを取りはずす

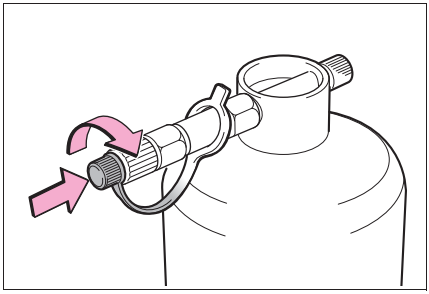
ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。



17空気圧逃がしボタンを押して、ボトル内部の圧力を抜く



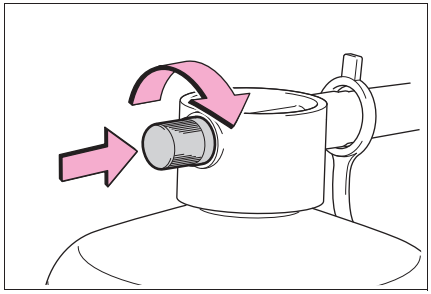
18ノズルにキャップを取り付ける



19パンクしたタイヤのバルブキャップを取り付ける

20ホースをボトルから取りはずし、ボトルのキャップを取り付ける

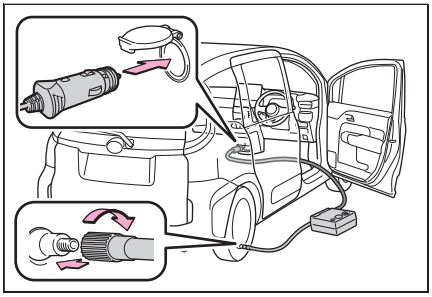
キャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



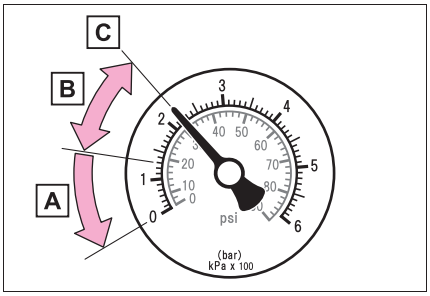
21いったん、ボトルとコンプレッサーをラゲージルームに収納する

22タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

23走行後、平坦な場所に停車して再度、コンプレッサーを接続する



24コンプレッサーのスイッチを数秒間❙（ON）にしてから再度❍（OFF）し、空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順**25**へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.490）の場合：手順**26**へ

25コンプレッサーのスイッチを❙（ON）にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**23**から実施する

26コンプレッサーをラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

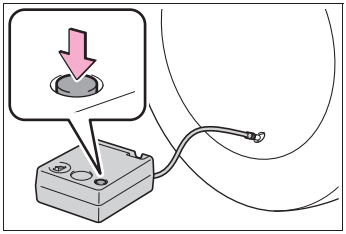
27 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



2 コンプレッサーのスイッチを数秒間｜（ON）にし、○（OFF）にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを｜（ON）にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

⚠ 警告

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを〇（OFF）にし、修理を中止してください

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●破裂や修理剤が漏れるおそれがあるため、ボトルを落下させたり、傷つけたりしないでください。
使用する前にボトルを目視で確認してください。ひびや傷、修理剤の漏れがあったり、衝撃を与えたボトルは使用しないでください。
その場合、すぐにボトルを交換してください。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

⚠注意

■応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.200）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.471）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.88）
- エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.200, 453）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.470）
- 外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（→P.85）

※ シフトポジションをPから切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.473）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.473）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.214）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

▶ ストレートタイプシフトレバー装着車

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチを ACC※1 にする※2

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチを ACC※1 にする※2

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※1 カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。（マルチメディアシステム装着車）（→P.496）

※2 ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.155）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.495）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.155）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.155）

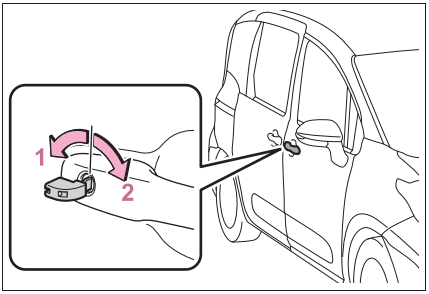
注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

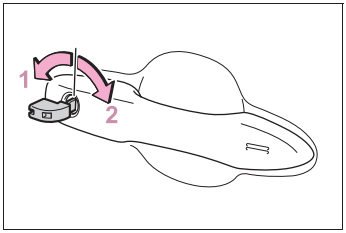
メカニカルキー（→P.130）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

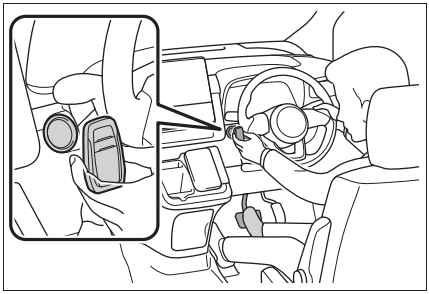
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む
2 図のように、電子キーのスイッチを表に向けた状態で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに と メッセージが表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.425)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.89)

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.203)

補機バッテリーがあがったときは

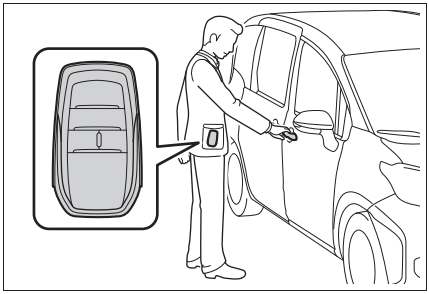
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

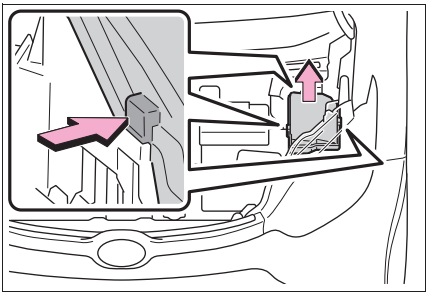
ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

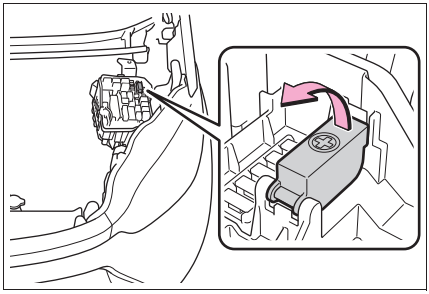
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.90)



2 ボンネットを開けて（→P.408）、ヒューズボックスのカバーをはずす

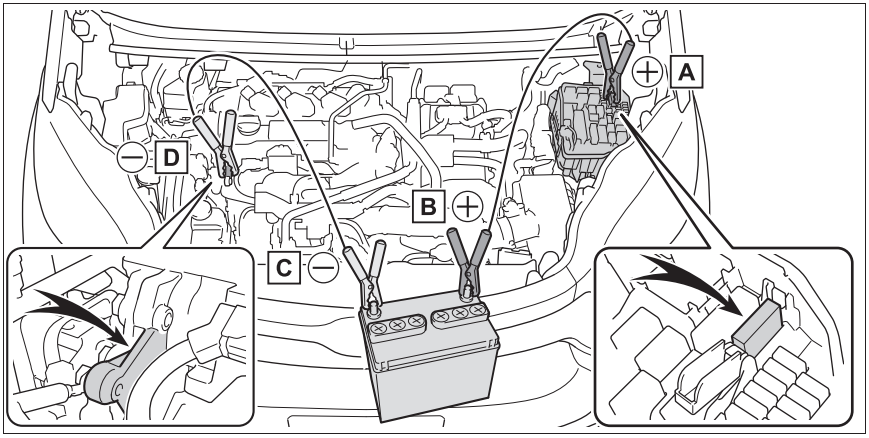


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子Aにつなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子Bにつなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子Cにつなぎ、もう一方の端を金属部Dにつなぐ。

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子のカバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプ・エアコン・オーディオ等の電源を切ってください。（ハイブリッドシステムによるエンジン停止中を除く）

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

●ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。
マルチメディアシステムの電源を OFF にしてください。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.508）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.408

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するときは ※

※ 車いす仕様車（スロープタイプ）については、トヨタ販売店にご相談ください。

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（285A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・ 適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化やハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

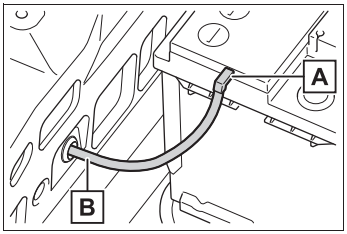
●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

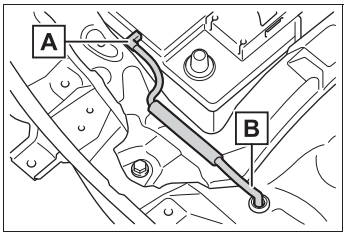
●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・ エルボが排気ホースと補機バッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
・ 排気穴栓が接続しない排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
・ 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

●詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

▶ FF 車



▶4WD 車



A 排気穴

B 排気ホース

⚠ 警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーの－端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

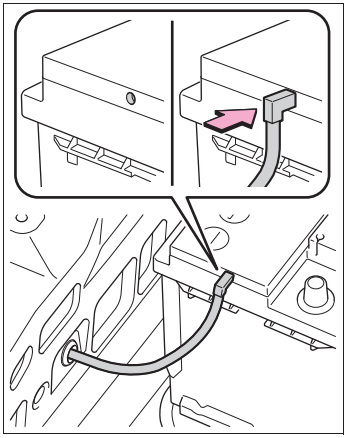
■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

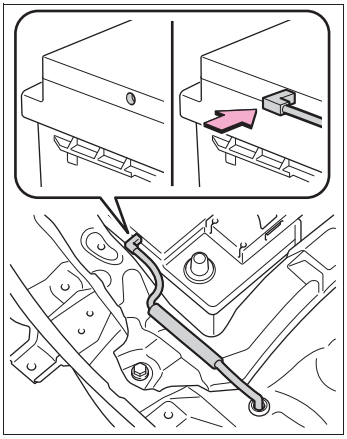
■補機バッテリーを交換するときは

- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 液栓やインジケーターがステーに近いと、補機バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

▶FF 車



▶4WD 車



⚠注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.97, 102）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

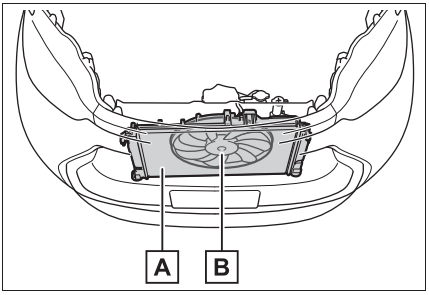
対処するには

▶ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



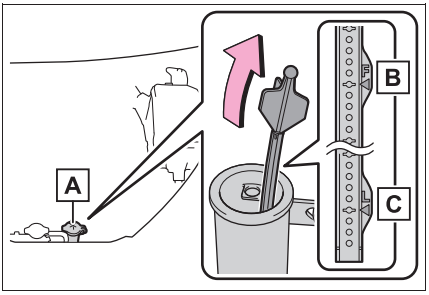
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がゲージの “F”（上限）と “L”（下限）のあいだにあるかを点検する

冷却水の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、冷却水の残量を判断します。



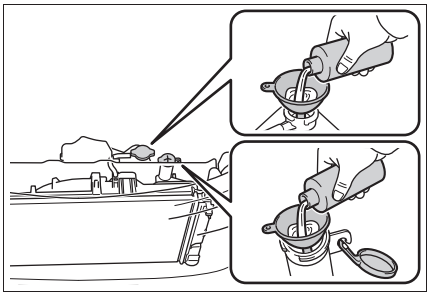
A リザーバータンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

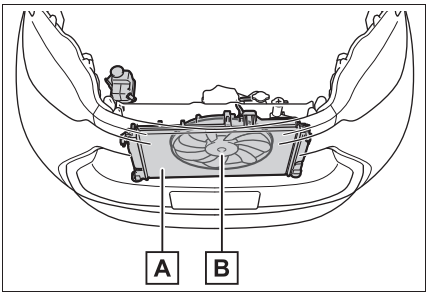
7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、
トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

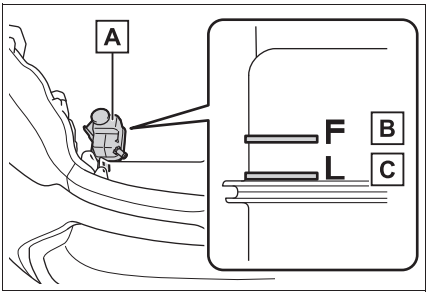


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

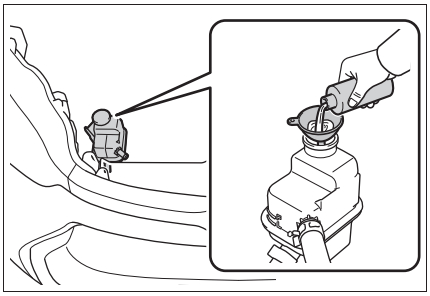
B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから５分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連連絡する
表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

⚠ 警告

- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

ストレートタイプシフトレバー装着車：シフトポジションを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 前輪周辺の土や雪などを取り除く

3 前輪の下に木や石などをあてがう

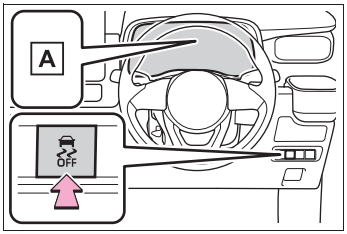
4 ハイブリッドシステムを再始動する

5 シフトポジションを D または R にして、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF を押して TRC を OFF にしてください。



A “TRC OFF しました”

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

助手席ターンチルトシート★が車外に出た状態で回転できないときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一、助手席ターンチルトシートが回転できなくなったときは、助手席ドアを閉めることができません。

その場合は、トヨタ販売店または専門業者に、「助手席ターンチルトシートを回転できるようにするには」（→P.484）の操作をご依頼ください。

使用工具について

助手席ターンチルトシートを車内にもどすときは、ホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを使用してください。

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

助手席ターンチルトシートを回転させる前に

次のことを確認してください。

- ドアが全開になっている
- ターンチルトシート・リヤシートに乗員がいない
- グローブボックスのフタが閉まっている
- サンバイザーが格納されている

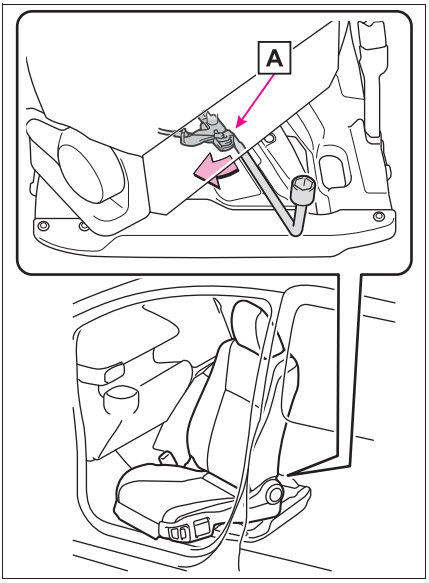
● 助手席ターンチルトシートの下および周辺に荷物などが置かれていない

助手席ターンチルトシートを回転できるようにするには

1 シートを支えながらホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを使用して助手席ターンチルトシート下の回転用ロック A を解除する

シートが回転し始めたらホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを引き抜きます。

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。



2 シートを支えながら中間ロック位置までシートを回転させる

3 再度、シートを支えながらホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを使用して助手席ターンチルトシート下の回転用ロックを解除する

シートが回転し始めたらホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを引き抜きます。

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

4 シートを支えながらシートを回転させる

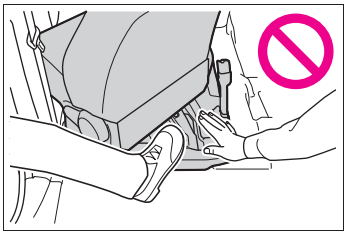
⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●修理が完了するまでは助手席ターンチルトシートに座らないでください。

●助手席ターンチルトシート格納スペースに手や足を入れないでください。シート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 486

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 492

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 508

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報について 509

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	40

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

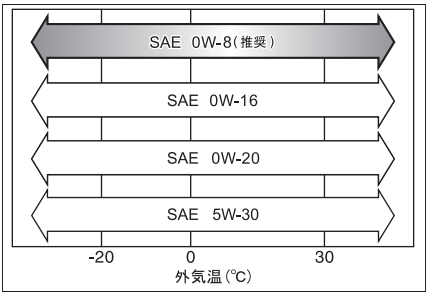
エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル GLV-1 0W-8 — JASO GLV-1, SAE 0W-8 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.2	3.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として0W-8で説明します）：

- 0W-8の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-8の8は、高温時の粘度特性を示しています。

■ 指定エンジンオイル

JASO GLV-1規格に合致したオイルをご使用ください。

JASO GLV-1 0W-8は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

JASO GLV-1 SAE 0W-8が入手困難な場合は、以下のオイルもご使用いただけます。
0W-16：API規格SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC規格GF-6B
0W-20、5W-30：API規格SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC規格GF-6A

なお、JASO規格合格油の缶にはJASO GLV-1マークがついています。

A JASO GLV-1マーク

B APIマーク

C ILSAC CERTIFICATIONマーク

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	4.9	1.6

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	2.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター［4WD 車のみ］）

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	1.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	78

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、294N（30.0kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 （エンジン始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.93, 445 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
1.8※1 2.3※2

※1 寒冷地仕様車を除く

※2 寒冷地仕様車

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
185/60R15 84H※	15 × 5 1/2J	240 (2.4)	240 (2.4)
185/65R15 88S			

※ 車いす仕様車（スロープタイプ）

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m（kgf・cm）]
103N・m（1050kgf・cm）

電球（バルブ）※

	電球	W（ワット）数
車外	車幅灯（バルブタイプ）	5W
	フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）	21W
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21W
	後退灯	16W
車内	リヤインテリアランプ	8W
	ラゲージルームランプ	5W

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動機型式		駆動方式
			フロント	リヤ	
シエンタ	MXPL10G	M15A-FXE（1.5L ガソリン）	1NM	ー	FF（前輪駆動）
	MXPL12G※				
	MXPL15G			1MM	4WD（4 輪駆動）

※ 車いす仕様車（スロープタイプ）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア画面★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定を変更するには

■ マルチメディア画面★で設定するには

1 メインメニューの⚙をタッチし、“車両カスタマイズ”を選択する
2 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
3 機能の作動内容を選択する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの〈／〉（4.2 インチディスプレイ）または∧／∨（7 インチディスプレイ）を押して⚙を選択する
2 メーター操作スイッチの∧／∨（4.2 インチディスプレイ）または〈／〉（7 インチディスプレイ）を押して変更する項目を選択する
3 ON/OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる
4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、⮌スイッチを押します。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

⚠ 警告

■カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■カスタマイズ設定を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディア画面★の画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラーム（→P.89）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	●あり ●なし	—	—	○

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.97, 102, 109, 116）

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
言語	●日本語 ●英語	—	○	—
単位	●km/L ●L/100km	—	○	—
メーターデザイン ※2	●Smart ●Casual	—	○	—

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
メータータイプ ※2	●タコメーター ●ハイブリッドシステムインジケーター ●シンプルメーター	—	○	—
EV インジケーター	●あり（自動点灯） ●なし	—	○	—
エコアクセルガイド	●表示 ●非表示	—	○	—
燃費グラフ	●リセット後平均燃費 ●始動後平均燃費 ●給油後平均燃費	—	○	—
オーディオシステム連携表示★	●あり ●なし	—	○	—
4WD（トルク配分表示）★	●表示 ●非表示	—	○	—
エネルギーモニター	●表示 ●非表示	—	○	—
ドライブインフォタイプ	●始動後 ●リセット間	—	○	—
ドライブインフォ項目（1 行目）	●走行距離 ●走行時間 ●平均車速	—	○	—
ドライブインフォ項目（2 行目）	●走行距離 ●走行時間 ●平均車速	—	○	—
割込表示	●あり ●なし	—	○	—

※1機能についての詳しい説明は P.114, 120 を参照してください。

※27 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.153）、ワイヤレスドアロック共通（→P.130）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図（非常点滅灯）	●あり ●なし	○	—	○
作動の合図（ブザー音量調整）	●レベル 0 (OFF) ～ レベル 7	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.153）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	—	○
降車オートロック機能	●あり ●なし	—	—	○
接近時オートアンロック機能	●あり ●なし	—	—	○
パワースライドドア閉作動中の降車オートロック機能	●あり ●なし	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.130）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレス機能	●あり ●なし	—	—	○

■ ドアミラー（→P.182）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オート電動格納作動	●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動 ●なし	—	—	○

■ パワーウインドウ（→P.185）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
キー連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	●あり ●なし	—	—	○
窓開警告制御	●あり ●なし	—	—	○

■ パワースイッチ（→P.203）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ★ ACC の ON/OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ（→P.221）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ランプ消し忘れ防止ブザー	●あり ●なし	—	—	○

■ アダプティブハイビームシステム★（→P.226）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	●ON ●OFF※	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	●15km/h ●30km/h ●40km/h	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	●ON ●OFF	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	●ON ●OFF	—	—	○
市街地用の配光制御	●ON ●OFF	—	—	○

※ オートマティックハイビームとして作動します。（→P.229）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.221）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	●パワースイッチと連動 ●運転席ドアと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	—	○

■ ヘッドランプ一時点灯機能（→P.223）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ヘッドライトが自動的にオフになるまでの経過時間	●30 秒 ●60 秒 ●90 秒 ●120 秒	—	—	○

■ リヤワイパー（→P.234）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能	●する ●しない	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	●する ●しない	—	—	○
リバース連動機能	●1 回のみ作動 ●連続作動 ●OFF	—	—	○

■ プリクラッシュセーフティ（→P.247）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	—	○	—
警報タイミング	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—

■ レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.261）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート（LDA）	●ON ●OFF	—	○	—
警報タイミング	●標準 ●早い	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
警報手段	●ハンドル振動 ●ブザー	—	○	—
低車速支援	●ON ●OFF	—	○	—

■ 休憩提案（→P.262）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	●ON ●OFF	—	○	—

■ プロアクティブドライビングアシスト（→P.266）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）	●ON ●OFF	—	○	—
支援感度	●低い ●中間 ●高い	—	○	—
操舵アシスト（SA）	●ON ●OFF	—	○	—
減速アシスト（DA）	●ON ●OFF	—	○	—
障害物先読みアシスト（OAA）	●ON ●OFF	—	○	—

■ 発進遅れ告知機能（→P.271）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車	●ON ●OFF	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
信号	●ON ●OFF	—	○	—
告知タイミング	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—

■ ロードサインアシスト（→P.273）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト	●ON ●OFF	—	○	—
速度標識超過告知方法	●無 ●表示 ●表示とブザー	—	○	—
その他告知方法	●無 ●表示 ●表示とブザー	—	○	—
速度超過告知車速	●2km/h ●5km/h ●10km/h	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（DRCC）（→P.276）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
加速度設定	●弱 ●中 ●強	—	○	—
速度設定（短押し）	●1 km/h ●5 km/h ●10 km/h	—	○	—
速度設定（長押し）	●1 km/h ●5 km/h ●10 km/h	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ガイド文言表示	●ON ●OFF	—	○	—
カーブ速度抑制	●弱 ●中 ●強 ●OFF	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.289）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	●ON ●OFF	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	●明るい ●暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.303）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	●ON ●OFF	—	○	—
ブザー音量※	●レベル1 ～ レベル3	—	○	—

※ クリアランスソナー、RCD（リヤカメラディテクション）★のブザー音量と連動しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→P.294）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能	●あり ●なし	—	○	—
ブザー音量 ※1	●小 ●中 ●大	—	○	—
フロントセンターセンサーの検知開始距離 ※2	●近い ●標準	○	—	—
リヤセンターセンサーの検知開始距離 ※2	●近い ●標準	○	—	—

※1クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート★、リヤカメラディテクション★の音量調整は連動しています。

※2アドバンストパーク機能付きパノラミックビューモニター装着車のみ、パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.308）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCD 機能	●ON ●OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.312）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	●ON ●OFF	—	○	—

■ トヨタチームメイトアドバンストパーク★（→P.323）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
音声案内	●あり ●なし	○	—	—
速度モード	●遅め ●標準 ●速め	○	—	—
障害物回避距離	●標準 ●遠い	○	—	—
優先駐車方法	●並列 ●縦列	○	—	—
優先駐車向き	●前向き ●バック	○	—	—
優先出庫方向（並列）	●左 ●右	○	—	—
優先出庫方向（縦列）	●左 ●右	○	—	—
駐車時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—	—
出庫時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—	—
駐車進路調整	●-3（内側）～+3（外側）	○	—	—
道幅調整	●やや狭い ●狭い ●標準	○	—	—
駐車位置調整（前向き）	●-3（後）～+3（前）	○	—	—
駐車位置調整（バック）	●-3（後）～+3（前）	○	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後部取付部品設定	●10cm ●20cm ●30cm ●40cm ●取付なし	○	—	—
登録した場所の消去	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.197）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後退速度の抑制制御	●あり ●なし※	—	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ リヤシートリマインダー（→P.136）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後席置忘れ防止の表示	●あり ●なし	—	○	—

■ 制動灯（→P.94）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メーター内の制動灯表示灯の点灯	●ON ●OFF	—	—	○

■ パワースライドドア（→P.138）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車室内のパワースライドドアスイッチ操作	●短押し ●長押し	—	—	○
スライドドアハンドルスイッチの反応時間	●0.3 秒 ●0.5 秒 ●0.8 秒 ●OFF	—	—	○
電子キーのパワースライドドアスイッチ操作	●スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：長押し ●スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：単押し ●スライドドア施錠時：なし スライドドア解錠時：2 回押し ●スライドドア施錠時・解錠時共に長押し ●スライドドア施錠時・解錠時共に 2 回押し ●なし	—	—	○
閉作動中ブザー	●あり ●なし	—	—	○

■ ハンズフリーパワースライドドア★（→P.141）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
左側ハンズフリーパワースライドドア機能	●ON ●OFF	—	○	—
右側ハンズフリーパワースライドドア機能	●ON ●OFF	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
左側キックセンサー感度調整	●+0 ●+1 ●+2	—	—	○
右側キックセンサー感度調整	●+0 ●+1 ●+2	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートエアコン（→P.366）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	●する ●しない	○	—	○

■ イルミネーション（→P.375）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF※	○	—	○
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	●あり ●なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	●あり ●なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	●あり ●なし	—	—	○

※ イルミネーテッドエントリーシステム（→P.375）が作動しなくなります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウインドウ	・正常に働かないとき	P.185
パワースライドドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P.144
クリアランスソナー	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.294
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）★	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.316

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フリー／オープンソースソフトウェア情報について

T-Connect エントリー（22）

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dcm/toyota/

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
.....512
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....514
アルファベット順さくいん.....516
五十音順さくいん 518

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.471）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.471）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.425）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.203）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.155）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.149）

スライドドアが全開にならない

- 給油扉が開いていませんか？
  給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.200）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.200）

● キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.154）

● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.472）

● 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.473）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトポジションが P から動かない（ストレートタイプシフトレバー装着車）

● パワースイッチは ON になっていますか？
パワースイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.208）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、助手席のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.187）

パワースイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.204）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.514）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.445, 452 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.459）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.482）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.89
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.452
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.186
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.89
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.128
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.154
	電子キーを車内に置き忘れている	P.452

※スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.137
	パーキングブレーキが解除されていない	P.217
	運転席・助手席・リヤ席のシートベルトを着用していない※1	P.447
シフトポジションの切り替えをしたとき※2	無効なシフト操作をした※3	P.211
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.194
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.247
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.256
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.261

状況	原因	詳細
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.271
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.273
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.276
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.287
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.294
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.303
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）★が作動した	P.308

※1助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※2エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

※3シフトポジションの切り替えが無効になるときや、自動的にNポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....366
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....348
AHB
（オートマチックハイビーム）..229
AHS
（アダプティブハイビームシステム）.....226
BSM
（ブラインドスポットモニター）.....289
EDR
（イベントデータレコーダー）.....9
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....348
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....42
LDA
（レーンディパーチャーアラート）.....261
LED
（ライトエミッティングダイオード）.....430
LTA
（レーントレーシングアシスト）.....256
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..247
PDA
（プロアクティブドライビングアシスト）.....266
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）.....312
RCD
（リヤカメラディテクション）..308
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）.....303
SCB
（セカンダリーコリジョンブレーキ）.....348
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....34
Toyota Safety Sense
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....226
AHB（オートマチックハイビーム）.....229
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....247
LTA（レーントレーシングアシスト）.....256
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....261
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....266
発進遅れ告知機能.....271
RSA（ロードサインアシスト）273
レーダークルーズコントロール.....276
クルーズコントロール.....284
ソフトウェアアップデートを確認する.....238
ドライバー異常時対応システム.....287

TRC
（トラクションコントロール）..348
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....348

五十音順さくいん

あ

アームレスト.....387
IR カットガラス.....405
アウターミラー（ドアミラー）
格納のしかた.....183
操作.....182
ブラインドスポットモニター（BSM）289
ミラーヒーター.....367
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）
.....303
アクセサリーコンセント.....389
使用できないときは.....397
アクセサリーソケット.....384
アクセサリーモード.....203
アシストグリップ.....387
アダプティブハイビームシステム...226
アラーム
オートアラーム.....89
警告ブザー.....445
アンチロックブレーキシステム（ABS）
.....348
警告灯.....446
アンテナ
スマートエントリー&スタートシステム
.....153
ルーフアンテナ.....405

い

イージークローザー
スライドドア.....142
ECB（電子制御ブレーキシステム）348
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）348
EV 走行時間表示.....113, 119
EV ドライブモード.....205
E-Four（電気式 4WD システム）....349
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....200
自動電源 OFF 機能.....204
車両を緊急停止する.....436
ハイブリッドシステム始動のしかた...200
モード切りかえ.....203
位置交換（タイヤローテーション）.413
イベントデータレコーダー（EDR）.....9
イモビライザーシステム.....88
イルミネーテッドエントリーシステム
.....375
インジケーター（表示灯）.....94
インテリアランプ.....376
インナーミラー.....181

う

ウインカー（方向指示灯）.....214
電球（バルブ）の交換.....430
方向指示レバー.....214
ウインドウ
ウォッシャー.....231, 234
パワーウインドウ.....185
リヤウインドウデフォッガー.....367

ウインドウロックスイッチ.....187
ウインドシールドデアイサー.....370
ウォッシャー.....231, 234
液の補充.....411
スイッチ.....231, 234
スイッチ（フロント）.....231
スイッチ（リヤ）.....234
冬の前の準備・点検.....361
運転.....191
雨の日の運転.....192
運転を補助する装置.....348
寒冷時の運転.....361
正しい運転姿勢.....27
手順.....191
ハイブリッド車運転のアドバイス.....359
運転支援機能情報表示.....113, 119
運転席シートベルト非着用警告灯...447

え

エアコン
オートエアコン.....366
曇り取り（フロントガラス）.....367
フィルターの清掃.....419
エアコン・デフォッガー.....367
エアバッグ.....34
SRS エアバッグ警告灯.....446
改造・廃棄.....39
警告ブザー.....446
作動条件.....35
正しい姿勢.....27
配置.....34
エコアクセルガイド.....112, 118
エコジャッジ.....112, 118
SCB
（セカンダリーコリジョンブレーキ）...348
エネルギーモニター.....122
LTA
（レーントレーシングアシスト）.....256
LDA
（レーンディパーチャーアラート）.....261
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.....348
警告灯.....447
エンジン
イモビライザーシステム.....88
緊急時の停止方法.....436
ハイブリッドシステムが始動できない469
ハイブリッドシステム始動のしかた...200
パワースイッチ（イグニッション）.....200
ボンネット.....408
エンジンオイル
警告灯.....446
冬の前の準備・点検.....361
エンジンフード（ボンネット）.....408
警告音.....137

お

オートアラーム.....89
オートエアコン.....366
オートマチックハイビーム（AHB）229
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）.....223
オープナー
給油扉.....237
バックドア.....151, 152
ボンネット.....408
オープントレイ.....380

お子さまを乗せるとき.....41
ウインドウロックスイッチ.....187
お子さまの安全のために.....41
キーの電池.....426
シートヒーターに関する警告.....374
シートベルトの着用.....29, 30
チャイルドシート.....42
チャイルドシートの取り付け.....42
チャイルドプロテクター.....149
発炎筒の取り扱いに関する警告.....436
バックドアに関する警告.....150
パワーウインドウに関する警告.....186
オドメーター／トリップメーターディスプレイ.....99, 107
表示切りかえボタン.....99, 107
表示項目.....99, 107

か

カーテンシールドエアバッグ.....34
カードホルダー.....379
カーペット.....405
洗浄.....405
フロアマットの取り付け方.....26
外気温度表示.....97, 102
回生ブレーキ.....82
外装の電球（バルブ）.....429, 430
交換要領.....429, 430
買い物フック.....387
ガス欠になったとき.....85
カップホルダー.....378
カメラ
前方カメラ.....241
トヨタチームメイト アドバンストパーク.....326
白線認識用カメラ（LTA）.....256
白線認識用カメラ（LDA）.....261
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....367
ガレージジャッキ.....410
冠水路走行.....197
寒冷時の運転.....361

き

キー.....128
キーナンバープレート.....128
キーの構成.....128
キーレスエントリー.....130, 153
キーをなくした.....471
デジタルキー.....131
電子キー.....128
電池が切れた.....425
ハイブリッドシステムが始動できない469
メカニカルキー.....130
ワイヤレスリモコン.....130
キーレスエントリー
スマートエントリー&スタートシステム.....153
ワイヤレスドアロック.....130
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）..194

給油
給油のしかた....236
緊急時シートベルト固定機構.....30, 32
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）
.....470
緊急時の対処
キーの電池が切れた....425
キーをなくした....471
警告灯がついた....445
警告メッセージが表示された....452
けん引....439
故障したときは....434
車中泊が必要なときは....438
車両を緊急停止する....436
水没したときは....437
ハイブリッドシステムが始動できない469
発炎筒....435
パンクした....459
緊急停止システム....87
緊急ブレーキシグナル....348

く

区間距離計（トリップメーター）..... 99, 107
駆動用電池....84
警告メッセージ....87
充電について....82
清掃....421
手入れ....421
搭載位置....84
冷却用吸入口....87
曇り取り
フロントガラス....367
ミラーヒーター....367
リヤウインドウデフォッガー....367
クラクション（ホーン）....180
クリアランスソナー....294
警告灯....449
操作....295
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ....221
電球（バルブ）の交換....430, 431
クリップ
フロアマット....26
クルーズコントロール....284
レーダークルーズコントロール....276
警告灯....449
グローブボックス....378

け

警音器（ホーン）....180
計器類（メーター）....97, 102
警告灯....93, 445
運転支援情報表示灯....449
ABS &ブレーキアシスト....446
SRS エアバッグ....446
LTA 表示灯....448
LDA 表示灯....448
エンジン....446
クリアランスソナー OFF 表示灯....449
クルーズコントロール表示灯....449

高水温 445
シートベルト非着用 447, 448
車高調整表示灯 450
充電 446
スリップ表示灯 450
ドライブスタートコントロール 447
燃料残量 447
パーキングブレーキ表示灯 450
ハイブリッドシステム過熱 445
パワーステアリング 447
PCS 450
PDA 表示灯 448
ブレーキ 445
ブレーキオーバーライドシステム 447
ブレーキホールド作動表示灯 450
油圧 446
レーダークルーズコントロール表示灯 449
警告ブザー
SRS エアバッグ 446
LDA（レーンディパーチャーアラート） 261, 448
LTA（レーントレーシングアシスト） 256, 448
エンジン 446
休憩提案機能（LDA） 263
クリアランスソナー 449
クルーズコントロール 449
高水温 445
シートベルト非着用 447, 448
衝突警報 247
接近警報（レーダークルーズコントロール） 281
低速時加速抑制 249
手放し運転警告（LTA） 258
手放し運転警告（LDA） 263
手放し運転警告（PDA） 270
ドライブスタートコントロール 447
パーキングブレーキ未解除走行時 217
ハイブリッドシステム過熱 445
パワーステアリング 447
半ドア 135, 154
半ドア走行 137
PDA（プロアクティブドライビングアシスト） 448
プリクラッシュセーフティ 450
ブレーキ 445
ブレーキオーバーライドシステム 447
ブレーキホールド 450
ボンネット開 137
窓開 186
油圧 446
リバース 207, 212
リヤシートリマインダー 136
レーダークルーズコントロール 449
警告メッセージ 452
化粧ミラー（バニティミラー） 384
けん引
けん引のしかた 439
フック 441

こ

交換
キーの電池 425
タイヤ 413
電球（バルブ） 429
ヒューズ 427

工具（ツール）.....414, 460
降車オートロック機能.....134
後席用サンシェード.....386
航続可能距離.....102, 111
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....431
高電圧部位.....84
コーションラベル.....84
子供専用シート
取り付け方.....43
小物入れ.....380
コンセント.....389
使用できないときは.....397
コンライト（自動点灯・消灯装置）.221

さ

サードシート.....169
サービスプラグ.....84
サイドエアバッグ.....34
サイド方向指示灯.....214
電球（バルブ）の交換.....430
方向指示レバー.....214
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた.....183
操作.....182
ブラインドスポットモニター（BSM）289
ミラーヒーター.....367
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）
.....303
サンシェード.....386
サンバイザー.....384

し

シート.....159, 160, 165, 169
シートアレンジ.....173
正しい運転姿勢.....27
チャイルドシート.....42
調整.....159, 160, 165, 169
手入れ.....405
ヘッドレスト.....170
シートアレンジ.....173
シートヒーター.....373
シートベルト.....29
お子さまの着用.....29, 30
緊急時シートベルト固定機構.....30, 32
正しく着用するには.....30
着け方.....31
着け方、はずし方.....30
手入れ.....405
妊娠中の方の着用.....29
はずし方、格納のしかた.....31
非着用警告灯.....447, 448
シートベルト非着用警告灯....447, 448
シートベルトプリテンショナー.....32
機能.....32
プリテンショナー警告灯.....446
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....86
室内灯.....375
始動のしかた.....200
シフトポジション.....207, 210
シフトレバー.....207, 210
シフトポジションの切りかえ....207, 210
操作.....207, 210
リバース警告ブザー.....207, 212

締め付けトルク（ホイール）.....417
車高調整表示灯
PCS 警告灯 450
車中泊が必要なときは.....438
ジャッキ
ガレージジャッキ.....410
車載ジャッキ.....414
ジャッキハンドル 414
車幅灯.....221
電球（バルブ）の交換.....430, 431
ランプスイッチ.....221
車両情報表示 113, 119
車両接近通知装置 83
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには.....436
充電用 USB 端子.....385
収納装備.....377
瞬間燃費.....111, 117
初期化
パワーウインドウ.....185
パワースライドドア.....144
助手席シートベルト非着用警告灯 ...447
助手席ターンチルトシート.....160

す

水温計.....97, 102
スイッチ
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....278
アダプティブハイビームシステム.....226
EV ドライブモード.....205
イグニッション.....200
ウインドウロック.....187
ウォッシャー.....231, 234
LTA（レーントレーシングアシスト）.258
オートマチックハイビーム.....229
オートマチックハイビームスイッチ ...229
クルーズコントロール 284
シートヒーター.....373
ステアリングヒーター 373
走行支援（レーダークルーズコントロール）.....278
走行支援モード選択（レーダークルーズコントロール）.....278
ドアミラー.....182
ドアロック.....137
ドライブモードセレクト 347
パーキングブレーキ.....214
ハザードランプ.....435
バックドアオープン 152
パワーウインドウ.....185
パワースイッチ.....200
パワースライドドア 140
パワースライドドアオフ 149
非常点滅灯（ハザードランプ）.....435
表示切りかえ.....99, 107
VSC OFF.....349
ブレーキホールド.....218
フロントウォッシャー 231
フロントワイパー.....231
方向指示レバー.....214
ホーン（警音器）.....180
メーター操作.....110, 117
ランプ 221
リヤウインドウデフォッガー.....367
リヤウォッシャー.....234
リヤワイパー.....234
レーダークルーズコントロール.....278
ワイパー 231, 234

スーパー UV カット.....405
スターター
スターターが回らない.....469
ハイブリッドシステムの始動.....200
ステアリング
ステアリングヒーター.....373
ステアリングスイッチ.....388
ステアリングヒーター.....373
ステアリングホイール（ハンドル）.180
位置調整.....180
メーター操作スイッチ.....110, 117
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル.....348
電球（バルブ）の交換.....430
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....361
スピードメーター.....97, 102
スマートエントリー&スタートシステム.....153
アンテナの位置.....153
緊急始動機能.....470
警告ブザー.....154
警告メッセージ.....154
作動範囲.....154
節電機能.....155
電波がおよぼす影響について.....158
ドアの解錠・施錠.....134, 151
ハイブリッドシステムの始動.....200
バックドアの施錠・解錠.....151
スモールランプ（車幅灯）.....221
電球（バルブ）の交換.....430, 431
ランプスイッチ.....221
スライドドア.....138
イージークローザー.....142
操作.....140
パワースライドドア.....140

せ

清掃.....402, 405
アルミホイール.....403
外装.....402
シートベルト.....405
内装.....405
ホイールキャップ.....403
レーダー.....242
制動灯
緊急ブレーキシグナル.....348
電球（バルブ）の交換.....430
セカンダリーコリジョンブレーキ（SCB）.....348
セカンドシート.....165
積算距離計（オドメーター）.....99, 107
セキュリティインジケーター.....88, 89
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....281
センサー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....291
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....261
LTA（レーントレーシングアシスト）.256
後側方レーダー.....241
前方レーダー.....241
ドアハンドル.....134
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....291
BSM（ブラインドスポットモニター）291
ライトセンサー.....222
レーダーセンサー.....241
洗車.....402

前照灯（ヘッドランプ）.....221
オートレベリングシステム 223
電球（バルブ）の交換.....430
マニュアルレベリングシステム.....224
ライトセンサー.....222
ランプ消し忘れ防止機能 222
ランプスイッチ.....221

そ

走行距離.....114, 119
走行時間.....114, 119
走行情報表示 111, 117
走行モード（ドライブモード）.....347
速度計（スピードメーター）.....97, 102
ソフトウェアアップデート.....238

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
.....214
電球（バルブ）の交換.....430
方向指示レバー.....214
ターンチルトシート 160
調整 160
タイヤ.....411
空気圧 418
交換 411
締め付けトルク.....417
チェーン 361
点検 411
パンク応急修理キット 459
パンクしたときは.....459
冬用タイヤ 361
ローテーション（位置交換）.....413
タイヤチェーン 361

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....361
チャイルドシート 42
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け60
シートベルトでの固定 59
選択方法 42
チャイルドプロテクター.....149
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
.....214
操作 214
パーキングブレーキ表示灯.....450
ブレーキ警告灯 445
未解除走行時警告ブザー 217

つ

ツール（工具）.....414

て

TRC
（トランクションコントロール）.....348
T-Connect エントリー（22）.....64
ディスプレイ
マルチインフォメーションディスプレイ
.....109, 116
手入れ 402, 405
アルミホイール.....403
外装 402
シートベルト.....405
内装 405
ホイールキャップ.....403
レーダー 242
テールランプ（尾灯）.....221
電球（バルブ）の交換 430
ランプスイッチ.....221

デジタルキー.....131
デッキフック.....381
デッキボード.....381
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....367
電気モーター.....81, 84
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....429, 430
電子キー.....128
作動範囲.....154
節電機能.....155
電池が切れた.....471
電池交換.....425
天井サーキュレーター.....372
電池交換（キー）.....425

と

ドア.....134
降車オートロック機能.....134
スマートエントリー&スタートシステム.....153
スライドドア.....138
チャイルドプロテクター.....149
ドアガラス.....185
ドアロックスイッチ.....137
バックドア.....150
ロックレバー.....137
ワイヤレスリモコン.....134
ドアミラー
格納のしかた.....183
操作.....182
ブラインドスポットモニター（BSM）289
ミラーヒーター.....367
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....303
盗難防止装置
イモビライザーシステム.....88
オートアラーム.....89
時計.....97, 100, 102, 107
トップテザーアンカレッジ.....62
Toyota Safety Sense.....240
RSA(ロードサインアシスト).....273
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....226
AHB（オートマチックハイビーム）.....229
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....261
LTA（レーントレーシングアシスト）.256
クルーズコントロール.....284
ソフトウェアアップデート.....238
ドライバー異常時対応システム.....287
発進遅れ告知機能.....271
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....247
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....266
レーダークルーズコントロール.....276
トヨタチームメイト アドバンストパーク.....323
縦列出庫機能.....337
縦列駐車機能.....335
並列前向き・バック出庫機能.....333
並列前向き・バック駐車機能.....331
メモリ機能.....339
ドライバー異常時対応システム.....287
ドライブスタートコントロール.....197
急発進の抑制制御.....197
後退速度の抑制制御.....197
ドライブモードセレクトスイッチ...347
トラクションコントロール（TRC）348

トランスミッション
操作 207, 210
トランスミッション (エレクトロシフトマチックタイプ) 210
トランスミッション（ストレートタイプ） 207
シフトロックシステム 208
トリップメーター 99, 107
トルク配分 114

な

内装
収納装備 377
手入れ 405

に

荷物
積むときの注意 198
ラゲージルーム内装備 381

ね

燃費
エネルギーモニター 122
瞬間燃費 111, 117
平均燃費 111, 117
燃費画面 122
燃料
給油 236
燃料計 97, 102
燃料残量警告灯 447
燃料計 97, 102

は

パーキングサポートブレーキ 312
操作 313
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 320
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者） 321
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物） 316
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物） 316
パーキングブレーキ 214
操作 214
冬季の注意 362
パーキングブレーキ表示灯 450
ブレーキ警告灯 445
未解除走行時警告ブザー 217
パーソナルランプ 375, 376
排気ガス 40
ハイビーム（ヘッドランプ） 221
アダプティブハイビームシステム 226
オートマチックハイビーム 229
電球（バルブ）の交換 430
ランプスイッチ 221
ハイブリッドシステム 81
EV ドライブモード 205
運転のアドバイス 359
エネルギーモニター 122
回生ブレーキ 82
ガス欠になったとき 85
緊急始動機能 470
緊急時の停止方法 436
緊急停止システム 87
駆動用電池冷却用吸入口 87

警告灯 445
警告メッセージ 87
高電圧部位 84
サービスプラグ 84
事故が発生したとき 86
始動方法 200
車両接近通報装置 83
充電 82
注意 84
特徴 81
特有の音と振動 83
ハイブリッドシステムインジケーター 97, 102
パワー（イグニッション）スイッチ ... 200
メンテナンス・修理・廃車するとき 83

ハイブリッドシステムインジケーター 97, 102

ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 430

ハザードランプ（非常点滅灯） 435
スイッチ 435
電球（バルブ）の交換 430, 431

挟み込み防止機能
パワーウインドウ 185
パワースライドドア 144

発炎筒 435

バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 431

バックドア 150
バックドアハンドル 152

バックドアオープナー 152

発進遅れ告知機能 271
操作 272

バッテリー
警告灯 446

バッテリー（駆動用電池）
充電について 82
搭載位置 84
冷却用吸入口 87

バッテリー（補機バッテリー）
搭載位置 408

バニティ（化粧用）ミラー 384

バニティミラーランプ
装備について 384

バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 430

パワーウインドウ 185
ウインドウロックスイッチ 187
閉めることができないときは 185
初期化 185
操作 185
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ... 186
挟み込み防止機能 185
巻き込み防止 185

パワーコントロールユニット 84

パワースイッチ（イグニッションスイッチ） 200
自動電源 OFF 機能 204
車両を緊急停止する 436
ハイブリッドシステム始動のしかた ... 200
モード切りかえ 203

パワーステアリング
警告灯 447

パワースライドドア
開け方 140
挟み込み防止機能 144
パワードアオフスイッチ 149
ハンズフリーパワースライドドア 140

パンク応急修理キット 460

パンクした
タイヤパンク応急修理キット装着車...459
番号灯（ライセンスプレートランプ）.....221
ランプスイッチ.....221
ハンズフリーパワースライドドア...140
ハンドル（ステアリングホイール）.180
位置調整.....180
メーター操作スイッチ.....110, 117

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....348
ヒーター
シートヒーター.....373
ステアリングヒーター.....373
フロントオートエアコン.....366
ミラーヒーター.....367
非常時給電システム.....389
使用できないときは.....397
非常点滅灯（ハザードランプ）.....435
スイッチ.....435
電球（バルブ）の交換.....430, 431
尾灯（テールランプ）.....221
電球（バルブ）の交換.....430
ランプスイッチ.....221
ヒューズ.....427
表示切りかえボタン.....99, 107
表示灯.....94
日よけ（サンバイザー）.....384
ヒルスタートアシストコントロール348

ふ

VSC
（ビークルスタビリティコントロール）348
ブザー
休憩提案機能（LDA）.....263
クリアランスソナー.....300
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....281
手放し運転警告（LTA）.....258
手放し運転警告（LDA）.....263
手放し運転警告（PDA）.....270
パーキングブレーキ未解除走行時警告217
半ドア警告.....135, 154
半ドア走行時警告.....137
ブレーキホールド.....450
窓開警告.....186
リバース警告.....207, 212
フック
買い物フック.....387
けん引フック.....441
デッキフック.....381
フロアマット固定フック.....26
フューエルメーター.....97, 102
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた.....236
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....361
冬用タイヤ.....361
ブラインドスポットモニター（BSM）.....289
操作.....291
プラスサポート（販売店装着オプション）.....354

プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能 247
操作 255
PCS 警告灯 450
ブレーキ
回生ブレーキ 82
緊急ブレーキシグナル 348
警告灯 445
パーキングブレーキ 214
ブレーキ警告灯 445
ブレーキホールド 218
ブレーキアシスト 348
機能 348
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 194
ブレーキホールド 218
プロアクティブドライビングアシスト（PDA） 266
警告灯 448
操作 269
フロアマット 26
フロントインテリアランプ 376
フロントエアコン 366
フロントシート 159
シートヒーター 373
正しい運転姿勢 27
手入れ 405
フロントドア 134
フロント方向指示灯 214
電球（バルブ）の交換 430
方向指示レバー 214

へ

平均車速 114, 119
平均燃費 111, 117
ヘッドランプ 221
電球（バルブ）の交換 430
マニュアルレベリングシステム 224
ライトセンサー 222
ランプ消し忘れ防止機能 222
ランプスイッチ 221
ヘッドランプオートレベリングシステム 223
ヘッドレスト 170

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 413
ホイールナットレンチ 414
方向指示灯 214
電球（バルブ）の交換 430
方向指示レバー 214
ホーン（警音器） 180
補機バッテリー
搭載位置 408
保証 10
補助確認装置 183
ボトルホルダー 379
ボンネット
開け方 408
警告ブザー 137

ま

マルチインフォメーションディスプレイ 109, 116
EV 走行時間表示 113, 119
運転支援機能情報表示 113, 119
エコアクセルガイド 112, 118
エコジャッジ 112, 118
エネルギーモニター 119, 122
LDA（レーンディパーチャーアラート） 265
LTA（レーントレーシングアシスト） 260
クルーズコントロール 284
警告メッセージ 452
車両情報表示 113, 119
設定 114, 120
走行情報表示 111, 117
時計 100, 107
ドライブインフォメーション 114, 119
燃費グラフ 111, 117
メーター操作スイッチ 110, 117
メニューアイコン 110, 116
4WD 作動状態表示 114, 119
レーダークルーズコントロール 278

み

ミラー
インナーミラー 181
ドアミラー 182
バニティミラー 384
補助確認装置 183
ミラーヒーター 367

め

メーター
計器類 97, 102
警告灯 93, 445
警告メッセージ 452
照度調整 101, 108
設定 114, 120
時計 97, 102
表示灯 94
マルチインフォメーションディスプレイ 109, 116
メーター操作スイッチ 110, 117
メーター照度調整 101, 108
メカニカルキー 130
メニューアイコン 110, 116

も

モーター（電気モーター） 84
モーターでの走行（EV ドライブモード） 205

ゆ

ユーティリティホール 382

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）.....221
ランプスイッチ.....221
ラゲージボックス.....382
ラゲージルーム.....381
デッキボード.....381
ラゲージボックス.....382
ラゲージルーム内の装備.....381
ラゲージルームランプ.....152, 375
ランプ
アダプティブハイビームシステム.....226
インテリアランプ.....375
オートマチックハイビーム.....229
室内灯.....375
電球（バルブ）の交換.....429
パーソナルランプ.....376
非常点滅灯（ハザードランプ）.....435
ヘッドランプ（前照灯）.....221
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....214
ライトセンサー.....222
ランプ消し忘れ防止機能.....222
ランプ消し忘れ防止機能.....222

り

リバース連動機能.....234
リヤインテリアランプ.....375, 376
リヤウインドウデフォッガースイッチ.....367
リヤカメラディテクション（RCD）308
操作.....309
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....303
操作.....304
リヤシート
リヤシートヒーター.....373
リヤ席シートベルト非着用警告灯...448
リヤ方向指示灯.....214
電球（バルブ）の交換.....431
方向指示レバー.....214

る

ルームミラー（インナーミラー）.....181

れ

冷却水
冬の前の準備.....361
レーダークルーズコントロール.....276
カーブ速度抑制機能.....281
警告灯.....449
接近警報.....281
レーダー.....241
レーンディパーチャーアラート（LDA）.....261
警告灯.....448
操作.....263
レーントレーシングアシスト（LTA）.....256
警告灯.....448
操作.....258
レバー
シフト.....207, 210
方向指示.....214
ボンネット解除.....408
ロック（ドア）.....137

ろ

ロードサインアシスト (RSA).....273
ロック
ウインドウロック.....187
スマートエントリー&スタートシステム.....153
スライドドア.....138
チャイルドプロテクター.....149
バックドア.....150
フロントドア.....134, 137
ワイヤレスリモコン.....130

わ

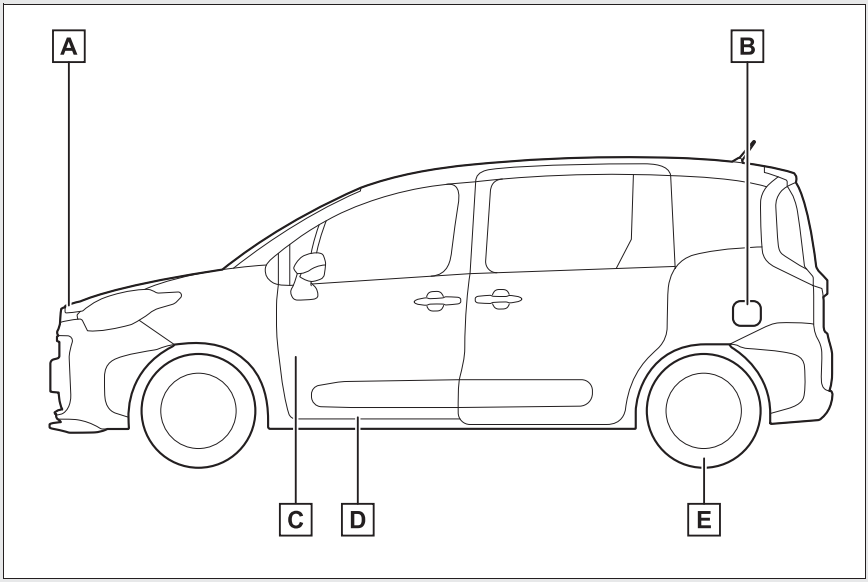
ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....411
フロント.....231
リヤ.....234
ワイパブレード（寒冷地用）.....362
ワイヤレスリモコン.....130
作動の合図.....135
操作.....130
電池の交換.....425
半ドア警告ブザー.....135
ワックス.....402

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

・オーディオ
・パノラミックビューモニター
・ハンズフリー
・T-Connect

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.408）

B 給油口（→P.236）

C ボンネット解除レバー（→P.408）

D 給油口オープナー（→P.236）

E タイヤ空気圧（→P.490）

燃料の容量（参考値）	40L
燃料の種類	P.486
タイヤが冷えているときの空気圧	P.490
エンジンオイル容量（参考値）	P.486
エンジンオイルの種類	P.486

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォーム
によるお問い合わせ

チャットによる
お問い合わせ

手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

TOYOTA

Publication No.M52K42V
01-2508
シエンタ(HEV)